



ACTi NVR 3.0

システム管理者向けマニュアル

バージョン 3.0.02

2013/02/05



このマニュアルについて

対象読者

このマニュアルは、ACTi NVR 3.0 監視システムのインストールと設定を担当する**システム管理者**向けです。読者は、IP 監視システムの統合に関する基礎知識を擁し、かつすべてのタスクを実行できる管理権限を有することが必要とされます。

このソフトウェアおよび本書に関する更新またはリリース情報については、ACTi 社 Web サイト：<http://www.acti.com/nvr3> のビデオ管理システムのセクションをご確認ください。

概要

このマニュアルには、システムのインストール計画、インストール、セットアップおよびビデオ ストリーミング装置の構成に必要な情報が記載されています。本書は主に次の 3 つのセクションから構成されています。

- はじめに**では、最低動作環境、ライセンス登録、バックアップ/復元手順など、インストールを開始する前に知っておくべき準備知識を提供します。
- システムへのログイン**では、正常にインストールした後、すぐにシステムにログインする方法について説明します。
- システムのセットアップ**では、システムへのデバイス追加、デバイス設定の構成、録画のスケジュール設定、イベント管理、ストレージ管理、グループ/ユーザー管理およびライブ ビューのセットアップなどのタスクについて説明します。各主要タスクについて、操作原則の簡単な説明、ステップごとの説明、および正確にできているかどうかの簡単なチェック方法が記載されています。

関連ドキュメント

このマニュアルはシステムのインストールと構成に関するタスクを遂行することに重点を置いているため、NVR サーバー システムを操作する**エンド ユーザー**向けの操作方法に関する情報は非常に限られています。 モニタリングや再生など NVR アプリケーションの使用に関する説明が必要な場合は、最新版の ACTi NVR 3.0 ユーザー マニュアルを次の ACTi 社 Web サイトから入手してください。

<http://www.acti.com/nvr3>

テクニカル サポート

システムのインストールに関してご質問がある場合、弊社**カスタマー ヘルプ デスク** プラットフォーム <http://www.acti.com/CHD> から弊社技術者にお気軽にお問い合わせください。

本マニュアルで使用する凡例

次に本マニュアルで使用する凡例を示します。

- **太字**: 太字の活字書体は、キーワード、NVR の主要機能、またはセクションや欄のタイトルに使用されます。
- *斜体*: 斜体の活字書体は、ファイル名または場所を示すパスに使用されます。
- 下線: 下線の活字書体はドキュメント名またはハイパーリンクに使用されます。
- 「**太字**」: かっこで括られた太字はボタンやメニュー、オプション項目の名前を示します。

注意事項は次のボックス内に記載されています。ボックスの各タイプが異なる目的またはシステムにおける重要度の違いを表しています。

重要な注意事項

このボックス内に記載されているのは**重要な注意事項**です。この注意事項は、特定の機能を正しく動作させるために、またはシステムに破損を生じる可能性がある潜在的な問題を防止するために重要です。この注意事項をお読みになり、必ず指示に従ってください。

注意事項

このボックス内に記載されているのは**注意**です。注意事項は、特定の手順に従わないと何が起こるか等、現在の操作について知る必要がある不可欠な情報を示します。

ヒント

このボックス内に記載されているのは**ヒント**です。ヒントは、通常特定の条件に対して、簡単にまたは迅速に目的を達するための別の方法を提示します。

法律上の注意事項

免責条項

- 本書に含まれる情報は一般的な情報提供を目的とするものです。ACTi 社は本書に含まれる誤り、または本マニュアルの提供、実施、使用から生じた偶発的、または結果的損害に対して責任を負いません。
- 本書に含まれる情報は予告なく変更されることがあります。

著作権

Copyright ©2003-2013 ACTi Corporation All Rights Reserved.

商標

- ACTi Connecting Vision およびそのロゴ  **ACTi** Connecting Vision は、ACTi 社の登録商標です。
- Microsoft® および Windows® はマイクロソフト社の登録商標です。
本書において使用されるその他一切の製品名または社名は、それぞれの所有者の商標または登録商標である可能性があります。

目次

1 このマニュアルについて 2

対象読者	2
概要	2
関連ドキュメント	3
テクニカル サポート	3
本マニュアルで使用する凡例	4

2 法律上の注意事項 5

免責条項	5
著作権	5
商標	5

3 目次 6

4 概要 11

ACTi NVR サーバー / クライアント アーキテクチャ	11
--------------------------------------	----

5 システム インストール チェック リスト 12

6 はじめに 14

最低動作環境	14
前提条件	16
1. 適切なシステム仕様	16
2. 古い ACTi NVR 2.X サーバーのアンインストール	16
3. ストレージ ドライブ上の領域 20 GB 以上	16
4. ポート 80 が利用可能	16
5. Windows で UAC を無効にする	16
Windows 7 で UAC を無効にする	16

Windows Vista で UAC を無効にする	17
サーバーのインストール	18
ソフトウェアのインストール	18
ワークステーションのインストール	20
ソフトウェアのインストール	20
ライセンスおよびアクティベーション	21
アクティベーションの作用	21
オンライン アクティベーションの流れ	21
オフライン アクティベーションの流れ	22
ライセンスのアクティベーション	23
ライセンスの検証	24

7 システムへのログイン 25

Internet Explorer 経由による NVR 3.0 へのアクセス	25
ローカル クライアントを使用したサーバー コンピュータから	25
リモートのクライアント コンピュータから	25
ActiveX コントロール インストール要求の承諾	25
ログイン失敗のトラブルシューティング	26
状況 1: ブラウザ経由で NVR サーバーにアクセスできない	26
状況 2: ログイン後、Active X コントロールをインストールできない	27
ログイン	29
アカウントとパスワードの入力	29
UI 言語の変更	29
ログイン情報を記憶する	29
自動ログインの設定	29
NVR3 ワークステーションから NVR 3.0 サーバーにアクセスする	30
ログイン	30
サーバー IP とサーバー ポート	30
初期画面の選択	30

8 システムのセットアップ 31

セットアップ ウィザード	31
システムの設定	32
ストレージ	32
NVR メイン画面	34
ライブ ビュー	36

再生.....	34
セットアップ	34
デバイスの追加	35
ローカル エリア ネットワーク内でのデバイスの検索	36
WAN または他のローカル エリア ネットワーク上にあるデバイ	
スの追加.....	37
基本設定の属性	38
デバイスのステータス	39
ステータス アイコンの説明	39
複数のデバイスの管理	40
基本接続設定の変更.....	40
デバイスの削除.....	40
デバイス間または追加した新規デバイスへの設定のコピー	41
マルチチャンネル デバイスからのビデオ ストリームの追加	42
デバイス設定の構成	43
ストリーム間の切り替えと stream 2 のライブ ビュー.....	43
ビデオ形式の設定	43
ビデオ設定の属性	43
イベント録画モードのフレーム レートを設定することによるスト	
レージの節約	44
フレーム レートを調整したイベント録画の活用方法	45
画像の微調整：明度/コントラスト/彩度/色相	46
ビデオ調整の属性	47
モーション設定の構成	47
調整の属性	48
PTZ デバイスの構成	49
調整の属性	50
ライブ PTZ 操作の実行方法	51
PTZ プリセット ポイントの設定.....	53
PTZ プリセット ツアーの設定	54
スケジュール録画	56
録画ファイルのプロパティ構成.....	56
属性の説明	56
スケジュールの設定.....	58
時間設定クイック ボタンを使用したワン クリックによる時間の設定	59
特定の曜日のロック	60
既存のスケジュールを他のデバイスにコピーする	61
録画スケジュール全体の表示	62

イベント管理	63
NVR のイベント処理方法	63
イベント ルールの編集方法	64
イベント ルールの管理	67
イベント ルールの削除	67
イベント ルールに対する SMTP 設定のセットアップ方法	68
イベント ルールに対する FTP 設定のセットアップ方法	69
システム ログ	71
検索時間の定義	71
ログ タイプの選択	72
ログの見方	72
ログのエクスポート	73
ストレージ管理	74
録画フォルダー名の変更	74
システム ログのライフサイクル設定	74
ハード ドライブ録画ファイル削除ルールの設定	74
ユーザー グループ/ ユーザーの管理	76
概要	76
ユーザー グループ	77
ユーザーの追加	79
ドメイン ユーザーの管理	81
ビューのカスタマイズ	82
ステップ 1: 新しいビューの作成	83
ステップ 2: 編集モードへの切り替え	83
ステップ 3: レイアウトの選択	83
ステップ 4: ビデオ ソースの追加	84
ステップ 5: マップの追加	84
ステップ 6: マップへのデバイス追加	86
ステップ 7: チャンネル サイズとレイアウトの調整	87
ステップ 8: ビューの保存	87
ステップ 9: デフォルト ビューの設定	88
デフォルト ホットスポット チャンネルの設定	88
ビューの管理	88
ビュー リンクの設定	89
ビュー巡回の設定	89
ライブ ビュー パフォーマンス向上のヒント	91
Windows に NVR ライブ ビューを自動起動させる	92
システム言語のカスタマイズ	93

ログイン画面の言語リスト	93
ディスプレイの設定	96
ビデオ & スナップショット エクスポートの設定	97
ジョイスティック 98	
ジョイスティックのインストール方法	98
サーバー ソフトウェアのアンインストール	99
ステップ 1 : NVR 3.0 サーバー プログラムの削除	99
ステップ 2 : NVR 3.0 サーバー プログラム フォルダーの削除 (オプション)	100
ステップ 3 : 録画フォルダーの削除 (オプション)	100
システム データのバックアップ	101
ステップ 1 : システム設定のバックアップ	101
ステップ 2 : 録画ファイル フォルダーのバックアップ (オプション)	102
ステップ 3 : 録画ファイル インデックス フォルダーのバックアップ (オプション)	102
ステップ 4 : システム ログ (オプション)	102
システム データの復元	103
システムの移行	104
NVR 2.3 から NVR 3.0 への移行	104
NVR 2.3 と NVR 3.0 サーバーのデータ互換性	104
別のサーバー コンピュータへの NVR 3.0 の移行	105

概要

ACTi NVR 3.0 は、分散型ネットワーク ビデオ監視ソリューションに完全な機能性を提供する Windows ベースのソフトウェアです。このソフトウェアは、ローカルまたはリモート ネットワークから最大 **64** 台の ACTi ビデオ ストリーミング デバイスの中央一元管理、リアルタイムのモニタリングと録画をサポートしており、ルールベースのサービスで複数のスケジュールやイベントをトリガーすることができます。

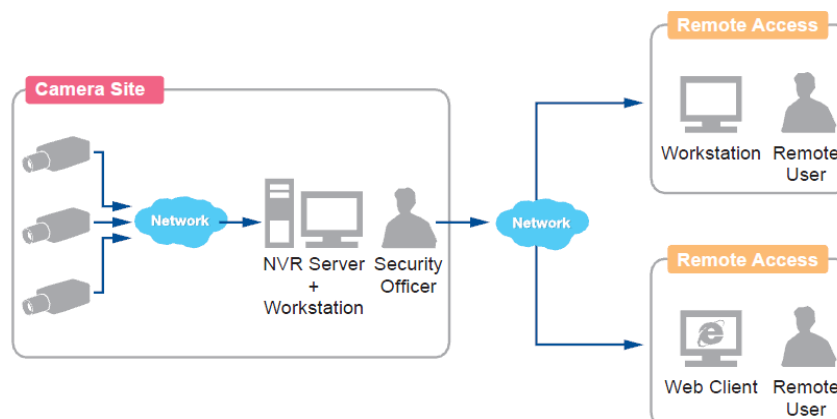
ACTi NVR サーバー / クライアント アーキテクチャ

ACTi NVR 3.0 は典型的な Web ベースのサーバー/クライアント システムです。ビデオ監視システム アーキテクチャにおいて、**サーバー**はビデオ管理サービス プロバイダとして停止しないサービスをクライアントに提供するため、年中無休を目指して稼働しています。一方**クライアント**は**サーバー** プログラムと同じコンピュータにある（ローカル）、または別のコンピュータにある（リモート）場合があります、サーバーに対してビデオ ストリームの監視や録画の再生をリクエストします。**サーバー**は（インストールされた）**サーバー コンピュータ**が起動されると自動的に動作を開始し、管理者によるログインの必要なくバックグラウンドで動作します。TCP/IP ネットワーク上で HTTP プロトコルを通してリクエストに応じ複数の**クライアント**に対してサービスを提供します。

NVR 3.0 システムには 2 つのクライアントのタイプがあります。**Web クライアント**と**ワークステーション クライアント**です。**Web** ブラウザから、あるいはワークステーションからの接続を問わず、ユーザーは同じユーザー インターフェースと NVR 機能を利用できます。

- **Web クライアント**: NVR サーバーにアクセスするための Web バージョンのインターフェースです。クライアント プログラムを一切インストールする必要なくクライアントとなることができます。NVR サーバーへのログインは、IE ブラウザ経由で Web サイトを開くだけです。

- **ワークステーション クライアント**: ブラウザを使用せずに NVR サーバーにアクセスするためのクライアント アプリケーションです。ワークステーションにはユーザーと NVR サーバー間のインターフェースを提供する一連のプログラムが含まれています。



システム インストール チェック リスト



インストール前			
項目	タスク	説明	参照
1	☐ ソフトウェア ライセンスの準備	ACTi NVR 3.0 には 16 チャンネルの無料ライセンスが付属しています。追加チャンネルについては、システム サプライヤよりライセンスをご購入の上、アクティベーションを行う前にライセンス情報の準備を整えてください。	アクティベーションの作用 ページ 21
2	☐ サーバー コンピュータの準備	コンピュータのハードウェア仕様、OS および IE ブラウザのバージョンがソフトウェア要件を満たしていることを確認してください。	最低動作環境 ページ 14
3	☐ サーバー コンピュータに対する固定 IP の割り当て	NVR 3.0 サーバーで使用するためにはサーバー コンピュータに固定 IP を割り当てる必要があります。	
4	☐ Active Directory のセットアップ (オプション)	Active Directory サービス経由でユーザーを追加するには、ドメインで Active Directory サーバーが利用可能であることを確認してください。	
インストール			
項目	タスク	説明	参照
5	☐ ACTi NVR 3.0 サーバー ソフトウェアのインストール	説明に従い、サーバー コンピュータにソフトウェアをインストールします。	サーバーのインストール ページ 17
6	☐ 正常なインストールの確認	NVR にログインしてログイン ページが表示されるか確認します。(サーバー コンピュータで、ブラウザの URL バーに http://localhost/ と入力します)。	システムへのログイン ページ 26
7	☐ ライセンスのアクティベーション (オプション)	デバイス追加用に必要な数のチャンネルを準備するため、ライセンス キーのアクティベーションを行います。	
デバイスの構成			
項目	タスク	説明	参照
8	☐ デバイスの接続と使用準備	全デバイスのインストールと基本設定 (IP アドレス、ユーザー名、パスワード) を完了し、外付けハードウェア デバイス (アラームやセンサー) を必要に応じて接続します。	
9	☐ NVR クライアント PC への外付けデバイスの接続	ジョイスティックやマイクなどの外付けハードウェア デバイスをクライアント コンピュータに接続します。	ジョイスティック ページ 98
システムのセットアップ			
項目	タスク	説明	参照
10	☐ ストレージ設定の構成	録画用のディスクを有効にし、容量が充分であるか確認します。	ストレージ管理 ページ 74
11	☐ NVR サーバーへのデバイス追加	デバイスを追加し、カメラの設定 (カメラ名、ビデオ/モーション/PTZ 設定) を構成します。	デバイスの追加 ページ 35、 デバイス設定の構成 ページ

NVR 3.0 システム管理者向けマニュアル

				43
12	☐	スケジュール録画の構成	デフォルトで、各デバイスは追加されるとすぐに常時録画を開始します。各デバイスに対して録画スケジュールを設定し、デバイスの録画をディスクに何日分保存するかを設定します。	スケジュール録画 ページ 56
13	☐	電子メールおよび FTP 設定の構成	電子メールまたは FTP 設定を入力し、NVR サーバーによる電子メール送信およびファイル転送が正常にできるかテストを行います。このステップはイベント処理にこれらの機能を使用する場合必要です。	イベント ルールに 対する SMTP 設定 のセットアップ方法 ページ 68、イベント ルールに対する FTP 設定のセットアップ 方法 ページ 69
14	☐	イベント ルールの構成	イベント ルールを設定します。	イベント ルールの 編集方法 ページ 64
15	☐	ユーザー アカウントとグループの作成	ユーザー グループのアクセス権限とデバイスの許可を構成します。必要なユーザー アカウントを作成します。	ユーザー グループ/ ユーザーの管理 ページ 76

ライブ ビューのセットアップ

項目	タスク	説明	参照
16	☐	ユーザー向けのビュー作成	ビューを作成し、設定（レイアウト スタイルまたは巡回）を構成します。 ビューのカスタマイズ ページ 82

システム設定のバックアップ

項目	タスク	説明	参照
17	☐	システム設定のバックアップを作成します。	将来再インストールが必要な場合や重大なシステム障害に備えて、現在のシステム設定のバックアップ ファイルを作成します。 システム データの バックアップ ページ 101

インストール後の検証

項目	項目	説明	参照
18	☐	ライブ プレビューの基本操作	ユーザー マニュアル
19	☐	スケジュール録画	
20	☐	イベント処理	
21	☐	ユーザー アクセス	
22	☐	再生	
		ユーザーが保存されたレイアウトとプラットフォームの基本操作（例：PTZ コントロールまたは即時再生）でライブ ビューを見ることができるか確認します。	
		スケジュール通りにディスクが録画を実行しているか確認します。	
		想定されたアクション（例：録画、アラーム、メール通知など）がイベントによってトリガーされるか確認します。	
		ユーザーが正しいアカウント/パスワードで NVR にアクセスでき、付与されたユーザー権限に基づいて操作を実行できるか確認します。	
		ユーザーが再生とビデオ検索を実行でき、エクスポート機能で閲覧可能なファイルが指定のフォルダーに生成されるか確認します。	

はじめに

最低動作環境

NVR の性能はハードウェア PC の性能に大きく依存します。下表に適切なハードウェア選択のための基本ガイドラインを示します **(*1)**。最低動作環境は、ほとんどの MPEG4 ストリームを使用するシステムに受け入れ可能な性能を提供します。4 つ以上の H.264 ストリームを使用する監視システムは、良好な性能を確保するために システム推奨仕様 を満たす必要があります。

PC 仕様 (*2)	サーバー + ローカル クライアント PC		サーバー PC のみ	リモート クライアント PC	
チャンネル数 (*3)	1～6	17～64	1～64	1～6	17～64
CPU プロセッサ	Intel Core 2 Quad 2.4GHz	Intel Core i7-920 2.67 GHz	Intel Core 2 Quad 2.4GHz	Intel Core 2 Quad 2.4GHz	Intel Core i7-920 2.67 GHz
RAM	4GB				
ネットワーク	イーサネット (1000 Base-T 推奨)				
ハード ディスク (*4) 領域	最低 40 GB (*5)			ブラウザ クライアント : 最低要件なし	
オペレーティング システム	32/64 ビット版、最新のサービス パックに更新済み (*6): Windows 7、Windows サーバー 2008 (*7)、Windows Vista、Windows サーバー 2003、Windows XP				
ディスプレイ解像度	最低: 1024 X 768				
ブラウザ	32 ビット Internet Explorer 8 および 9				
システム推奨仕様					
O/S:Windows7 (最新のサービス パック)、ブラウザ: Internet Explorer 9 (Web クライアント)、 CPU: Intel Core i7-920 2.67 GHz、RAM:4GB、ディスク領域: 40G、 最低ディスプレイ解像度:1024 X 768、ネットワーク アダプタ: Ethernet 1000 Base-T					

***1** これらの仕様は次のカメラ設定に基づいています。

シングル ストリーム モード → 1280x1024、3Mbps、18fps、MPEG-4

デュアル ストリーム モード → 1280x1024、3Mbps、18fps、H.264 (録画中) ;

640x480、クオリティ: 100、18fps、MJPEG (ライブ ビュー)

***2** PC 動作環境は 32 ビットと 64 ビットの両システム共通です。

***3** 複数チャンネルのライブ ビューでは円滑なパフォーマンスに良好なハードウェアが必要です。多くのチャンネルまたは高解像度ストリーミングの頻繁な使用には、提示された動作環境よりも高度な仕様のコンピュータをご利用いただくことを推奨します。

***4** ローカル ハード ドライブと iSCSI NAS 対応

- *5** NVR がインストールされるディスク ドライブの必要な空き領域は常に少なくとも 40 GB あるようにしてください。ただし、実際に必要な領域はデバイス数、録画及びイベントルール設定によって異なります。適切な値を得るために、ACTi 社のソフトウェア ツール – Storage & Bandwidth Calculator (ストレージ & 帯域幅計算機) を http://www.acti.com/project_planner/ からご利用いただけます。また、ビデオ録画用に別のディスクを使用することも推奨します。
- *6** オペレーション システムに最新のサービス パックが導入されていることを確認してください。
- *7** このバージョンは Windows サーバー 2008 32 ビット システムのみに対応しています。Windows サーバー 2008 64 ビット システムでの NVR 3.0 サーバーの運用については、**カスタマー ヘルプ デスク プラットフォーム** <http://www.acti.com/CHD> から弊社テクニカル サービスにお問い合わせください。

前提条件

次の前提条件はインストールに先立って必要なものです。

1. 適切なシステム仕様

サーバー コンピュータが最低動作環境を満たし、サーバー インストール用の **C ドライブ**がコンピュータに存在することを確認してください。

2. 古い ACTi NVR 2.X サーバーのアンインストール

NVR 3.0 サーバーと NVR 2.X サーバーは同一のサーバー コンピュータ上に共存できません。 システムの移行 に関する説明は 104 ページをご参照ください。

3. ストレージ ドライブ上の領域 20 GB 以上

ストレージ ディスク ドライブに少なくとも 20 GB の記憶領域があることを確認してください (40 GB 推奨) セットアップページ→ストレージ タブで別のディスク ドライブを選択することができます。

4. ポート 80 が利用可能

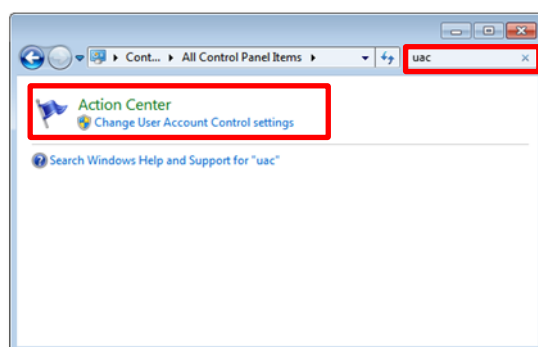
ACTi NVR 3.0 は **HTTP ポート 80** のみをデータ転送に使用します。他のプログラム (例 : TeamViewer または Skype など) がこのポートをすでに使用している場合、設定を変更し、このポートを NVR が使用できるように解放してください。また、このポートを介した接続がファイアウォールまたはウイルス対策ソフトウェアにより許可されていることを確認してください。

5. Windows で UAC を無効にする

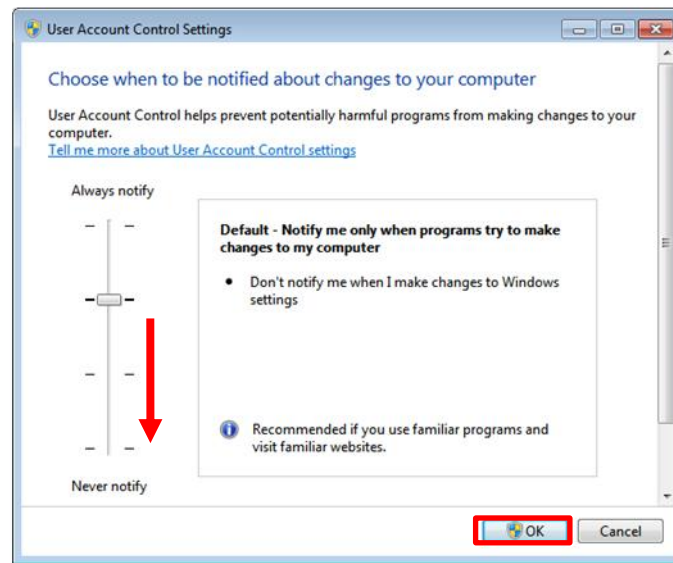
UAC (ユーザー アクセス制御) は、Microsoft Windows Vista および Windows 7 でアクセスを制限するセキュリティ設定です。 NVR を Windows Vista および Windows 7 にインストールする前に UAC を無効にする必要があります。このセキュリティ規則によってアプリケーション コンポーネントおよび特定のプログラム機能のインストールが中断されることがあるためです。Windows コントロール パネルから UAC を無効にすることができます。

Windows 7 で UAC を無効にする

1. Windows コントロール パネルを開き、検索ボックスに「UAC」と入力します。
2. 「ユーザー アカウント制御設定の変更」をクリックします。

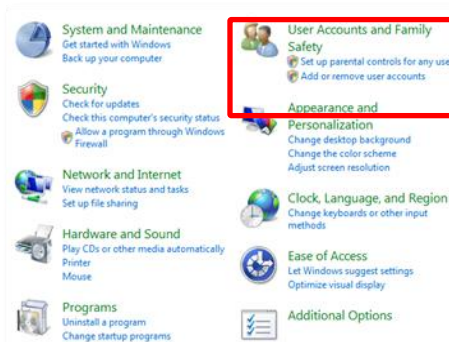


3. スライダを「**Never notify position - 位置を通知しない**」に動かして、「**OK**」をクリックします。 この変更を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。



Windows Vista で UAC を無効にする

1. **Windows** コントロール パネルを開き、「ユーザー アカウントとファミリー セーフティ」をクリックします。



2. アカウントを選択し、「ユーザーアカウント制御の有効化または無効化」を選択します。
3. 「ユーザー アカウント制御 (UAC) を有効にして、お使いのコンピュータをより安全にします」ウィンドウで、「ユーザー アカウント制御 (UAC) を使ってコンピュータの保護に役立たせる」のチェックを外します。「**OK**」をクリックして適用します。この変更を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。

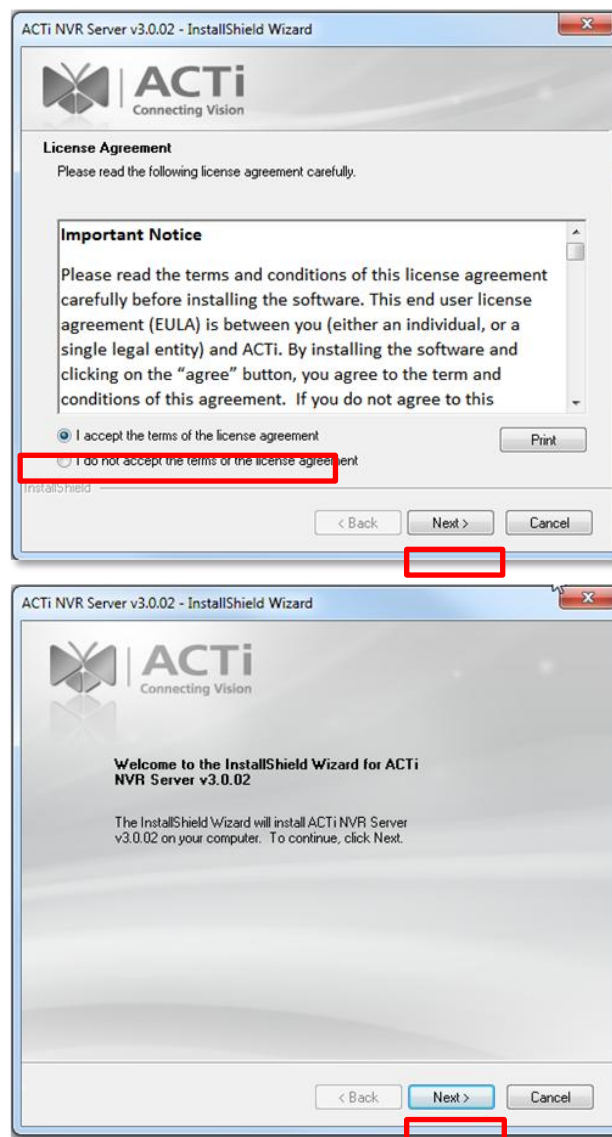


サーバーのインストール

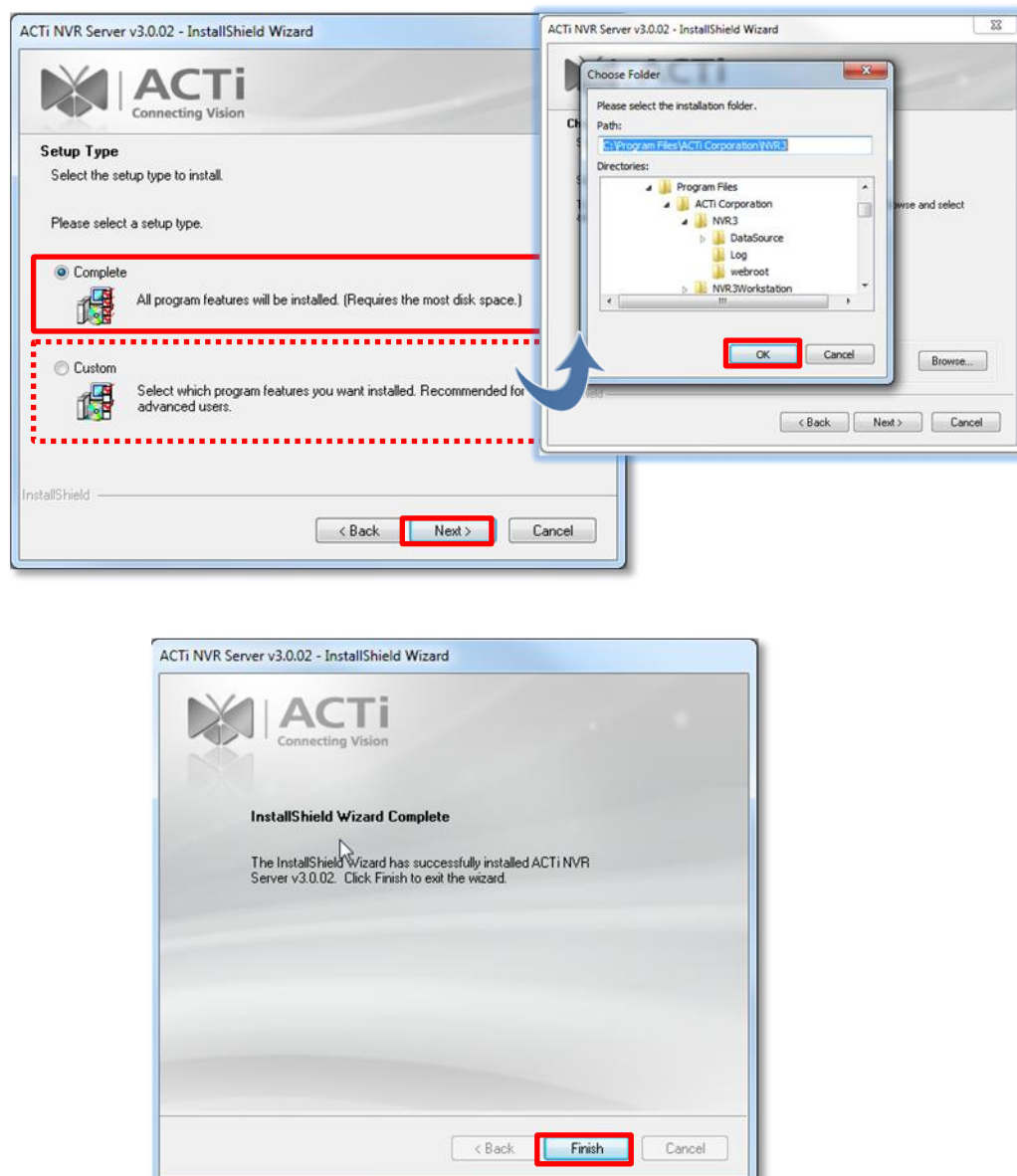
サーバー プログラムのインストールは、インストール ウィザードの指示に従って簡単に行うことができます。サーバーはインストールが完了するとすぐにサービスを開始し、サーバーコンピュータを再起動する必要はありません。

ソフトウェアのインストール

1. 「ACTi_NVR_Server_v3.0.02.exe」 インストール アプリケーションを実行します。
2. インストール シールド ウィザードの画面上の指示に従い、使用許諾に同意して進めます。



「**Setup Type - セットアップのタイプ**」を選択するとき、デフォルトの「**Complete - 完全**」を選択すると、プログラムがデフォルトの **C ドライブ** にインストールされます。「**Custom - カスタム**」を選択すると、プログラムをインストールする場所を選択できます。



3. インストール完了後、Internet Explorer ブラウザを使用して <http://localhost/> に接続すると、NVR ログイン ページが表示されます。

注意事項

1. 別のサイトによってポート 80 が使用されている場合、NVR のインストールが停止し、NVR 3.0 に使用できるようにポート 80 を解放する必要があります。このため、そのサイトに別のポートを割り当てる必要があります。
2. IIS Web Server がコンピュータにインストールされており、インストールのプロセス中にコンピュータの再起動が要求された場合、今すぐ再起動を選択し、このインストール シールドを後で実行してください。 ☒ Yes, I want to restart my computer now.

重要な注意事項

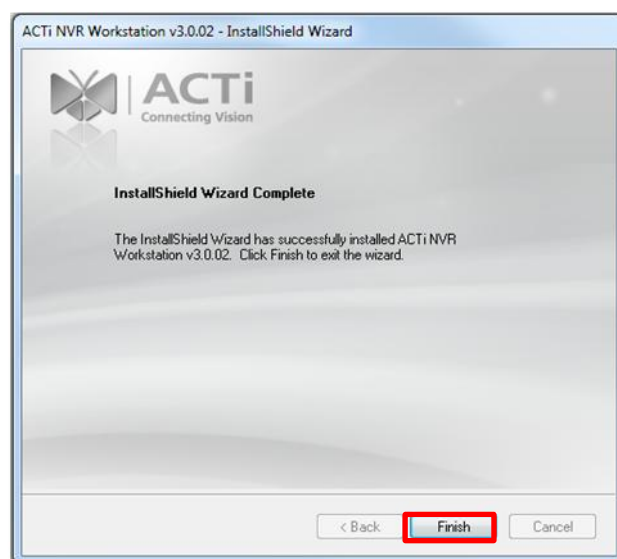
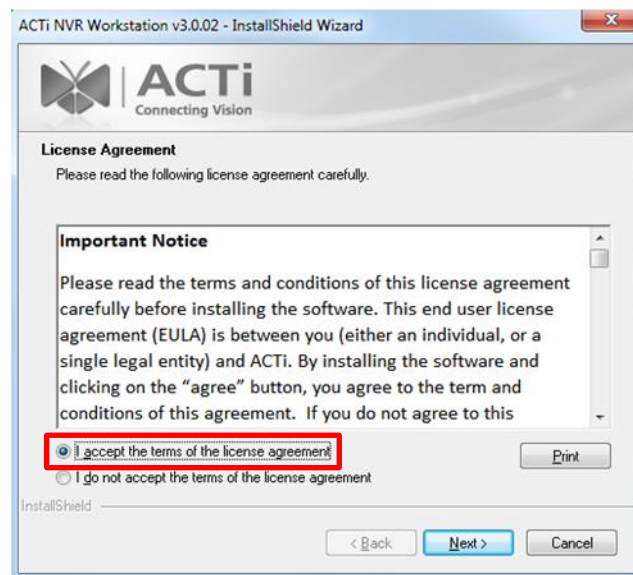
サーバー コンピュータにすでに古い ACTi NVR サーバー 2.X バージョンがインストールされている場合、ACTi NVR 3.0 をインストールする前に、**Windows**→ **コントロール パネル**から**メイン プログラムとパッチ**をアンインストールしてください。または別のコンピュータを ACTi NVR 3.0 サーバー コンピュータとして使用してください。

ワークステーションのインストール

NVR ワークステーションにはユーザーと NVR サーバー間のインターフェースを提供する一連のプログラムが含まれています。NVR サーバーと同じコンピュータ、または別のコンピュータにインストールしてネットワーク経由で NVR サーバーに接続することができます。

ソフトウェアのインストール

1. 「ACTi_NVR_Workstation_Install_v3.0.02.exe」インストール アプリケーションを実行します。
2. インストール シールド ウィザードの画面上の指示に従い、使用許諾に同意して進めます。



3. インストール完了後、デスクトップ上のショートカット  をダブルクリックしてアプリケーションを実行します。

ライセンスおよびアクティベーション

NVR 3.0 システムでは、各チャンネルにライセンスが必要です。ライセンスは累積することが可能です。インストール時、ACTi は **16** チャンネルに無料ライセンスを提供します。より多くのチャンネルをご利用になる場合、地域の販売店または ACTi 営業担当者からライセンスをご購入の上、**ライセンス キー**を取得していただく必要があります。**ライセンス キー**は印刷されたライセンス カードとして、または電子メールで提供されます。追加ライセンスのアクティベーション後、追加のチャンネルが自動的に利用可能になります。

アクティベーションの作用

ライセンス アクティベーション中、**ライセンス キー**がサーバー コンピュータのネットワーク インターフェース カード (NIC) の **MAC アドレス**に対して照合されます。このライセンス キーが特定の **MAC アドレス**を有する PC で使用されると、別の **MAC アドレス**でアクティベーションを行うことができなくなります。この照合記録は ACTi の **Web サーバー**に格納されます。コンピュータに 2 つ以上のネットワーク カードがある場合、NVR によってそれらが検出され、選択のためのドロップダウン リストが表示されます。

ライセンス アクティベーションの方法は 2 つあります。

オンライン アクティベーションの流れ

オンライン アクティベーションには **NVR サーバー コンピュータ**からのインターネット アクセスが必要です。**NVR サーバー コンピュータ**からインターネット接続が利用可能な場合、オンライン登録を行ってください。

ACTi Web サイト

アクティベーションには ACTi メンバー センターの会員 ID が必要です。無料で <http://member.acti.com/> からご登録いただけます。

NVR セットアップ

セットアップ ページ→システム タブ→ライセンス→
「オンライン登録」を開きます。ライセンス キー、会員 ID およびパスワードを入力し、「**Apply - 適用**」をクリックします。

これで完了です。

オフライン アクティベーションの流れ

オフライン アクティベーションは NVR からインターネット アクセスは不要です。NVR がパブリック インターネットに接続されていないネットワーク内にあるときに使用します。NVR からインターネット接続が利用できない場合（例：制限された軍事基地内など）ライセンス ファイルを別のコンピュータから取得してそれを NVR サーバー コンピュータに転送する必要があります。

ACTi Web サイト

アクティベーションには ACTi メンバー センターの会員 ID が必要です。無料で <http://member.acti.com/> からご登録いただけます。

ACTi Web サイト

www.acti.com に接続します。サポート → カスタマー サービス: ライセンス登録を開きます。登録する製品を選択します。

ACTi Web サイト

ライセンス キーと MAC アドレスを入力します。「Submit - 送信」をクリックしてアクティベーション ファイルを生成します。

メールボックス

アクティベーション コード ファイル (.lic) が添付された電子メールがご登録の電子メールに送信されます。このライセンス ファイルを NVR サーバー コンピュータまたは Web クライアント コンピュータに転送します。

NVR セットアップ

ローカルまたは Web クライアントから NVR サーバーにログインします。セットアップ → システム タブ → ライセンス → 「Offline Registration - オフライン登録」→ を開き、「Import - インポート」をクリックしてライセンス ファイルを選択します。「Apply - 適用」をクリックしてこのライセンス ファイルのアクティベーションを行います。

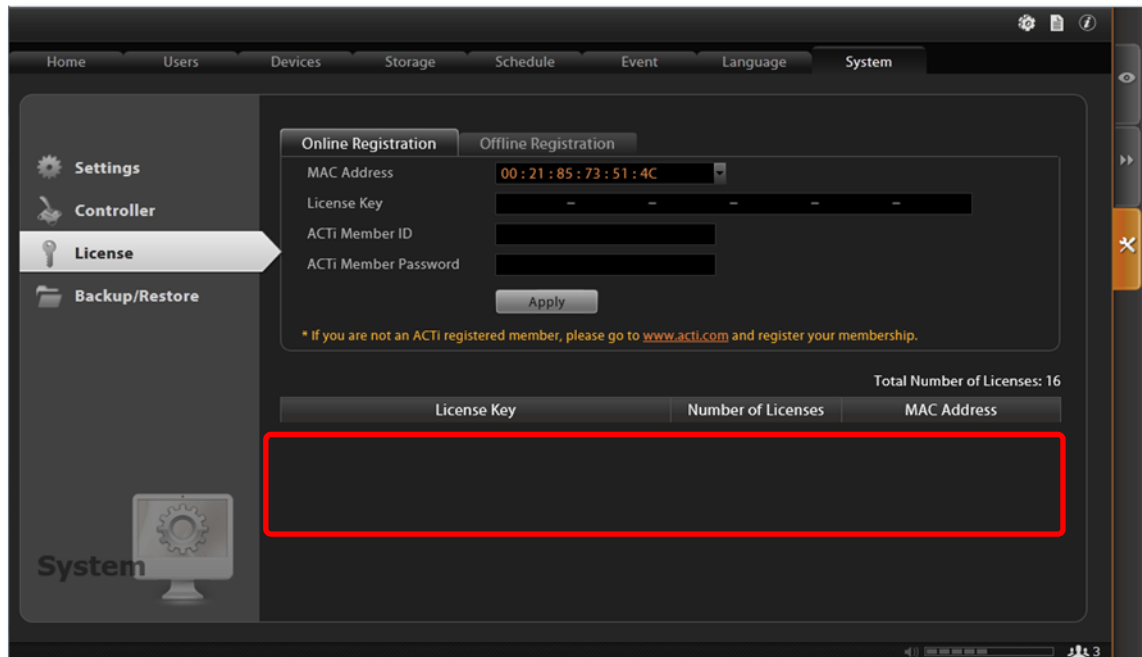
これで完了です。



ライセンスのアクティベーション

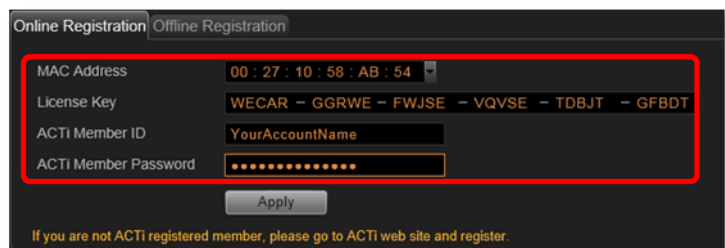
ライセンスのアクティベーションを行う前に、(1) ライセンス キー、(2) ACTi 会員アカウントとパスワード、(まだ会員でない場合、ACTi 社の Web サイトから無料でご登録いただけます)、(3) サーバー コンピュータのネットワーク カードの MAC アドレス (オフライン アクティベーションをご利用の場合) をご準備いただく必要があります。

1. セットアップ ページ→システム タブ→ライセンスを開きます。 画面に現在のライセンス、および以前に適用済みのライセンス キーに基づくチャンネル数が表示されます。 初めてこのページを開いた場合、追加ライセンス数合計は **0** です。
2. 「Online Registration - オンライン登録」または「Offline Registration - オフライン登録」を選択して進みます。



オンライン登録画面で:

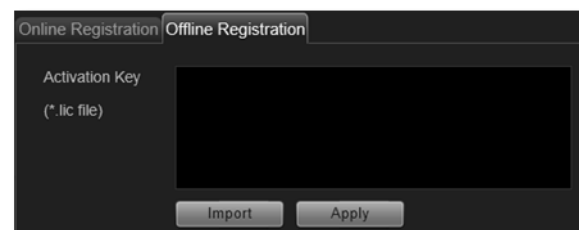
1. ネットワーク インターフェース カードの MAC アドレスを選択します。
2. 30 桁のライセンス キーを入力します。
3. ACTi 会員 ID とパスワードを入力します。
4. 「Apply - 適用」をクリックすると、NVR がサーバーに接続し、ライセンス キーを登録してシステム内でより多くのチャンネルが利用可能になります。



アクティベーション ファイルを取得した後、セットアップ ページ→システム タブ→ライセンスを開きます。

オフライン登録画面で:

1. 「Import - インポート」ボタンをクリックして .lic ファイル形式のアクティベーション コード ファイルを読み込みます。
2. 「Apply - 適用」をクリックします。



ライセンスの検証

ライセンスの正常なアクティベーションが完了すると、ライセンス情報が **ライセンス** ページに表示されます。

Total Number of Licenses: 48		
License Key	Number of Licenses	MAC Address
CPQAP-PACPP-PBRAP-PRRQP-ASPPC-AAPAG	32	00 : 21 : 6B : C6 : 3D : B1

重要な注意事項

ライセンス データは NVR 3.0 がアンインストールされると消去されます。ソフトウェアの再インストールが必要になる場合に備え、ライセンス キー情報を安全な場所に保管してください。ソフトウェアをアンインストールした後、弊社データベースに保存された元の登録データをクリアし、そのライセンスの再登録およびアクティベーションを可能にするため、ACTi カスタマー ヘルプ デスクにご連絡ください。

ヒント

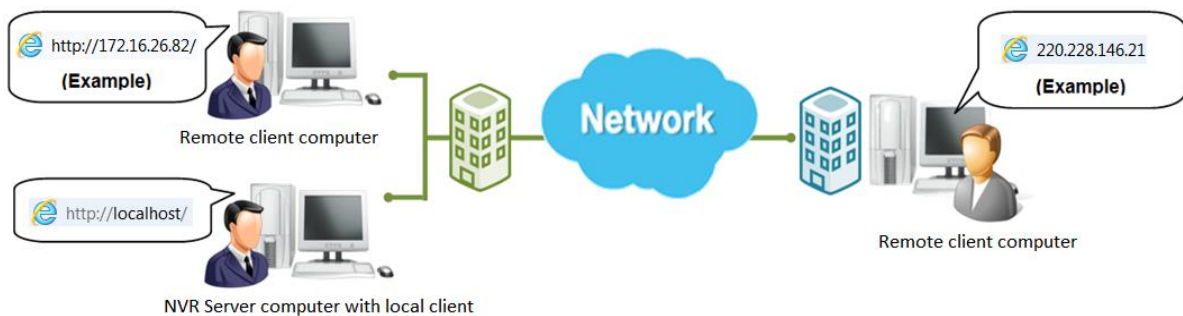
MAC アドレスを見つける方法

1. まず **Windows** スタート ボタンをクリックして、スタート メニューの実行ボックスに「**cmd**」と入力します。
2. **cmd** プログラムを実行し、コマンド「**ipconfig /all**」または「**getmac**」と入力します。
3. MAC アドレスは**物理アドレス**と呼ばれ、12 文字で構成されています。

例 : **00-1E-65-FE-8E-98**

システムへのログイン

Internet Explorer 経由による NVR 3.0 へのアクセス



ローカル クライアントを使用したサーバー コンピュータから

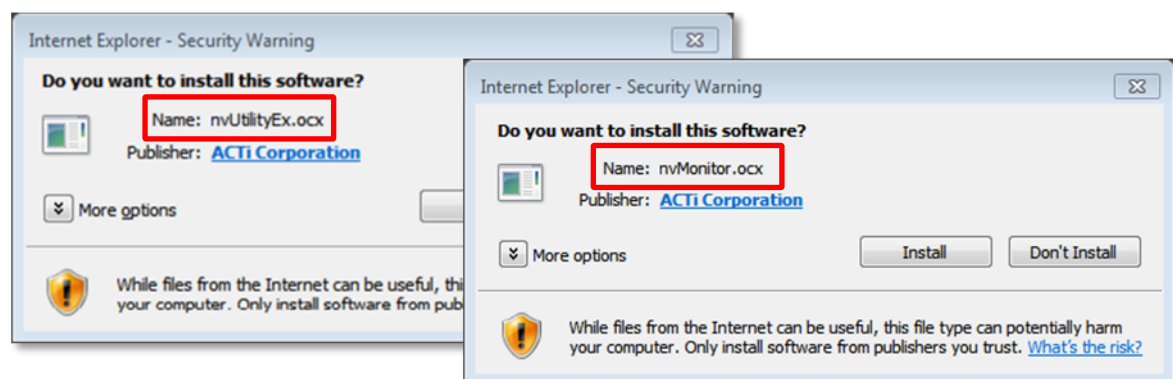
Internet Explorer を開きます。ご利用のコンピュータが NVR 3.0 のインストール場所である場合、<http://localhost/> またはそのコンピュータの IP アドレスを URL ボックスに入力します。

リモートのクライアント コンピュータから

リモートのクライアントとは、サーバー コンピュータ以外の WAN または LAN 上のコンピュータを使用したあらゆるクライアントを指します。NVR 3.0 サーバーにリモート クライアントとして接続する場合、サーバー コンピュータの IP (例: LAN ではローカル ネットワーク IP: <http://172.16.26.217>、WAN ではパブリック IP <http://220.228.146.21> またはドメイン名 <http://nvr.acti.com>) を URL ボックスに入力します。ポート番号は **80** です。アドレスの入力時これは省略できます。

ActiveX コントロール インストール要求の承諾

NVR3.0 インターフェースはアドオンの ActiveX コントロール コンポーネントが必要です。ブラウザのセキュリティ設定によって ActiveX コントロールのダウンロードとインストールが許可されていることを確認してください。ブラウザに ACTi 社のアドオン コンポーネントの実行を許可するか否か尋ねられた場合、許可してください。

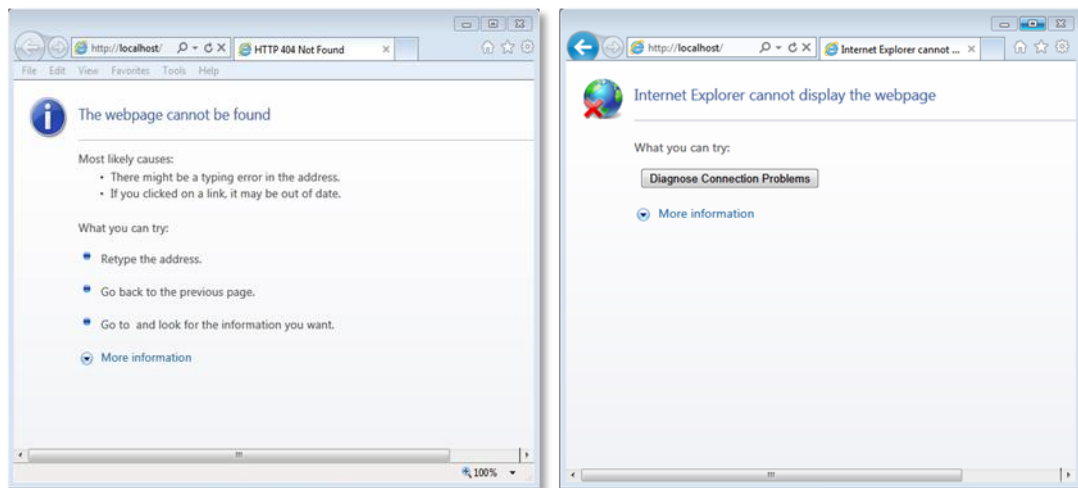


ログイン失敗のトラブルシューティング

NVR サーバーへのアクセスに問題が発生した場合、次の考えられる状況を参照し、問題解決方法に従ってください。

状況 1: ブラウザ経由で NVR サーバーにアクセスできない

正確な NVR サーバー IP を入力した後、NVR ログイン ページにアクセスできない場合、次のブラウザ画面が表示されることがあります。



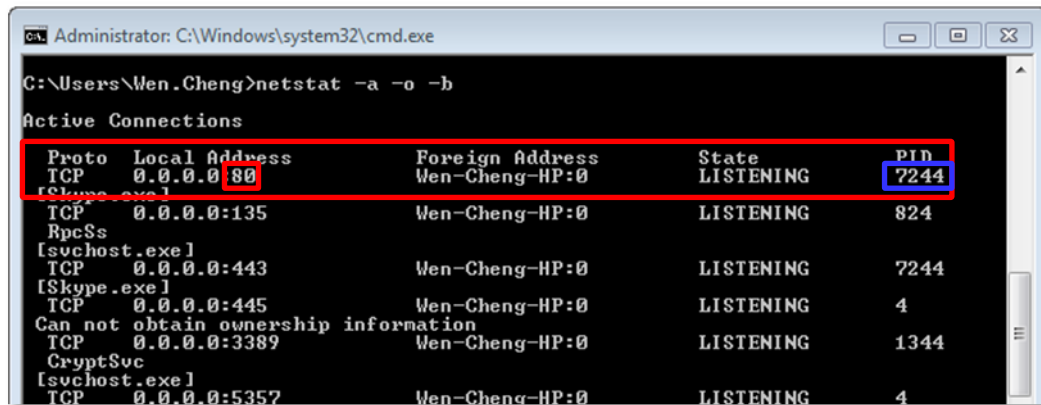
原因 1: サーバーの準備ができていない

解決策: サーバー コンピュータを起動したばかり、またはサーバー インストールが完了したばかりの場合、数秒待ってから再度接続してください。

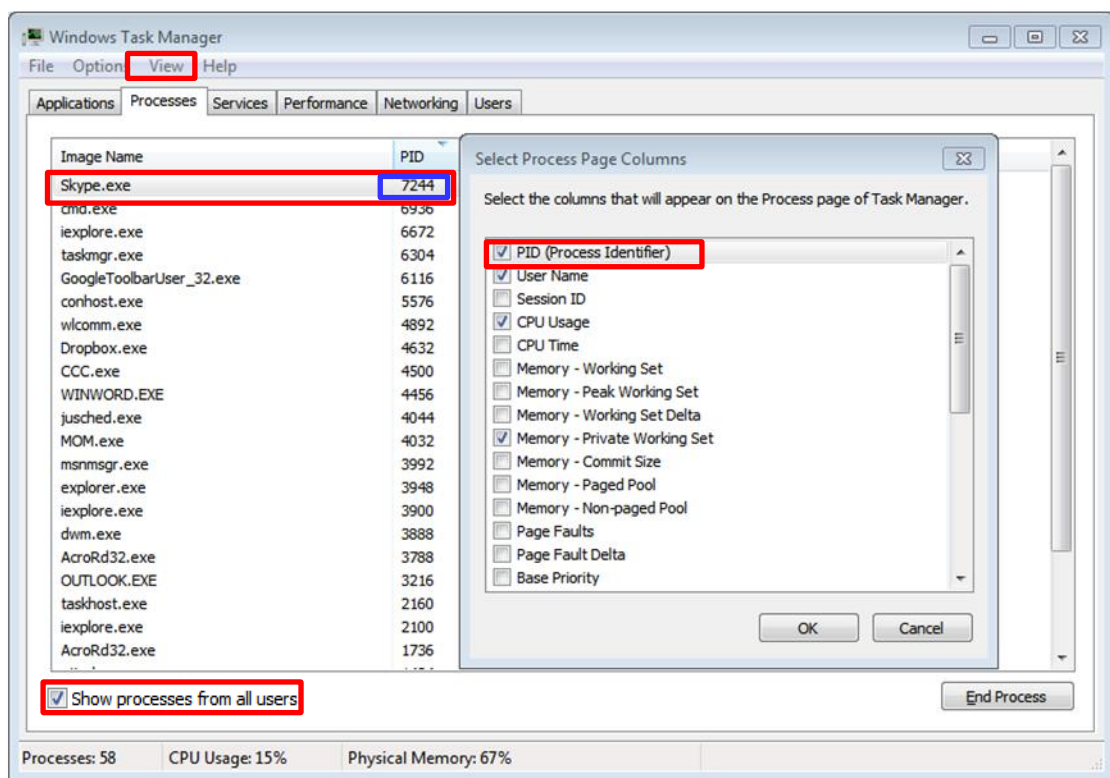
原因 2: ポート 80 がサーバー コンピュータで稼働中の別のサービスによって使用されているため、サーバーが現在のパスを通してリクエストに 응답できない。

解決策: 現在別のサービスによってポート 80 が使用されていないか確認し、そのプログラムの設定を変更して NVR 3.0 サーバーのためにポート 80 を解放してください。サービスを見つける手順は次のとおりです。

1. まず **Windows 「スタート」** (Windows のロゴのボタン)  をクリックし、実行ボックスに「**cmd.exe**」と入力して実行します。
2. コマンド「**netstat -a -o -b**」を入力します。 使用中のポートとそれらを使用しているサービスが表示されます。 ポート **80** を使用しているローカル アドレスと、PID 番号を見つけます。

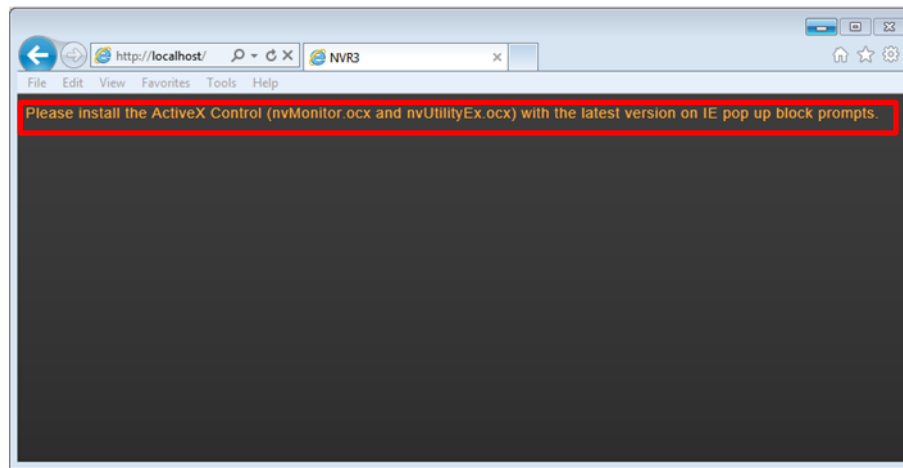


3. 「ctrl」 + 「alt」 + 「Delete」 キーを押して Windows タスク マネージャを開きます。「表示」、さらに「列の選択」を選択し、「PID (プロセス ID)」を有効にして検索結果に表示させます。「すべてのユーザーのプロセスを表示」も有効にされていることを確認します。
4. タスク マネージャ プロセス タブで、ポート 80 を使用しているサービスの PID 番号を見つけます。サービス名は「イメージ名」の列に表示されています。



状況 2: ログイン後、Active X コントロールをインストールできない

ActiveX コントロール コンポーネントは NVR サーバーによるユーザー インターフェースの表示に不可欠です。次のメッセージはこれらのコントロールがインストールされなかったことを示します。



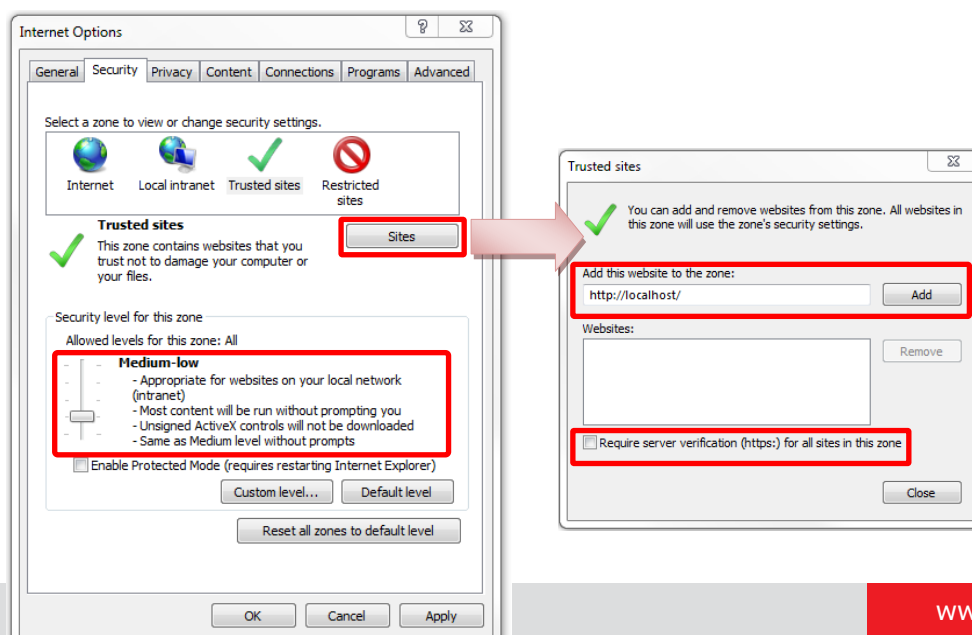
原因 1: Internet Explorer ブラウザのバージョンが NVR 3.0 に対応していない

解決策: IE8 または IE9 32 ビット バージョンを使用していることを確認してください。

原因 2: ブラウザによってアドオン コンポーネントのインストールが制限されています。

解決策: ブラウザのインターネット セキュリティ設定の変更に関わらず、NVR サーバーが常に Web クライアントからアクセス可能であるように確約するため、NVR サーバー サイトを Internet Explorer の **信頼済みサイト** に追加することができます。これらはユーザーが安全とみなしており、インターネットのその他部分に対して高いセキュリティを維持しながら、低セキュリティ制限時も訪問したいと考えているサイトです。

1. IE ブラウザを開き、ツール → インターネット オプションを選択し、
2. セキュリティ タブで「信頼済みサイト」を選択してセキュリティ レベルを「中低」に設定してから、「サイト」をクリックします。
3. ゾーンに <http://localhost> またはサーバー IP を追加して、「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認 (https:) を必要とする」のボックスをクリアします。
4. 再度セキュリティ タブに戻り、「適用」をクリックして変更を適用します。これで、ActiveX およびスクリプティングが選択されたサイトに対して利用可能になり、インターネット全体に対しては利用不可になります。



ログイン



The login screen for NVR v3.0 features a dark background. At the top, it says 'NVR v3.0'. Below this, there are three main sections, each enclosed in a red rectangular box. The first box contains 'Account' and 'Password' input fields. The second box contains a 'Language' dropdown menu currently set to 'English'. The third box contains two checkboxes: 'Remember login info' (unchecked) and 'Auto Login' (checked), along with a 'Don't Remember' link. At the bottom of the form is a 'Login' button.

アカウントとパスワードの入力

- アカウント（大文字と小文字を区別しない）：**Admin**（デフォルト）
- パスワード（大文字と小文字を区別する）：**123456**（デフォルト）

UI 言語の変更

UI 言語を変更するには、「**Language - 言語**」ドロップダウン リストから希望の言語を選択します。

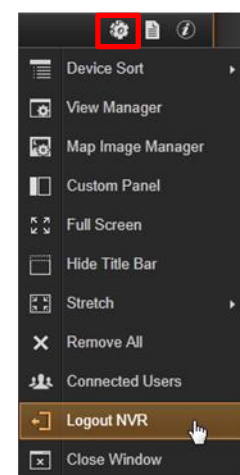
ログイン情報を記憶する

今後のためサーバーにログイン名、パスワードおよび言語設定を記憶させるには、「**Remember login info - ログイン情報を記憶する**」にチェックを入れます。「**Don't remember - 記憶しない**」をクリックすると、入力したテキストがクリアされてデフォルトにリセットされます。

自動ログインの設定

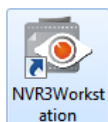
「**Remember login info - ログイン情報を記憶する**」、さらに「**Auto Login - 自動ログイン**」にチェックを入れると、今後このコンピュータからログインするたびにログイン ページをスキップして直接メイン ページを開くことができます。適切な権限のない他の人物がコンピュータにアクセスできる場合、これらの機能を使用しないでください。

自動ログインをキャンセルするには、タイトル バー上で  → 「**Logout NVR - NVR からログアウト**」をクリックしてログイン ページに戻ると、この機能はキャンセルされます。

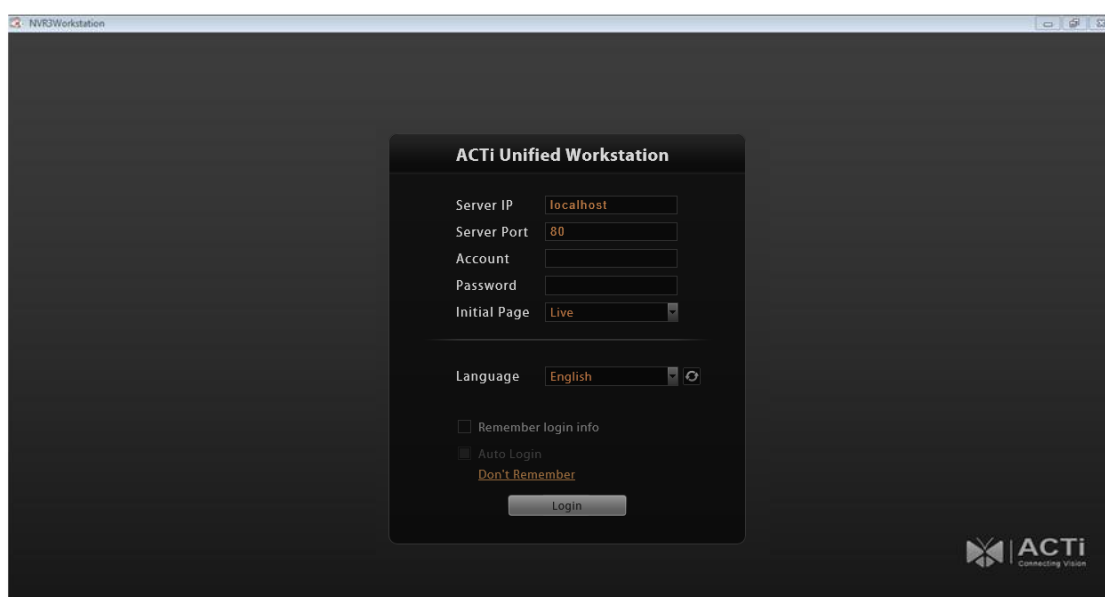


NVR3 ワークステーションから NVR 3.0 サーバーにアクセスする

NVR3 ワークステーションにはユーザーと NVR サーバー間のインターフェースを提供する一連のプログラムが含まれています。NVR サーバーと同じコンピュータ、または別のコンピュータにインストールしてネットワーク経由で NVR サーバーに接続することができます。



デスクトップにあるショートカット アイコンをダブルクリックして、このワークステーション アプリケーションを実行します。



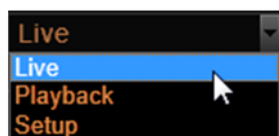
ログイン

次のフィールドに入力してから「**Login - ログイン**」をクリックしてシステムにログインします。ワークステーションのログイン プロセスは、次の点を除いて、Web ブラウザと同じです。

サーバー IP とサーバー ポート

- NVR サーバーと同じコンピュータ上に NVR3 ワークステーションがある場合、サーバー IP フィールドに **localhost** または **127.0.0.1** と入力します。別のコンピュータから接続している場合、サーバー コンピュータの IP アドレスを入力してください。例: **220.228.146.22**
- サーバー ポート フィールドに、デフォルトのポート番号である **80** と入力します。

初期画面の選択



NVR 3.0 ユーザー インターフェースは、**ライブ ビュー**、再生、セットアップの 3 つのメイン モジュール画面から構成されています。ログインした後、どの画面を開くか選択できます。デフォルトは**ライブ ビュー**画面です。

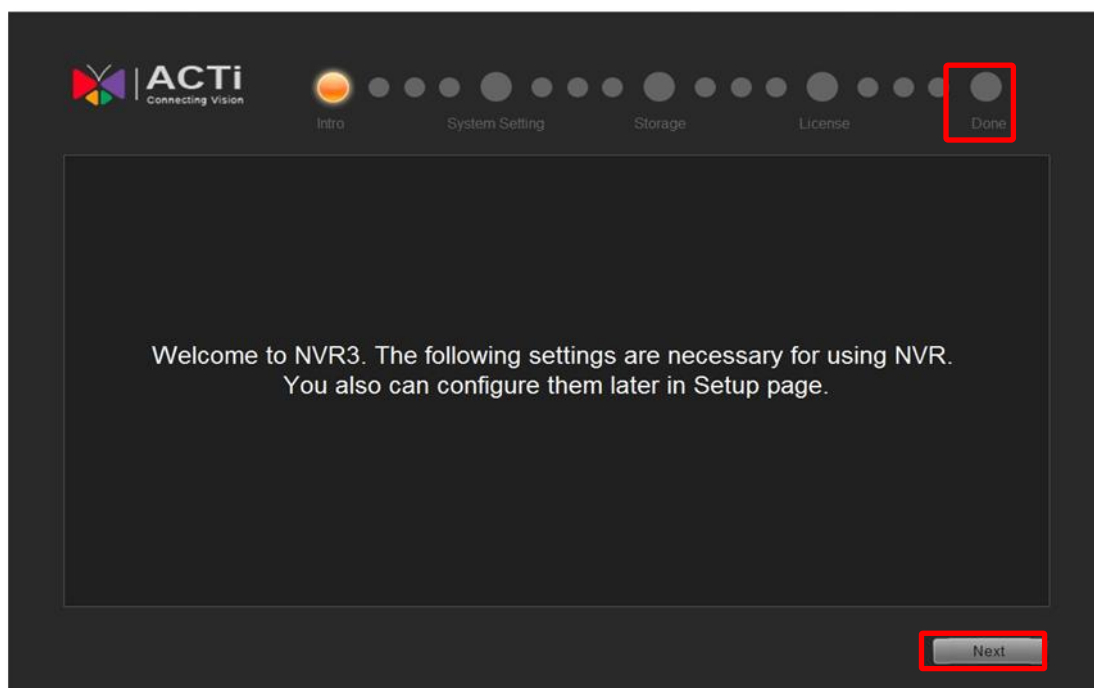
システムのセットアップ

この章では、ACTi NVR 3.0 サーバーとの初めての接続から全般的システム構成まで、システムのセットアップ手順について知っておく必要があるすべてについて説明します。

セットアップ ウィザード

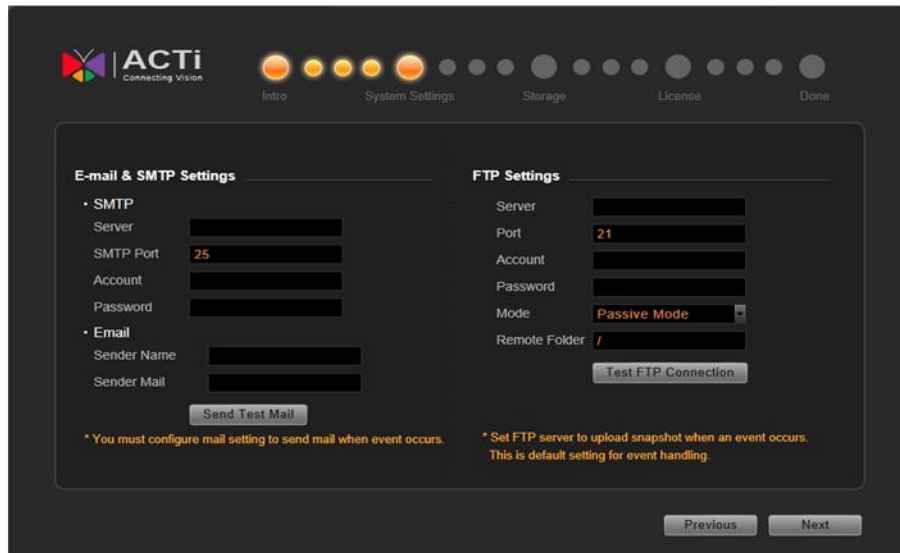
初めて ACTi NVR 3.0 に接続すると、セットアップ ウィザードが初期セットアップ プロセスをガイドします。いつでも下方右側にある「**Previous - 前へ**」または「**Next - 次へ**」ボタンをクリックすることができます。これで現在のステップをスキップします。後で戻ることができます。セットアップ ウィザードでの設定はすべてセットアップ ページからアクセスできます。

このウィザードをスキップするには、右上隅の「**Done - 完了**」のバブルをクリックします。



システムの設定

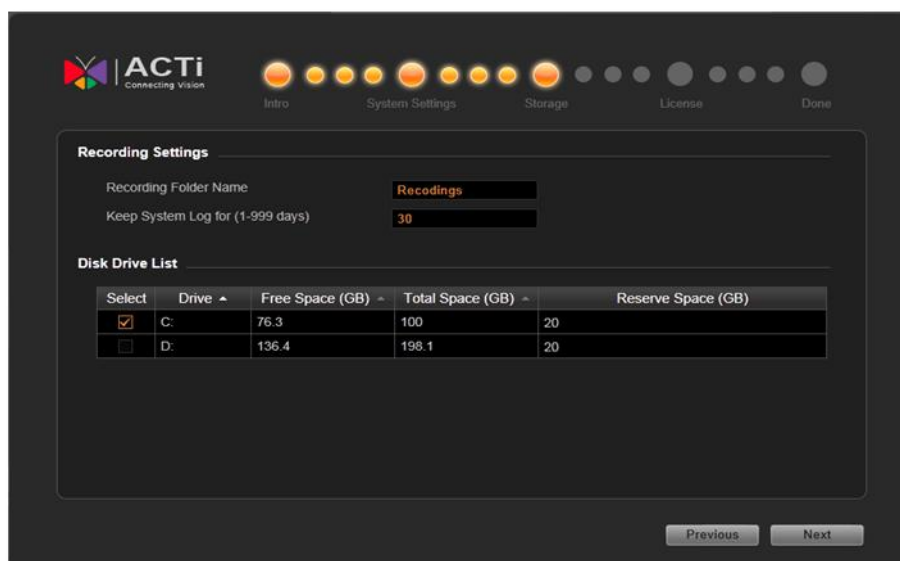
電子メールおよび SMTP の設定、イベント ルールの FTP 設定はいつでも調整できます。設定に関する詳細については、イベント ルールに対する SMTP 設定のセットアップ方法 (68 ページ) および イベント ルールに対する FTP 設定のセットアップ方法 (69 ページ) を参照してください。



The screenshot shows the 'System Settings' window with the 'E-mail & SMTP Settings' and 'FTP Settings' tabs selected. The 'E-mail & SMTP Settings' section includes fields for SMTP Server, SMTP Port (set to 25), Account, Password, Email Sender Name, and Sender Mail. The 'FTP Settings' section includes fields for Server, Port (set to 21), Account, Password, Mode (set to Passive Mode), and Remote Folder. Both sections have 'Test' buttons and a note at the bottom stating: '* You must configure mail setting to send mail when event occurs.' and '* Set FTP server to upload snapshot when an event occurs. This is default setting for event handling.'

ストレージ

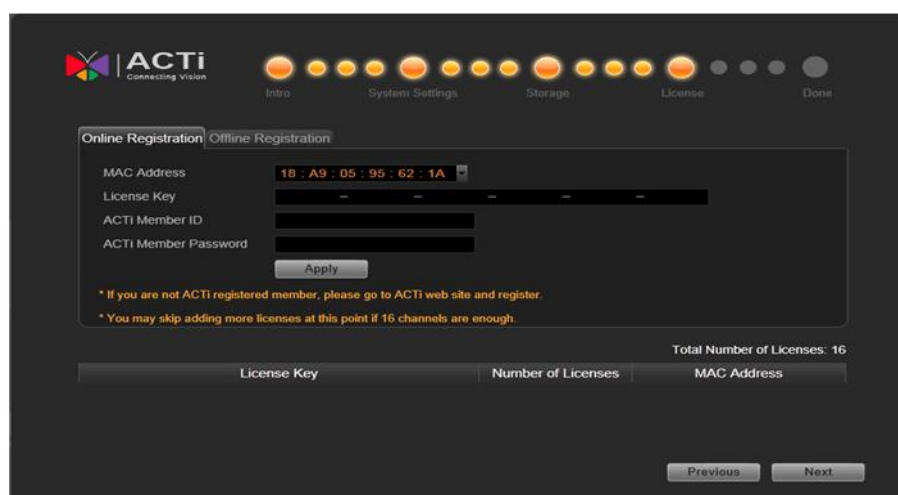
NVR サーバーで、どのディスク ドライブに録画ファイルを保存するか、コンピュータ アプリケーションの実行にどのくらいのメモリ領域を残しておくかを選択できます。録画についてドライブと予約領域を設定する必要があります。予約領域は、録画ファイルの保存に使用されないドライブ上の領域で、利用可能な領域が予約領域の設定を下回るまで減少すると、最も古い録画ファイルが削除されます。録画の保存にはディスク ドライブ リストから 1 つ以上のディスク ドライブを選択できます。このステップをスキップすると、C ドライブがデフォルトのドライブになります。設定に関する詳細については、ストレージ管理 (74 ページ) を参照してください。



The screenshot shows the 'Storage' tab in the 'System Settings' window. The 'Recording Settings' section includes 'Recording Folder Name' (set to Recordings) and 'Keep System Log for (1-999 days)' (set to 30). The 'Disk Drive List' section contains a table with columns: Select, Drive, Free Space (GB), Total Space (GB), and Reserve Space (GB).

Select	Drive	Free Space (GB)	Total Space (GB)	Reserve Space (GB)
☒	C:	76.3	100	20
☐	D:	136.4	198.1	20

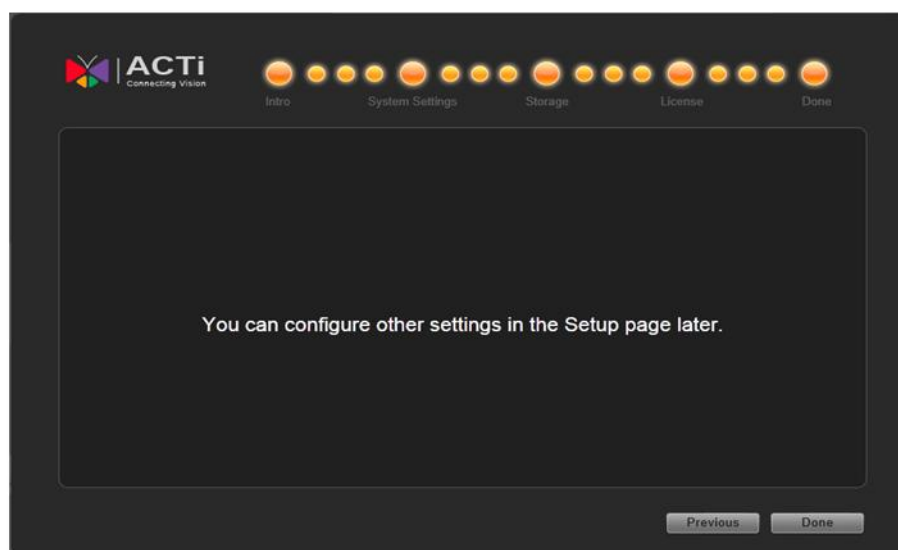
ライセンス



ここではライセンス管理について説明します。画面右下に現在のライセンスに基づいて許可されているチャンネル数が表示されます。新しい各デバイスには **16** チャンネルのライセンスが付属しており、すでに有効にされています。今新しいライセンスを追加したくない場合、「**Next - 次へ**」をクリックして次の設定に移動できます。設定に関する詳細については、[ライセンスおよびアクティベーション \(21 ページ\)](#) を参照してください。

セットアップ ウィザード終了

「**Done - 完了**」をクリックしてセットアップ ウィザードを終了します。これまでにを行った設定ステップはセットアップ ページからアクセスできます。



NVR メイン画面

セットアップ ウィザードの後、ライブ ビュー画面に入ります。右側には NVR の 3 つの主要機能、(1) ライブ ビュー、(2) 再生、(3) セットアップへのリンク ボタンがあります。オレンジ色のボタンをクリックして機能ページに入ることができます。

ライブ ビュー



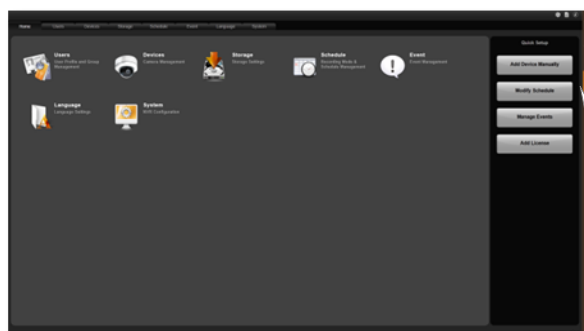
このモジュールではカメラからのライブ ビューの表示、マウスやジョイスティックを使用した PTZ 操作の実行、システム ログの表示、イベント パネルでのアラート受信、ビュー レイアウトのセットアップ、手動録画またはスナップショット撮影などができます。

再生



このモジュールで既存の録画を見付けて再生することができます。同時に最大 64 チャンネルを再生することができます。再生ファイルからスナップショットまたはビデオ セグメントを取り出すことができます。ここで録画ファイルを AVI 形式でエクスポートすることもできます。

セットアップ



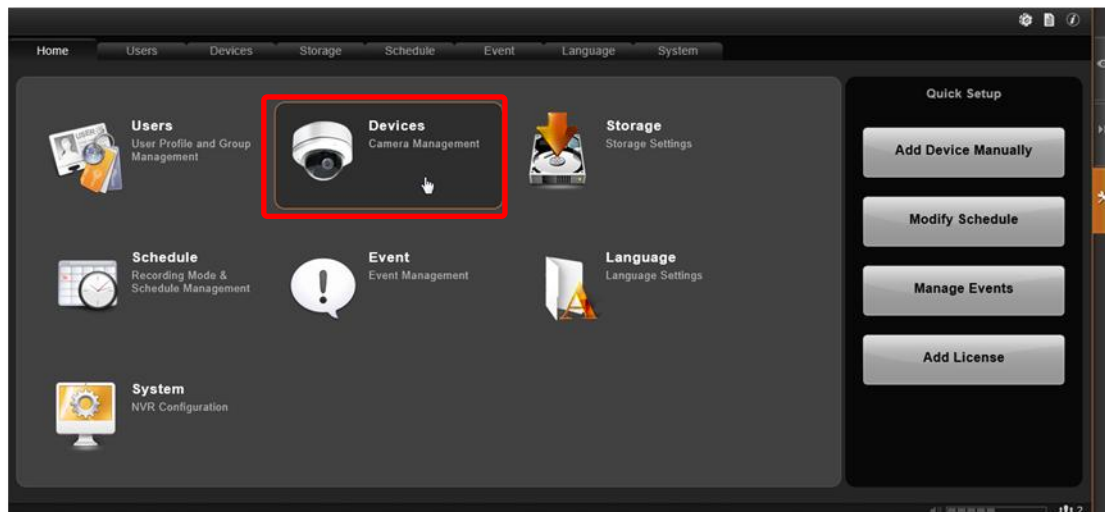
このモジュールには、ユーザー セットアップ、デバイス セットアップ、イベント セットアップ、スケジュール セットアップ、システム 全体設定が含まれます。

デバイスの追加

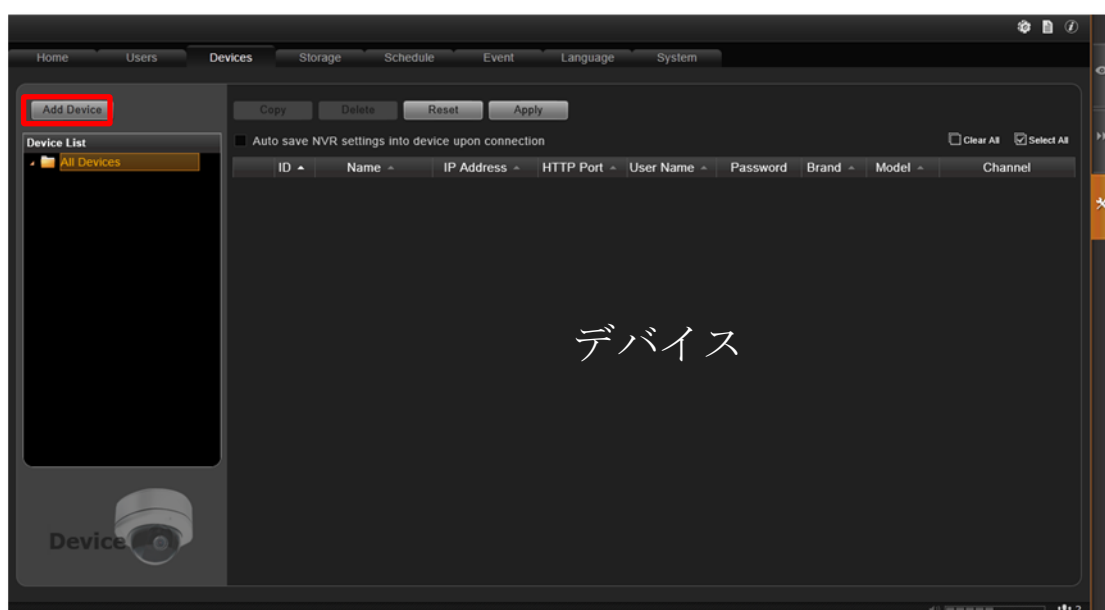
カメラまたはビデオ エンコーダは監視システムの基盤となる構成要素です。 NVR3 からカメラを管理するには、まずカメラ デバイスを NVR3 システムに追加する必要があります。このセクションでは、NVR システムへのデバイスの追加と削除の方法について説明します。

新規デバイスを追加するには、次のステップに従ってください。

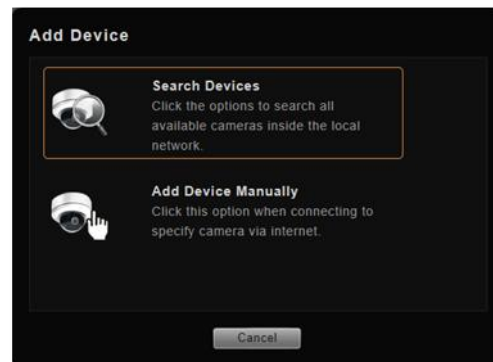
1. セットアップ ページ→ホーム画面で、「**Device - デバイス**」をクリックします。



2. デバイス ページで、デバイス リストはまだ空白となっており、ビデオ ソースを追加する必要があります。 まず「**Add Device - デバイスの追加**」をクリックします。

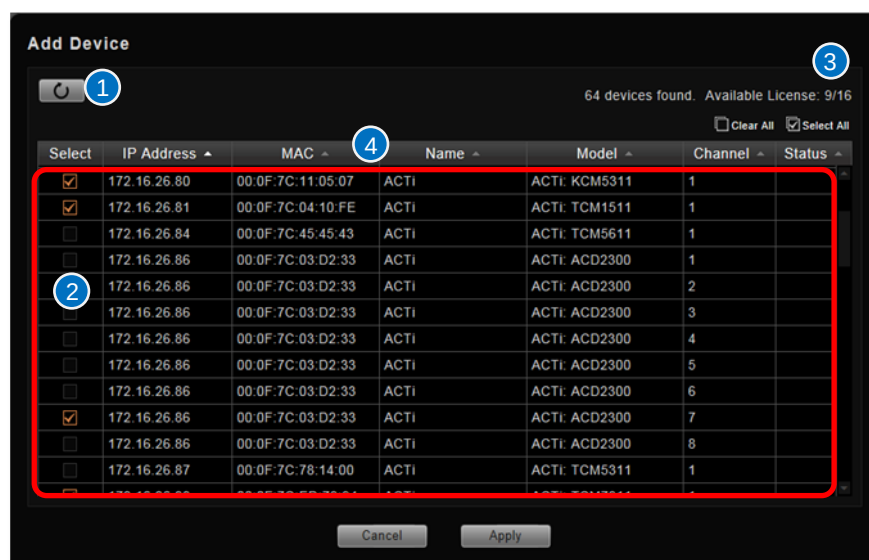


3. システムにデバイスを追加するには、デバイスの検索と手動によるデバイスの追加の 2 つの方法があります。 **デバイスの検索** を使用して NVR サーバーと同じサブネットにあるカメラを自動検索します。 ローカル サブネットの外、または WAN 上にカメラまたはビデオ エンコーダがある場合、**手動によるデバイスの追加**で追加してください。 手動による追加は、追加するデバイスの IP アドレスを知っている必要があります。



ローカル エリア ネットワーク内でのデバイスの検索

1. 「**Search Devices - デバイスの検索**」を選択します。 検索が完了すると、利用可能なデバイスが一覧表示されます。 タイトル ヘッダーをクリックしてその列を並べ替えることができます。 もう一度クリックすると逆順に並べ替えられます。



- | | |
|---------|------------------------|
| 1. 更新 | 3. 利用可能 / ライセンス済みチャンネル |
| 2. 検索結果 | 4. タイトル |

2. システムに追加したいカメラの行を選択し、このステップを繰り返して必要なデバイスすべてをチェックします。
3. 「**Apply - 適用**」をクリックして選択したデバイスを NVR システムに追加します。

WAN または他のローカル エリア ネットワーク 上にあるデバイスの追加

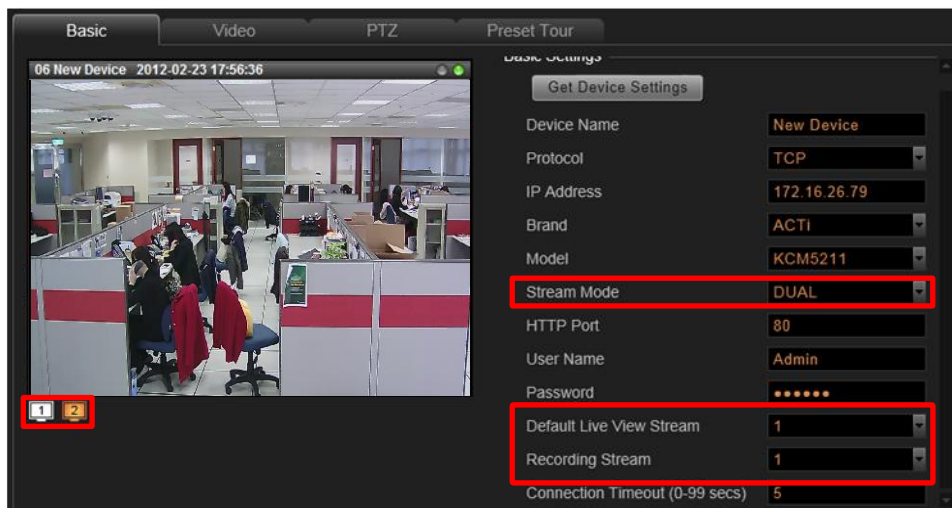
1. 「Add Device Manually - 手動によるデバイスの追加」を選択した後、次のようなカメラの設定ページが表示されます。最も重要な設定は (1) プロトコル、(2) カメラ IP、(3) HTTP ポート、(4) ユーザー名およびパスワードです。NVR がそのデバイスと通信するために不可欠なこれらのフィールドに入力してください。



重要な注意事項

前述のフィールドのいずれかに誤りがあると、NVR はデバイスに接続できません。デバイスの接続に問題がある場合、これらの設定を確認してください。ただし、この時点ではデバイス名、ブランド、機種、ストリーム モードの設定入力をスキップすることができます。

2. 「Get Device Settings - デバイス設定の取得」をクリックして NVR をデバイスに接続させ、ライブ ビューを取得します。デバイスに接続されると、NVR がデバイスの全プロパティを取得し、ブランドや機種などのフィールドが自動で入力されます。デバイスがデュアル ストリームに対応している場合、ストリーム モードの選択フィールドが表示され、ストリーム モードを選択し、関連オプションを設定できます。上の「Cancel - キャンセル」ボタンをクリックしてこのデバイスの設定を取り消すか、「Apply - 適用」をクリックして保存します。



3. デバイス コンフィギュレータ Web ページに直接アクセスするには、左上の「**Web Configurator - Web コンフィギュレータ**」をクリックすれば開きます。一部の詳細設定は NVR からではなく、Web コンフィギュレータからのみ行うことができます。

基本設定の属性

フィールド名	説明
デバイス名	カメラの名前を入力します。この名前がライブ ビュー左側のデバイス リストに表示されます。カメラの場所が分かるような名前にすることを推奨します。
プロトコル	カメラに接続するためのストリーミング プロトコルを選択します。TCP、RTP、HTTP のいずれかを選択できます。
IP アドレス	カメラの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
ブランド	デバイスの製造元を選択します。
機種	IP カメラ / ビデオ サーバーのデバイス タイプを選択します。ほとんどの場合、これは デバイス設定の取得 を実行すると自動的に入力されるため、心配無用です。
ストリーム モード ^{*1}	このデバイスが対応しているストリーム モードの 1 つを選択します。
チャンネル番号 ^{*2}	マルチストリーミング デバイスに設定するチャンネル ID です。
HTTP ポート	IP カメラ / ビデオ サーバー用の HTTP ポートを入力します。ほとんどのカメラはデフォルトのポート番号 80 を使用します。
ユーザー名	カメラにログインするためのユーザー名を入力します。
パスワード	カメラにログインするためのパスワードを入力します。
デフォルトのライブ ビュー ストリーム ^{*3}	ライブ ビューのストリーミング ID を選択します。デフォルトは stream 1 です。
録画ストリーム ^{*3}	録画のストリーミング ID を選択します。デフォルトは stream 1 です。
接続のタイムアウト (0~99 秒)	デバイスの接続が切断されていると NVR が判断するまでの応答のない時間を (秒単位で) 入力します。異なる接続のタイプに応じて異なる値を設定することを推奨します。デフォルトの設定は 5 秒です。WAN 上にあるデバイスに対しては、時折生じるインターネットのラグを許容できるように、この値を増加することができます。

^{*1} マルチストリーミング デバイスに接続されているとき利用できます。

^{*2} 複数のライブ ビュー チャンネルにストリームを同時出力するモードで、マルチストリーミング デバイスに接続されているとき利用できます。

^{*3} デュアル ストリーム モードでマルチストリーミング デバイスに接続されているとき利用できます。

デバイスのステータス

デバイスを正常に NVR システムに追加できたか確認するには、**セットアップ → デバイス** タブの左側にある**デバイス リスト**でツリーにデバイス名が表示されているかを確認するだけです。デバイスのアイコン上にマウスのカーソルを置くと、デバイスの **IP アドレス**、**HTTP ポート**、**プロトコル**、デバイスのタイプを含む情報ボックスが表示されます。



ステータス アイコンの説明

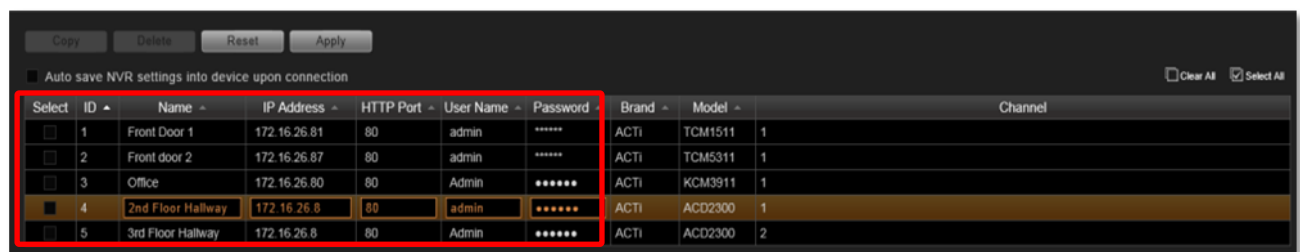
アイコン	ステータスの説明
	NVR がビデオ ストリームを取得できません。これは、ビデオ サーバーがカメラと接続されていない、またはデバイスと NVR サーバー間のファイアウォールでストリーミングがブロックされている可能性があります。(1) デバイス側がしっかりと接続されており、ビデオを正常に出力できるか確認してください。(2) ファイアウォールとポート フォワーディングの設定を確認してください。
	このデバイスの設定が変更されていますが、まだ保存されていません。これらの変更を保存しないままにすると、次回サーバーが起動されたときに有効になりません。変更を行う度に忘れずに保存してください。
	NVR がこのデバイスと接続を確立できません。デバイスの接続設定 (IP アドレス、ポート番号、アカウント名およびパスワードを含む) を確認してください。
	このデバイスは現在接続されており、ビデオの転送中で、進行中の録画はありません。
	このデバイスは現在接続されており、ビデオが手動でまたはスケジュールに基づいて録画されています。

複数のデバイスの管理

いくつかのデバイスをシステムに追加した後は、すべてのデバイスの概要をセッティング ページ→デバイス タブで取得することができます。ここから複数のデバイスをすばやく便利に管理することができます。このセクションでは、複数のデバイスの迅速な追加と削除について説明します。

基本接続設定の変更

セッティング ページ → デバイス タブを開き、デバイス リストですべてのデバイスをクリックすると右側の欄にデバイスの概要が表示されます。IP アドレス、HTTP ポート、ユーザー名およびパスワードを含む各基本設定フィールドは編集可能です。フィールドをクリックして直接変更できます。



Select	ID	Name	IP Address	HTTP Port	User Name	Password	Brand	Model	Channel
☐	1	Front Door 1	172.16.26.81	80	admin	*****	ACTi	TCM1511	1
☐	2	Front door 2	172.16.26.87	80	admin	*****	ACTi	TCM5311	1
☐	3	Office	172.16.26.80	80	Admin	*****	ACTi	KCM3911	1
☒	4	2nd Floor Hallway	172.16.26.8	80	admin	*****	ACTi	ACD2300	1
☐	5	3rd Floor Hallway	172.16.26.8	80	Admin	*****	ACTi	ACD2300	2

プロパティを変更して保存しないと、デバイス リストのデバイスの横にアイコン  が表示されます。現在の変更を中止したいときは、「Reset - リセット」をクリックすると、前回保存した設定に戻ります。フィールドに変更を加えた後は、「Apply - 適用」をクリックしてこのページから移動してください。

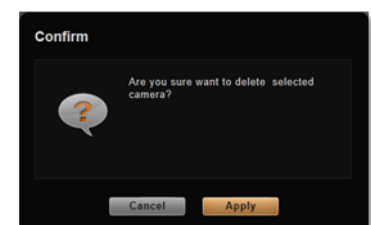


ヒント

NVR はデバイスに接続するとそれらと同期します。NVR 側の設定をデバイス側の設定に優先させ、常にそれらを上書きするよう確約するには、「Auto save NVR settings into devices upon connection - デバイス接続時に NVR の設定をデバイスに自動保存する」にチェックを入れてください。

デバイスの削除

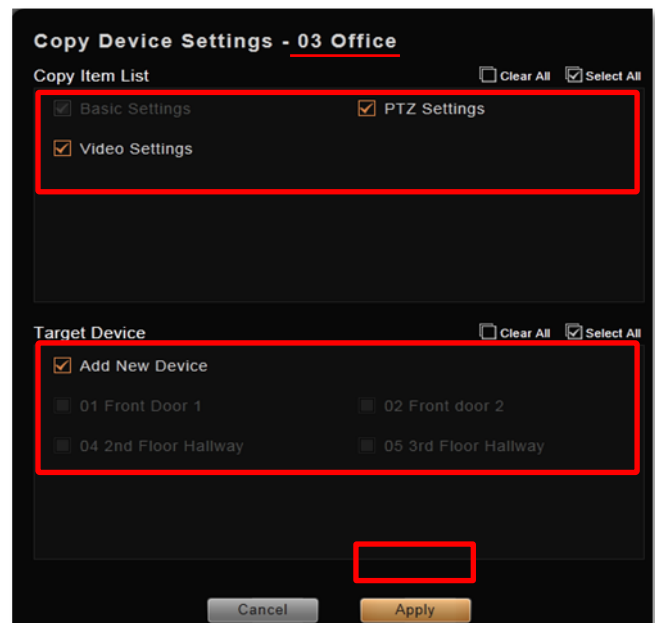
全デバイス リストに表示された 1 つまたは複数、あるいは全部のデバイスを削除できます。デバイスのログおよびビデオ ファイルは、サーバー ストレージ削除ルールによって削除されるまで保持されます。削除したいデバイスを選択し、「Delete - 削除」ボタンをクリックして削除を確定します。既存のデバイスをすべて削除したい場合、右上のをクリックして一度に全部を選択します。デバイスを正常に NVR システムから削除できたか確認するには、セッティング ページ → デバイス タブの左側にある ☒ Select All デバイス リストでツリーからデバイス名が削除されているかを確認するだけです。



デバイス間または追加した新規デバイスへの設定のコピー

多数のデバイスを設定するとき、多くの設定が他のデバイスと類似しており、何度も各設定を繰り返すことが煩わしく感じる場合があります。 **コピー**機能を使えば、不必要な繰り返しの時間を省くことができます。

1. **全デバイス リスト**で、コピー元となる設定を有するソース デバイスを選択します。1 つのデバイスのみをソースとして選択することができます。
2. 「**Copy - コピー**」をクリックしてコピー設定ウィンドウを表示します。
3. このウィンドウで、ソース デバイス名の下に**基本設定**、**PTZ 設定**、**ビデオ設定**を含む設定があり、これらを選択してコピーすることができます。
4. 「**Apply - 適用**」をクリックすると、ターゲット デバイスに設定が書き込まれます。
5. 同じ設定で新規デバイスを追加するには、「**Add New Device - 新規デバイスの追加**」をターゲット デバイスのエリアで選択し、「**Apply - 適用**」をクリックして新規デバイスのページに移動します。このページの各フィールドにソース デバイスのプロパティがすでに入力されています。続けて**デバイス名**、**IP アドレス**を変更し、「**Get Device Settings - デバイス設定の取得**」をクリックしてライブ ビューを取得することができ、その後「**Apply - 適用**」をクリックしてこのデバイスを**デバイス リスト**に追加します。
6. 2 つのターゲット デバイスのタイプ間にはコピーされる項目にいくつか違いがあります。



ターゲット デバイスにコピーされる設定

ターゲット タイプ 設定	新規デバイス	既存デバイス
基本	すべて	デバイス名、IP アドレス、HTTP ポート、RTSP ポート、ユーザー名、パスワードを除くすべて
ビデオ		モーション設定、ビデオ調整を除くすべて
PTZ		PTZ プリセット ポイントとコマンドを除くすべて

注意事項

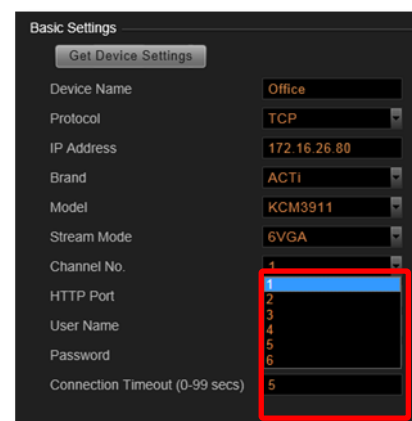
1. 「Add New Device - 新規デバイスの追加」または既存のデバイスのいずれかのみターゲットとして選択できます。
2. 既存のデバイスからコピーして新規デバイスを追加するには、ユーザーのグループにこの権限が付与されている必要があります。アクセス権限を確認するには、**セットアップ ページ** → **ユーザー ページ** → **ユーザー グループ**を開き、ユーザー グループを選択して、**NVR 許可の「Device Setup - デバイス セットアップ」** - 「Add New Device - 新規デバイスの追加」を有効にします。

マルチチャンネル デバイスからのビデオ ストリームの追加

NVR に対して 2 つ以上のビデオ ストリームを出力するデバイスがあります。例えば、ビデオ エンコーダは複数のアナログ ビデオ信号を同じ数の IP ビデオ ストリームに変換します。ACTi KCM-5111 など一部のメガピクセル カメラは単一の高解像度ビデオ ソースから切り取った複数の VGA ストリーム出力に対応しています。単一デバイスからのこれら複数のストリームは、NVR サーバーによって異なるカメラとして管理されます。

これらストリームを複数のチャンネルとして追加し、表示や記録を行うには、次に従ってください。

1. **セットアップ ページ** → **デバイス タブ** → **基本タブ**の「Stream Mode - ストリーム モード」フィールドで希望のストリーム モードを選択します。
2. 「Channel No. - チャンネル番号」の欄が表示され、ストリーム ID（デバイスの Web コンフィギュレータでの設定と同じ）を入力します。
3. 構成後、「Apply - 適用」をクリックします。
4. すべてのデバイス ページを開き、このデバイスを新しいチャンネルに複製します。必要なすべてのチャンネルが追加されるまでこのステップを繰り返します。
5. チャンネルの**チャンネル番号**の値を個別に変更します。



ヒント

デュアル ストリーミング デバイスでの CPU 負荷軽減

デュアルストリーミング機能に対応したデバイスは、異なる値の 2 つのビデオ ストリームを出力できます。より少ないフレーム レートでライブ ビュー ストリームの容量をより小さくし、デコードする CPU の電力と帯域幅を節約できます。一方で録画ストリームはより大きく、より多くの FPS を有するようして、証拠を取得する必要があるときにより鮮明な画像が得られるようにすることができます。デュアル ストリーム機能を備えたデバイスの両方のストリームにおける設定については、セクション **ビデオ形式の設定**（ページ）を参照してください。 43

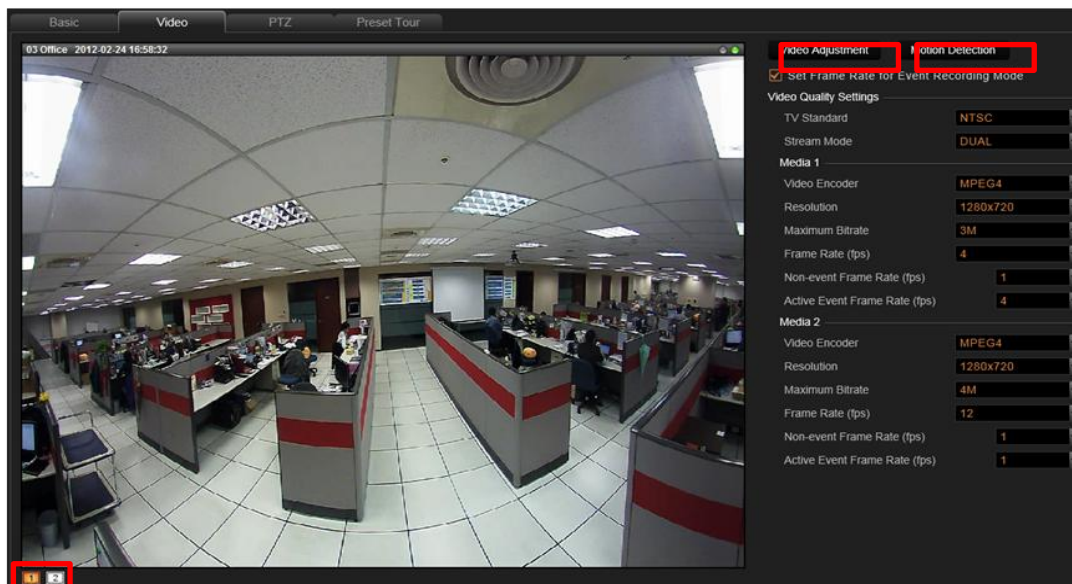
デバイス設定の構成

NVR にデバイスを追加した後、**セットアップ ページ → デバイス タブ**でビデオ、動体検知、PTZ またはプリセット ツアー設定の構成を続けることができます。このセクションでは、これらの設定の構成方法と対応する機能について説明します。

ストリーム間の切り替えと **stream 2** のライブ ビュー

ビデオ形式の設定

セットアップ ページ → デバイス タブを開き、**デバイス リスト**からデバイスを選択してから、**ビデオ タブ**に移動し、このデバイスからのストリーム出力のビデオ形式を設定します。デバイスが現在デュアル ストリーム モードである場合、ライブ ビュー ウィンドウで下にあるスイッチ **1** **2** をクリックしてストリームを切り替えることができます。メディア 1 とメディア 2 についてそれぞれ設定を行います。



ビデオ設定の属性

フィールド名	説明
TV 規格	デフォルトは NTSC
ストリーム モード^{*1}	このデバイスが対応しているストリーム モードの 1 つを選択します。
ビデオ エンコーダ	このデバイスが対応しているコーデックの 1 つを選択します。
解像度	このデバイスが対応している解像度の 1 つを選択します。
ビデオ画質^{*2}	希望の画像のビデオ画質を選択します。
フレーム レート (fps)	このデバイスが対応しているフレーム レート (fps; 毎秒のフレーム数) を選択します。
最大ビットレート	ビデオ ストリーミングの任意の秒において許可される最大ビットレートの上限です。ビットレートに制限を割り当てることで、ストリーム データが許可されたビットレートを超えたとき若干のフレーム レート低下が生じることがあります。

ビットレート*	これは 最大ビットレート に「 Unlimited - 無制限 」を選択したとき、カメラが提供を試みる目標ビットレートです。実際の値は場面の変化に基づいて若干変動します。
----------------	---

*¹ マルチストリーミング デバイスに接続されているとき利用できます。

*² 「Video Encoder - ビデオ エンコーダ」に **MJPEG** が選択されているとき利用できます。

*³ 「Maximum Bitrate - 最大ビットレート」に「**Unlimited - 無制限**」が選択されているとき利用できます。

イベント録画モードのフレーム レートを設定することによるストレージの節約

ビデオ監視システムは、できる限りの証拠を保全することを目的としており、あらゆる重要な瞬間を捉えるためにビューを常時録画したいと考えるかもしれません。しかし、多くのネットワーク録画システムが提供する一般的な録画法であるイベント録画およびスケジュール録画は、ストレージ容量を消費しすぎる、あるいは重要なシーンが欠落するリスクがあります。

「**Set Frame Rate for Event Recording Mode - イベント録画モードのフレーム レートを設定する**」機能は、イベント録画期間中自動的にビデオのフレーム レートを調整し、ストレージを経済的に使用してすべてを録画します。

スケジュール録画

連続録画はビデオの証拠を逃さず残すことができますが、ビデオが常にデバイスに対して設定された高フレーム レートで録画されるため、**大型のデータ ストレージが必要になります**。



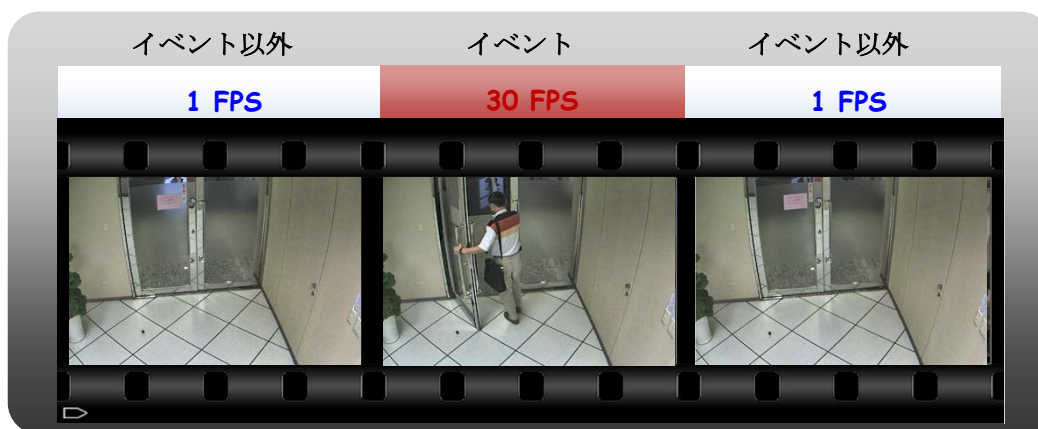
イベント録画

このモードは、イベント発生時以外の時間、録画が停止されるため、ストレージを効率よく利用できます。しかし、**デバイスの起動に失敗すると重要なビデオの証拠が欠落する可能性があります**。



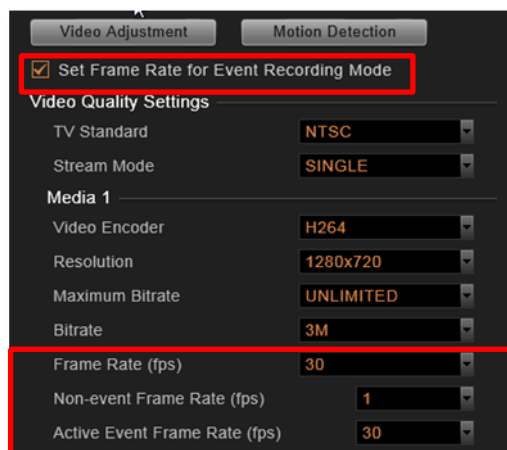
フレーム レートを調整したイベント録画：

いかなる瞬間も逃さずに常時録画を維持します。イベント以外の録画には低いフレーム レートを設定し、ストレージの消費量を抑えることができます。



フレーム レートを調整したイベント録画の活用方法

このフレーム レートを調整したイベント録画機能を活用するには、セットアップ ページ → デバイス タブ → ビデオ タブでフレーム レート設定を構成します。設定したフレーム レート (fps) が常にライブ ビューとスケジュール録画に適用されます。イベント録画モードのフレーム レートを設定するにチェックを入れると、イベント録画の詳細設定を行うことができます。デバイスがデュアル ストリーム モードの場合、録画ストリームに対するこれらの設定のみ設定する必要があります。



シナリオ A：

すべてのビデオを非常に高いフレーム レートで録画したいと希望する場合、十分なストレージがあれば、この機能は不要です。すべての録画に適用されるビデオのフレーム レートを設定します。それにより、NVR 3.0 はイベント録画期間中イベント以外を録画しません。

フレーム レートの設定	
☒ Set Frame Rate for Event Recording Mode	イベント録画
Frame Rate (fps) 30	イベント以外 : 0 fps
	イベント : 30 FPS

シナリオ B :

システムに常時録画を行わせ、イベント以外の録画を非常に低いフレーム レートにしたい場合、 イベント録画とスケジュール録画に異なるフレーム レートを設定します。「**Set Frame Rate for Event Recording Mode** - イベント録画モードのフレーム レートを設定する」を有効にするとともに、「**Non-event Frame Rate** - イベント以外のフレーム レート」と「**Active Event Frame Rate** - アクティブなイベントのフレーム レート」を設定する必要があります。

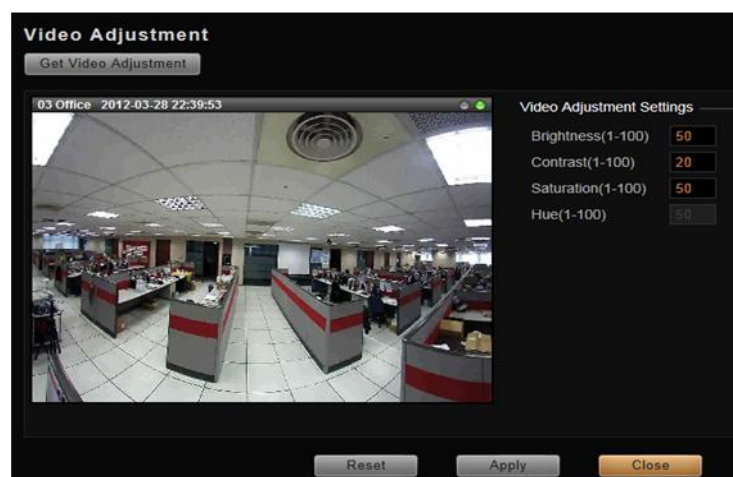
フレーム レートの設定	イベント録画
☒ Set Frame Rate for Event Recording Mode	
Frame Rate (fps) 30	イベント以外 : 1 FPS
Non-event Frame Rate (fps) 1	
Active Event Frame Rate (fps) 30	イベント : 30 FPS

画像の微調整 : 明度/コントラスト/彩度/色相

細部だけでなく、明度、コントラスト、彩度、色相も画像をリアルに近づけるために重要な要素です。 これらのプロパティ設定に対応しているデバイスについては、それらを直接調整し、NVR 3.0 システムのデバイスに保存します。

開始するには、**デバイス ビデオ** タブで、「**Video Adjustment - ビデオ調整**」をクリックします。 各フィールドは、デバイスが変更のためにこのプロパティを開いたときのみ利用可能になります。 デバイスがデュアル モードの場合、このウィンドウに表示されるビデオは常に **Stream 1** です。

1. 最初に、「**Get Video Adjustment - ビデオ調整の取得**」をクリックし、デバイスと同期して現在の設定を取得します。
2. デバイスから設定を取得した後、変更可能なフィールド（機種によって異なる）が有効になり、入力可能となります。 各フィールドに希望の値を入力します。
3. 「**Apply - 適用**」をクリックします。



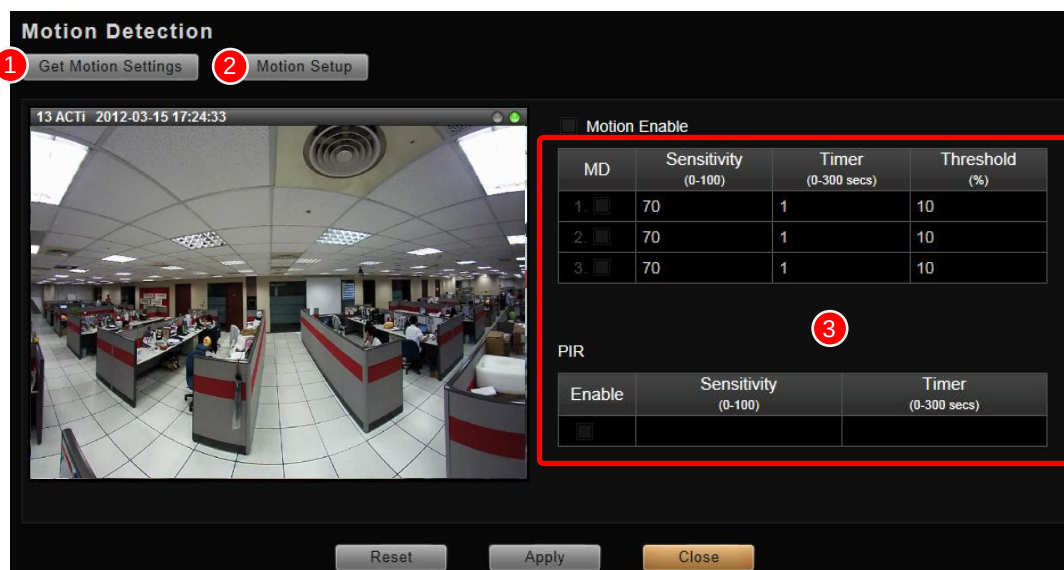
ビデオ調整の属性

フィールド名	説明
明度 (1-100)	画像に表れる明暗の度合いを定義します。数値を増すと画像はより明るくなり、減らすと暗くなります。
コントラスト (1-100)	明るさの値と暗さの値の差の度合いを定義します。数値を増すと明るさと暗さの差がより顕著になります。
彩度 (1-100)	実際の色の鮮やかさの度合いを定義します。数値を増すと色がより純色に近くなり、数値を減少するとより灰色混じりになります。
色相 (1-100)	純スペクトル色を指すために使用される語です。この値を調整して実際に近い色味を見つけます。

モーション設定の構成

デバイスがサポートしている動体検知や PIR 検知機能を活用するには、検知領域と設定を構成する必要があります。動体が検知されると、NVR 3.0 はイベントをトリガーして録画を開始し、即時にポップアップ ウィンドウを開いて、ライブ ビューで検知領域を表示します。

動体検知設定の構成を行う前に、IP カメラ / ビデオ サーバーに正常に接続し、デバイスの設定を取得できることを確認してください。 **デバイス タブ**→**ビデオ タブ**で、「**Motion Detection - 動体検知**」をクリックして開始します。



1. 「**Get Motion Settings - モーション設定の取得**」をクリックしてライブ ビューを取得します。デュアル モードの場合、このウィンドウに表示されるビデオは常に **Stream 1** となります。
2. 「**Motion Setup - モーションのセットアップ**」をクリックしてプロパティ フィールドを有効にします。
3. 設定できる動体検知領域が 3 つあります。いずれかを有効にするには、**MD** ボックスにチェックを入れると、ビューに赤い枠が表示されます。ビューでこの赤い枠を調整することで、検知領域の設定を開始することができます。マウスを使用して枠を移動させたり、大きさを変えたりすることができます。

枠全体を移動する

マウスのカーソルをタイトルバー上に置いてドラッグし、移動します。



この検知領域を無効にする

マウスのカーソルを右上隅に置き、「X」をクリックしてこの枠を閉じます。

検知領域のサイズを調整する

マウスのカーソルを右下隅上に置いてドラッグし、サイズを変更します。

4. 設定が完了したら、「**Apply - 適用**」を適用して保存し、「**Close - 閉じる**」をクリックしてこのページを閉じます。 設定した領域を確認または変更するには、「**Get Motion Settings - モーション設定の取得**」、「**Motion Setup - モーションのセットアップ**」、そして「**Motion Enable - モーション有効**」ボタンをクリックします。保存された領域がリストですでに選択されているので、1 つを選択して進めます。

調整の属性

フィールド名	説明
感度 (1-100)	動きに対してカメラをどの程度敏感に反応させるかを決定します。 感度レベルが高いほど、小さな動きがアラームをトリガーしますが、誤認警報が発生する可能性があります。 デフォルトは 70 です。
タイマー (0~300 秒)	次の動体検知が再度トリガー可能になるまでの間隔です。 デフォルトは 1 秒です。
しきい値 (%)	この動体検知領域のしきい値レベルです。 しきい値レベルが低いほど、領域の中の小さい部分が動体と見なされ、トリガーされやすくなりますが、誤認警報が多く発生する可能性があります。

注意事項

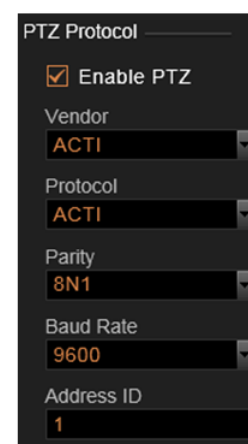
1. Web コンフィギュレータから動体検知の設定を変更した場合、NVR に戻り「**Get Device Settings - デバイス設定の取得**」を押してから、「**Apply - 適用**」をクリックして NVR に保存してください。 これは NVR の設定が常にデバイスと同期されるように確約するためです。
2. 動体検知領域が設定されている場合、この領域内で動きが検知されると、ライブ ビューでは：(1) 赤い領域の枠が点滅し、(2) 新しいアラートのエントリがイベント リストに生成されます。
3. PIR 検知はこの機能を備えた機種でのみ利用可能です。

PTZ デバイスの構成

PTZ デバイスはパン、チルト、ズームを自動で、または操作によって行うことができます。PTZ 関連のアプリケーションは NVR 3.0 で広くサポートされています。例えば、ユーザーインターフェース パネル制御やジョイスティックで PTZ カメラの動きを制御できます。デバイスは連続ツアーを実行するようにプログラムしたり、イベントによるトリガーであらかじめ設定された位置になるようにできます。 ACTi PTZ デバイスがシステムに追加されると、NVR 3.0 はデバイス機種のデフォルト設定を使用して PTZ 機能を有効にするため、すぐに PTZ 操作を開始できます。

PTZ デバイスの通信パラメータを変更した場合、NVR 側とデバイス側でこれらのパラメータが一致するように確認してください。

以下に ACTi ソリューションが対応している機能と必要な設定の一覧を示します。 ACTi パン/チルト/ズーム デバイス向けに PTZ プロトコルのプロパティを構成するときは、必要な設定が正確であることを確認してください。



ACTi パン/チルト/ズーム デバイス	ベンダー	プロトコル	ボーレート	パリティ	アドレス ID
IP ズーム カメラ / IP PTZ カメラ	V	V			V
IP スピード ドーム型 / IP カメラ搭載スキャナ / ビデオ サーバーに接続されたアナログ PTZ カメラ	V	V	V	V	V

パラメータの一致作業を開始するには、次のステップに従ってください。

1. デバイスがスピード ドーム型カメラまたはビデオ サーバーに接続されたアナログカメラの場合、製品インストール方法の指示に従い、物理デバイス上でパラメータを構成します。
2. デバイス（カメラまたはビデオ サーバー）の Web コンフィギュレータで、物理デバイス上の設定と一致するようにパラメータを構成し、PTZ 操作をテストしてデバイスが適切に設定され、接続されていることを確認します。
3. NVR 3.0 サーバーで、**セットアップ** ページ → **デバイス** タブを開き、**デバイス リスト** からデバイスを選択し、**PTZ** タブをクリックします。 **PTZ プロトコル**のセクションで、通信パラメータを入力します。

調整の属性

フィールド名	説明																																								
ベンダー	ベンダーはプロトコルの提供者です。 選択可能なベンダーはデバイスの機種によって異なります。 利用可能なベンダーのタイプは、 ACTi、DYNACOLOR、PELCO、SONY です。																																								
プロトコル	プロトコルは、デバイスとコントローラ間の通信形式を定義する一連の規則です。 選択したベンダーに基づいて異なるプロトコルから選択できます。 ベンダー別の利用可能なプロトコルは次のとおりです。 ACTi: [ACTi] / DYNACOLOR: [DYNACOLOR] / PELCO: [PELCOD] [PELCOP] SONY: [VISCA]																																								
パリティ	パリティは、シリアル ポート インターフェースを使用してデータの送受信を行うアナログ デバイス向けのデータ検証メカニズムです。 「none - なし」以外のパリティ モードを選択すると、潜在的なデータ損失に対してデータ パケットの検証が行われ、必要に応じて失敗したコマンドを再送信することができます。 アナログ デバイスのパリティ設定を参照し、NVR で完全に一致するパリティ設定を選択してください。 「ACTi」プロトコルを使用して ACTi ズーム、PTZ またはスピード ドーム型カメラをセットアップするときは、パリティの設定を無視することができます。 利用可能なパリティ モードは次のとおりです。 <table><tr><th>NVR のパリティモード名</th><th>シリアル データ、特定のビット量で表される</th><th>パリティ モード (なし、奇数、偶数)</th><th>ストップ ビット数</th></tr><tr><td>8N1</td><td>8</td><td>N</td><td>1</td></tr><tr><td>8O1</td><td>8</td><td>O</td><td>1</td></tr><tr><td>8E1</td><td>8</td><td>E</td><td>1</td></tr><tr><td>8N2</td><td>8</td><td>N</td><td>2</td></tr><tr><td>8O2</td><td>8</td><td>O</td><td>2</td></tr><tr><td>8E2</td><td>8</td><td>E</td><td>2</td></tr><tr><td>7N2</td><td>7</td><td>N</td><td>2</td></tr><tr><td>7O2</td><td>7</td><td>O</td><td>2</td></tr><tr><td>7E2</td><td>7</td><td>E</td><td>2</td></tr></table>	NVR のパリティモード名	シリアル データ、特定のビット量で表される	パリティ モード (なし、奇数、偶数)	ストップ ビット数	8N1	8	N	1	8O1	8	O	1	8E1	8	E	1	8N2	8	N	2	8O2	8	O	2	8E2	8	E	2	7N2	7	N	2	7O2	7	O	2	7E2	7	E	2
NVR のパリティモード名	シリアル データ、特定のビット量で表される	パリティ モード (なし、奇数、偶数)	ストップ ビット数																																						
8N1	8	N	1																																						
8O1	8	O	1																																						
8E1	8	E	1																																						
8N2	8	N	2																																						
8O2	8	O	2																																						
8E2	8	E	2																																						
7N2	7	N	2																																						
7O2	7	O	2																																						
7E2	7	E	2																																						
ボーレート	ボーレートはシリアル ポート インターフェース経由のデータ速度を定義します。 レート値は 1 秒間に伝送可能なシンボル数を表します。 アナログ デバイスのボーレート設定を参照し、NVR で完全に一致するボーレートを選択してください。 「ACTi」プロトコルを使用して ACTi ズーム、PTZ またはスピード ドーム型カメラをセットアップするときは、ボーレートの設定を無視することができます。 利用可能なボーレート： 2400、4800、9600、19200、38400、57600、115200																																								

アドレス ID	アドレス ID はデバイスの ID を表します。アナログ デバイスまたはスピード ドーム型カメラのみこの設定が必要です。 デバイスのアドレス ID を参照し、完全に一致するボーレート設定を NVR 3.0 でも選択してください。 . 利用可能な値は 1~99 です。 デフォルトで、ACTi デバイスは「1」をアドレス ID として使用します。 変更しないことを推奨します。
----------------	--

ライブ PTZ 操作の実行方法

PTZ 設定を構成するには、ライブ ストリーミングを表示しながらこのウィンドウで同時に PTZ 制御を行う必要があります。



PTZ ナビゲーションには 2 種類あります。

光学 PTZ ナビゲーション

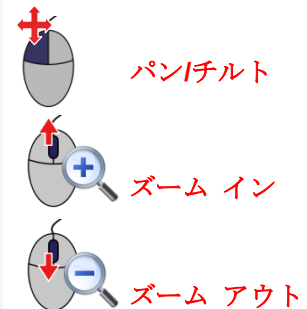
1. ライブ ビュー ウィンドウからライブ ビューを取得する：

「**Enable PTZ - PTZ 有効化**」にチェックが入っていることを確認します。ライブ ビュー ウィンドウに赤い十字が表示されます。デバイスがデュアル ストリーム モードの場合、このウィンドウには常にライブ ビューのストリーム セットが表示されます。  をクリックしてストリーム間を切り替えることができます。

2. マウスを配置して、次の PTZ 操作を行う：

■ 光学パンおよびチルトを実行するには、ライブ ウィンドウの任意の場所をクリックしてカメラをその方向に移動させます。 方向インジケータの長さはパンおよびチルト速度に比例します。 中央から遠くにカーソルを配置するにつれて、パン/チルト動作の速度が速くなります。

■ 光学ズーム インまたはズーム アウトを実行するには、マウス ホイールを前にスクロールするとズーム イン、マウス ホイールを後ろにスクロールするとズームアウトすることができます。



3. パネル コントロールを使用して PTZ を操作する：
パネル上の任意のボタンをクリックして開始します。赤い十字がビュー内に表示されます。



注意事項

1. ズーム ボタンは光学ズームに対応しているデバイスでのみ利用できます。
2. フォーカス ボタンは制御可能なズーム レンズ（例：KCM5211）を備えたデバイスでのみ利用できます。これらのボタンを使用する前にデバイス ファームウェアで自動フォーカス モードをオフにしてください。
3. 絞り調整ボタンを使用する前に、DC アイリスまたは P アイリスを搭載したデバイスは手動アイリス モードに切り替えられている必要があります。

デジタル PTZ ナビゲーション

デジタル PTZ を使用して、ビデオの一部にズームインし、それを画面上で拡大表示することができます。この PTZ 機能は NVR 3.0 システムのすべてのカメラ機種に適用されます。

1. ライブ ビュー ウィンドウからライブ ビューを取得する：
「Enable PTZ - PTZ 有効化」にチェックが入っていないことを確認します。
2. 任意のチャンネル上でハイライト表示された矩形をクリックしてドラッグすると、ハイライト表示されたエリアが全画面のライブ ビデオ ウィンドウに表示されます。このモードでは、PiP（映像の重ね合わせ）ビューがライブ ビュー ウィンドウの右下に表示されます。赤い矩形は現在全画面で拡大されているビュー エリアを示します。赤い矩形をクリックしてドラッグし、別のエリアを見ることができます。
3. 元の全画面ビデオ表示に戻すには、最小化表示された PiP ビューを右クリックします。



ズーム エリアを
マークする



ズーム エリアをキ
ャンセルする

PTZ プリセット ポイントの設定

PTZ デバイスでは、(パンとチルトを通して) どこを見るか、およびどのくらい (ズームを通して) ズームするかによってビューを定義することができます。これらのビューがプリセットポイントとして NVR 3.0 に保存されると、イベントによるトリガーまたはユーザーのコマンドに基づいてデバイスを常にこのビューに向けることができます。

1. セットアップ ページ → デバイス タブを開き、デバイス リストからデバイスを選択して、**PTZ** タブをクリックします。
2. PTZ 操作で制御して希望のビューにデバイスを向け、ズーム レベルを調整します (利用可能な場合)。**PTZ プリセット ポイント**のセクションで、プリセットポイント名のフィールドをクリックして名前を編集してから、「+」をクリックしてこのポイントを設定します。希望のプリセットポイントの設定を終えたら、「**Apply - 適用**」をクリックします。設定したポイントの確認は、「→」をクリックするとそのポイントへ移動し、「X」をクリックするとそれを削除できます。既存のポイントを変更するには、次の手順に従います。**1.** ポイントを選択します。**2.** 新しいビューを定義します。
3. 「+」をクリックして設定します。**4.** 「**Apply - 適用**」をクリックして保存します。



3. プリセットポイントを設定すると、ライブビュー → **PTZ コントロール** パネルで利用可能になります。

PTZ コマンドの設定

スピード ドーム型カメラまたは PTZ デバイスに標準のプロトコルでサポートされていない特殊な機能がある場合、**PTZ コマンド** リストに入力して実行することができます。 例：ワイパーを有効にして PTZ のウィンドウをきれいにします。

1. PTZ 操作コマンドを追加するには、**セットアップ** ページ → **デバイス** タブを開き、**デバイス** リストからデバイスを選択して、**PTZ** タブで「**Enable PTZ - PTZ 有効化**」にチェックを入れます。

ID	Name	PTZ Command
1	Wash	FF01000418001D
2	Wipe	A00000000A0800FFAF...

2. 「**PTZ Command - PTZ コマンド**」エリアのコマンド エントリでクリックして名前、コマンドを入力し、「**Apply - 適用**」をクリックして保存します。 また「**→**」をクリックしてそれを実行したり、「**X**」をクリックしてクリアすることもできます。

PTZ プリセット ツアーの設定

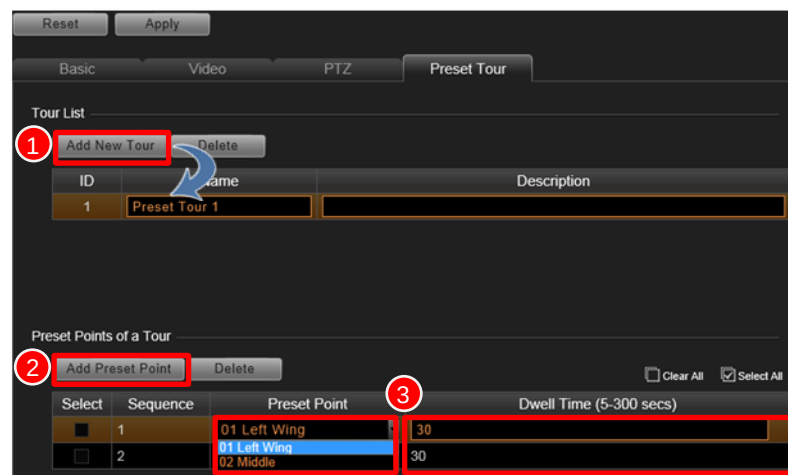
プリセット ツアーは、どの場所をどのくらいの間見るかを含め、複数のプリセット ポイントにカメラを向けて循環させる事前設定された PTZ のシーケンスです。このプリセット ツアーで、PTZ デバイスに重点エリアを自動巡回させることができます。たとえば、1 つのプリセット ツアーには 2 ヶ所以上のプリセット ポイントが含まれます。ツアーが開始されると、デバイスはシーケンスに基づいて自動的にプリセット ポイントに向けられ、設定された時間に基づきその場所の表示を続けます。



プリセット ツアーを設定する前に、PTZ 設定を構成済みで、PTZ プリセット ポイントが設定されていることを確認してください。 次のようにプリセット ツアーの設定を開始します。

1. **セットアップ** ページ → **デバイス** タブを開き、**デバイス** リストからデバイスを選択して、**プリセット ツアー** タブをクリックします。
2. 「**Tour List - ツアー リスト**」で、現時点では既存のツアーがないため、「**Add New Tour - 新規ツアーの追加**」をクリックしてツアーを追加します。 デフォルトのツアー名は「**Preset Tour 1 - プリセット ツアー 1**」です。

3. 「**Preset Points of a Tour - ツアーのプリセット ポイント**」エリアで、「**Add Preset Point - プリセット ポイントの追加**」をクリックしてこのツアーのポイントを複数追加します。ポイントの数は 1 回のツアーで同じプリセット ポイントを 2 回以上通過することもあり得るため、実際に設定されたプリセット ポイントの数より多くなることもあります。各ポイントについて、「**Preset Point - プリセット ポイント**」のフィールドをクリックしてドロップダウン リストを表示し、プリセット ポイントを 1 つ選択して、特定のビューにデバイスが留まる時間を表す滞留時間を定義します。最後に、「**Apply - 適用**」をクリックしてツアーを保存します。



4. ツアーを保存すると、ライブ ビュー ページ→PTZ コントロール パネルで利用可能になります。

注意事項

NVR 3.0 で設定されたプリセット ポイントおよびツアーと、デバイスで設定されたものとは独立しています。デバイスで特定のプリセット ポイントまたはツアーを定義済みの場合、それらが NVR システムに取り込まれることはありません。また、NVR 3.0 の設定はデバイスに書き込まれません。

スケジュール録画

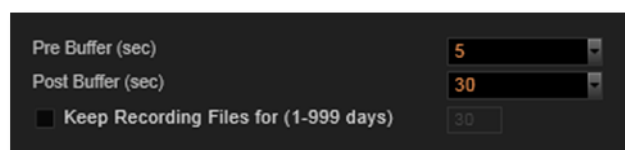
従来のアナログ監視システムと違い、IP 監視システムはデバイスに標的化した録画スケジュールを提供します。必要な時間セグメントとイベントのタイプに基づいて各デバイスのビューを録画できます。例えば、オフィスの天井に設置されたカメラは勤務時間中連続録画を行い、夜はトリガー（システムに検知されたインシデント）に基づいて録画するようにできます。それにより、システムは意味のない部分の保存にディスク領域を無駄にすることがなく、特定のイベント再生時のブラウジングにかかる手間を省くことができます。

デバイスの録画スケジュールについて、NVR 3.0 はスケジュール録画モードとイベント録画モードをサポートしており、週毎の時間割に基づいて設定できます。イベント処理スケジュールもそこで設定できます。このセクションでは、IP カメラ / ビデオ サーバーの録画スケジュール設定方法について説明します。

録画ファイルのプロパティ構成

録画スケジュールを設定する前に、(1) 録画を保存する場所、(2) イベント録画の長さ、(3) 録画ファイルをシステムで維持する期間を定義できます。

1. 保存される録画用のフォルダーを設定するには、**セットアップ** ページ→**ストレージ** タブを開き、録画ファイルを保存するためのディスク ドライブを割り当てます。録画に関連する設定については、ストレージ管理（74 ページ）を参照してください。
2. イベント録画の長さや録画のライフサイクルを定義するには、**セットアップ** ページ→**スケジュール** タブを開き、**デバイス** リストからデバイスを選択すると、週間スケジュールが右側に表示されます。録画ファイルに関連する設定を構成します。下の設定では、イベント録画が 5+30 秒間行われ、サーバー上に 30 日間維持されます。



属性の説明

フィールド名	説明
イベント前録画バッファ（秒）：	NVR はデバイスから受信したビデオの短いキャッシュを維持します。イベントがトリガーされると、NVR はイベントそのものの録画とともにイベント前のバッファを自動的に保存します。0、3、5 秒から選択できます。
イベント後録画バッファ（秒）：	イベントがトリガーされてからどのくらいの間をイベント録画ファイルに含めるかを決定します。10、30、60、120、180、300 秒から選択できます。

録画ファイルを維持する期間 (1~999 日間) :	NVR 3.0 は特定のデバイスの録画ファイルをここで設定された日数の間維持します。 デフォルト値は 30 です。これを変更したい場合、ボックスにチェックを入れてから設定を行ってください。 利用可能な値は 1~999 日です。
---------------------------------------	---

ヒント

適切なストレージ配備の方法

NVR 3.0 システムでは、ニーズの違いに基づいて使用できる 2 つのファイル削除メカニズムがあります。 両方のルールが設定されている場合、早くしきい値に到達したほうが最初に削除を実行します。

1. 「**Keep Recording Files for (1-999 days) - 録画ファイルを維持する期間 (1~999 日間)**」 – このルールはどのくらいの間録画を維持するかに懸念がある場合、特に古い録画を特定の期間以上システムに維持しておきたくない場合に設定します。
2. セットアップ ページ → ストレージ タブのディスク ドライブ リストにある「**Reserve space - 予約領域**」は、システムにおいてディスク領域がより重大な意味を持つ場合、ここで適切な値を設定します。それにより常にこの量の領域が新しい録画の保存用にシステムによって予約されます。

例えば**予約領域**を **30G** に設定し、**録画ファイルを維持する期間**を **5 日間**に設定した場合、利用可能なディスク領域が充分にあっても、ディスク上に **5 日間**維持された録画ファイルは削除されます。

ルールを設定する前に、ACTi 社の Web サイト : http://www.acti.com/project_planner から ACTi が提供している便利なストレージ計算機を使い、システムに必要なストレージの見積もり量を知ることができます。

スケジュールの設定

ここではカメラの録画スケジュールを 7 日間 / 24 時間ベースで設定することができます。スケジュールは 20 分の長さのセグメントに分割されます。デフォルトで、デバイスがシステムに追加されると、そのスケジュールは自動的にフルタイム スケジュールの録画とイベント処理に設定されます。スケジュールはシステムの計画に基づいて設定することができます。セッアップ - スケジュール タブを開き、スケジュール設定パネルで次を行います。

1. 「Recording Mode Bar - 録画モード バー」から録画モードを選択します。

Schedule Recording : そのチャンネルの連続録画

Event Recording : イベント録画、イベントのみが録画される

Event Handling : イベント処理が有効

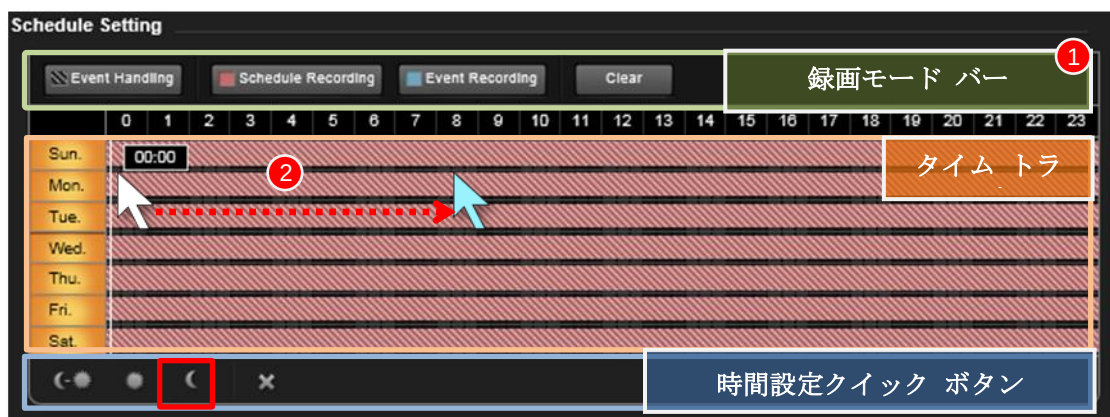
(イベント ルールの編集方法 (64 ページ) のイベント ルール設定を参照)

Clear : 設定をクリア

Schedule Recording + **Event Handling** : 連続録画 + イベント処理

Event Recording + **Event Handling** : イベント録画 + イベント処理

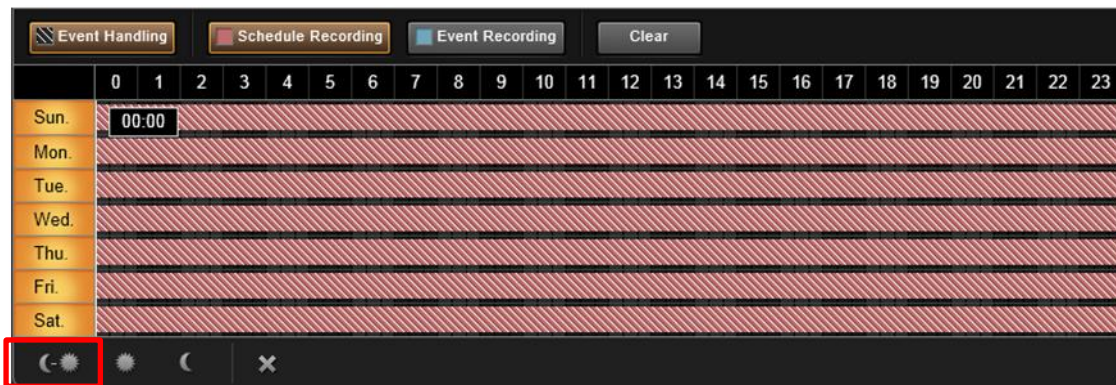
2. クリックして「Time Track - タイムトラック」にドラッグし、期間を設定します。



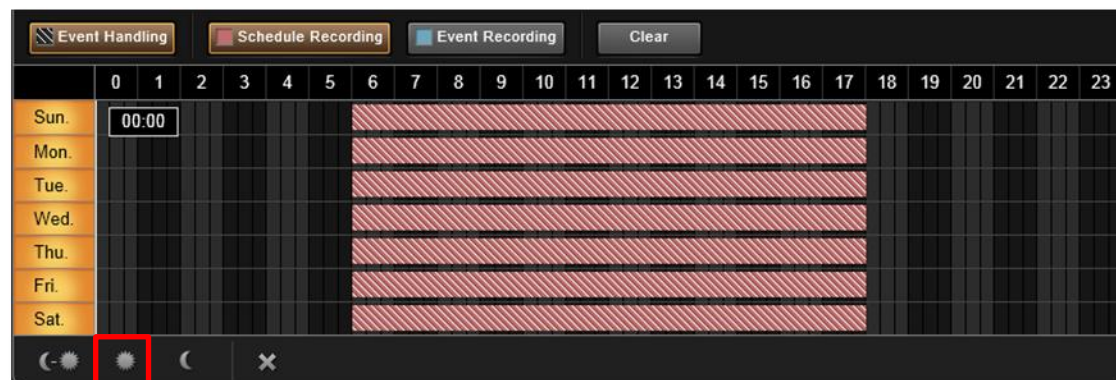
時間設定クイック ボタンを使用したワン クリックによる時間の設定

録画モードを選択してから、これらボタンのいずれかをクリックして、最も頻繁に使用される時間設定を適用します。

全日にスケジュールを適用するには、 をクリックします。



毎日 **06:00 ~ 18:00** にスケジュールを適用し、タイムトラックの残りの時間に対する設定をクリアするには、 をクリックします。



毎日 **18:00 ~ 06:00** にスケジュールを適用し、タイムトラックの残りの時間に対する設定をクリアするには、 をクリックします。



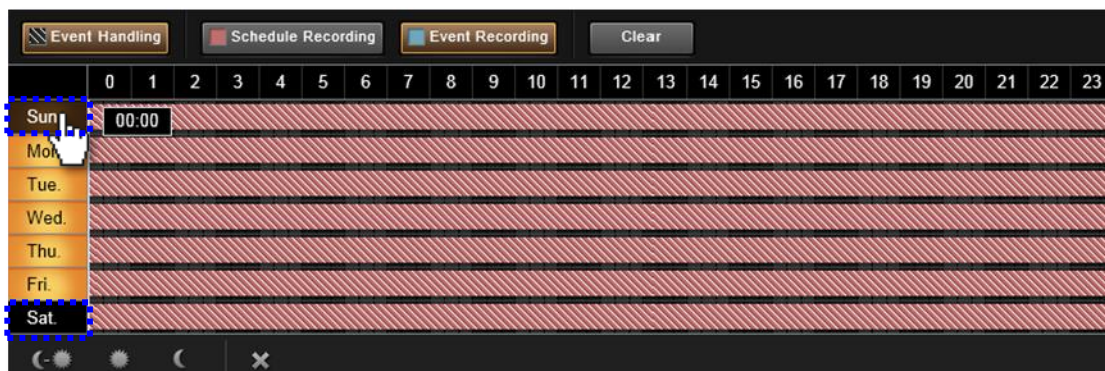
このデバイスの全スケジュール設定をクリアするには、 をクリックします。



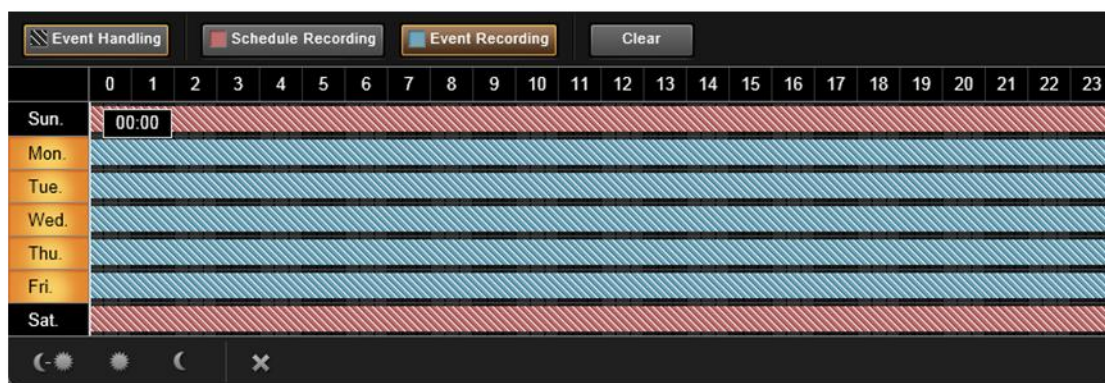
特定の曜日のロック

曜日をクリックすると、その曜日をスケジュール設定からロック/ロック解除します。他の曜日の変更によって特定の曜日のスケジュールが変更されないように保護することができます。これにより、平日のみ、または同じ週の同時刻を簡単に設定できます。方法は次のとおりです。

1. 保護する曜日をクリックします。



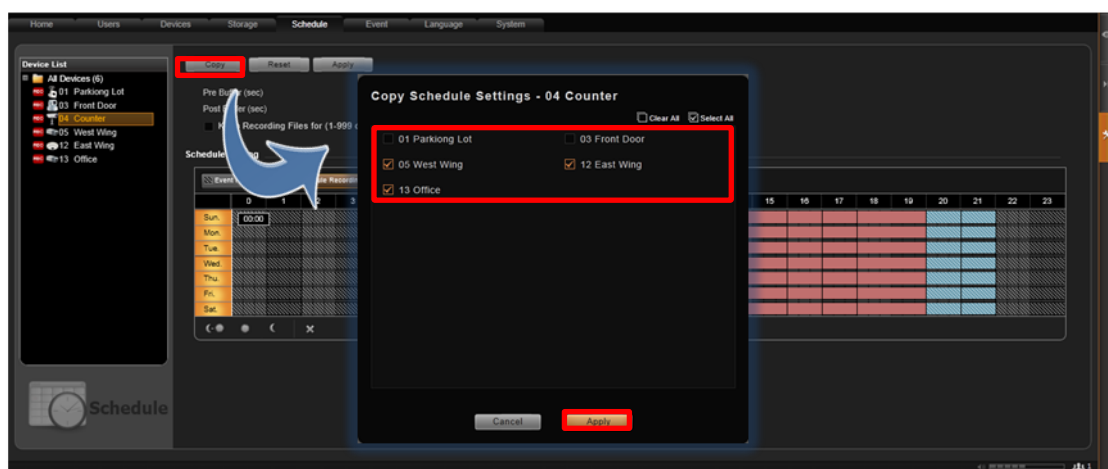
2. 任意の設定をタイムトラックにドラッグしたとき、これらの保護された曜日には適用されません。



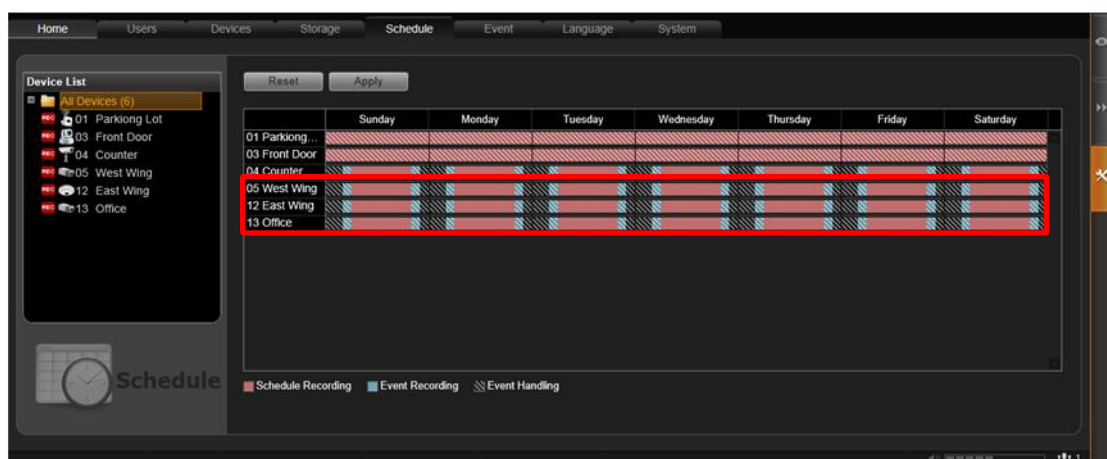
既存のスケジュールを他のデバイスにコピーする

システム内にたくさんのデバイスがある場合、同じスケジュールを複数のデバイスに適用したい場合があります。1つのデバイスに対してスケジュールを作成した後、それを他のカメラにコピーすることができます。

1. セットアップ ページ → スケジュール タブを開き、デバイス リストでスケジュール設定のコピー元としたいデバイスを選択します。
2. 「Copy - コピー」 ボタンをクリックします。
3. ポップアップ ウィンドウで、スケジュール設定のコピー先としたいターゲット デバイスを選択します。
4. 「Apply - 適用」 ボタンをクリックします。

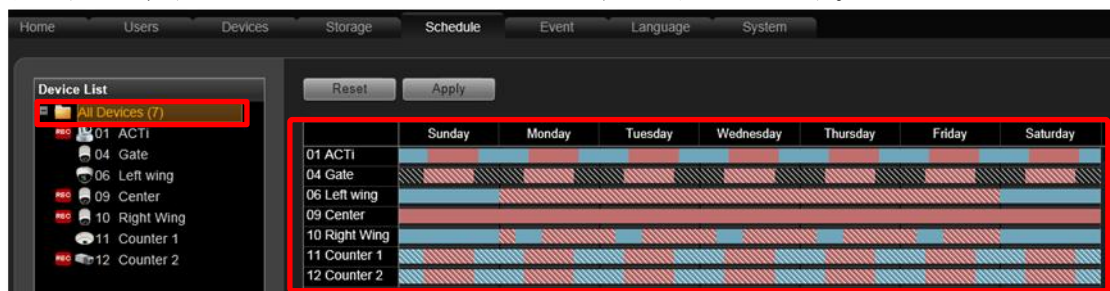


結果を確認するには、スケジュール タブを開き、デバイス リストですべてのデバイスをクリックします。



録画スケジュール全体の表示

セットアップ ページ → スケジュール タブで、デバイス リストのすべてのデバイスをクリックすると、すべてのデバイスのスケジュールが右側に表示されます。



以下のリストで異なるバー パターンのステータスを説明します。

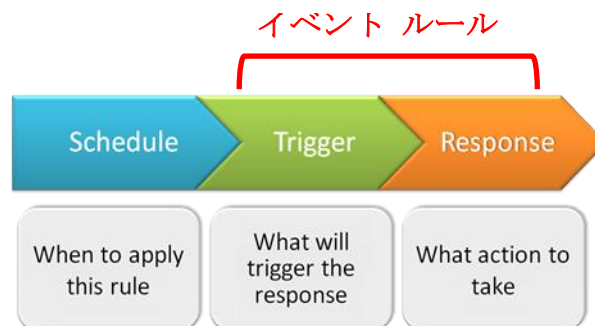
アイコン	録画機能の説明
	スケジュール録画。 この期間、デバイスは連続録画されます。
	イベント処理。 このスケジュール中、設定されたイベント ルールが有効です。
	スケジュール録画とイベント処理の両方がこの期間有効です。
	イベント録画。 この期間、検知されたイベント（例：動体/PIR）のみが録画されます。
	イベント録画とイベント処理の両方がこの期間有効です。

録画が進行中か否かのチェック方法

録画が行われているとき、**全デバイス** リストでステータスを観察できます。 デバイスの前にアイコン  が表示されます。 再生で、再生バーを現在の時間の位置にドラッグして最新の録画を確認できます。

イベント管理

カメラの場所で誰かが通ったり、ドアが開閉されたり、出火したり、日が沈んだりなど、何かが発生すると、これらはすべて**イベント**と呼ばれます。 周囲で発生するイベントまたはカメラで事前にプログラムされたイベントは、**トリガー**として使用することができます。 トリガーはデバイスに**レスポンス**で反応を生じさせます。 トリガーとレスポンス間のつながりは**イベント ルール**に基づいています。 イベント ルールは週間**スケジュール**に基づいて有効または無効になります。 各イベント ルールは 1 つの特定のトリガーを検知し、複数のレスポンスを開始させることができます。 ルールの一例としては、イベント処理が有効な期間（**スケジュール**）中、カメラからの動体検知がトリガーされると（**トリガー**）、NVR がスーパーバイザに警告のための電子メールを送信し（**レスポンス 1**）、アラームをトリガーします（**レスポンス 2**）。



NVR のイベント処理方法

NVR 3.0 では、各デバイスが複数のイベント ルールに則っている場合があります。 デバイスの機種によって機能が異なるため、サポートされるイベント トリガーのタイプはさまざまです。 例えば、PIR 内蔵カメラは PIR トリガーによるイベント ルールを実行できますが、このオプションはこの機能を持っていない他の機種には提供されません。 同様に、サポートされるレスポンスのタイプもデバイス機種によって異なり、例えば移動プリセットの挙動は PTZ デバイスでのみ実行できます。 下のチャートに NVR 3.0 がサポートしている**トリガー**のタイプと**レスポンス**のタイプを示します。 NVR サーバーにデバイスが追加されると、ユーザーが構成を行うことができるように、サーバーが互換性のあるトリガーのタイプで空のルールを作成します。

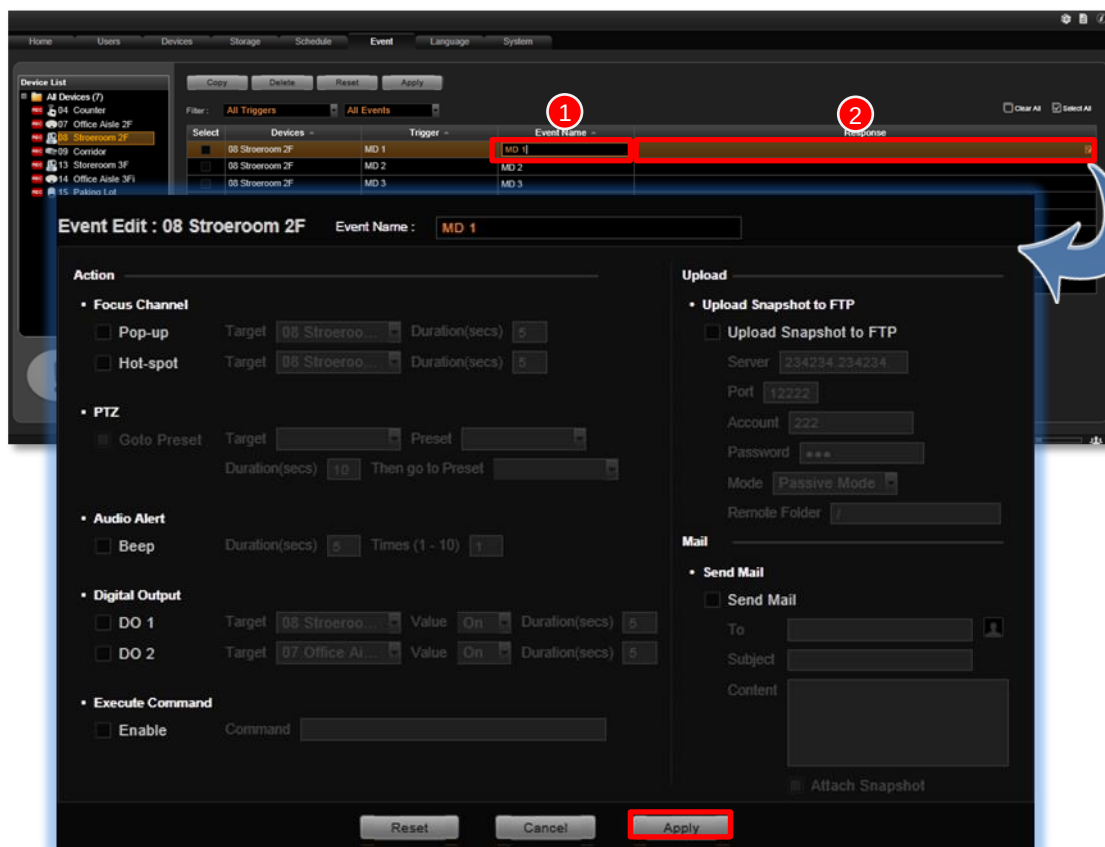
トリガー タイプ	レスポンス タイプ
Video Motion Detection	Focus Channel in Live View
Digital Input	Make Device Pan/Tilt/Zoom
PIR Detection	Audio Alert
Video Loss	Trigger DO Device
Video Recovery	Execute URL Commands
Network Loss	Upload Snapshots to FTP
Network Recovery	Email Notifications/ Snapshots

イベント ルールの編集方法

1. セットアップ ページ → イベント タブを開きます。 編集可能なすべてのイベントルールがデバイス ID 順に記載されています。
2. 左側のデバイス リストからデバイスを選択します。 このデバイスがサポートしているトリガーのタイプに基づいて、対応するイベント ルールが右側に記載されています。 この例では、この選択されたカメラの機種が 3 つの動体検知領域をサポートしているため、3 つの MD トリガー イベント ルールが利用可能です。

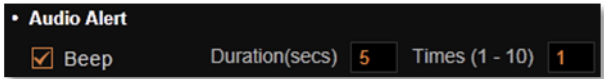
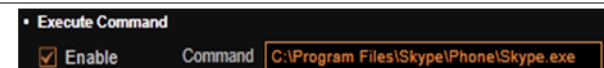
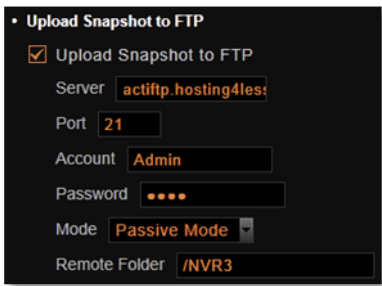


3. 編集したいルールをハイライト表示します。 イベント名を編集するには「Event Name - イベント名」の欄をクリックし、レスポンス アクションを編集するには「Response - レスポンス」の欄をクリックします。



NVR 3.0 システム管理者向けマニュアル

ボックスにチェックを入れて項目を有効にすることで、複数のレスポンス アクションを有効にすることができます。

アクション項目	機能の説明
	この種のアクションはトリガーされたときにチャンネルに注意をひきつけます。 ポップアップ： トリガーされると選択されたチャンネルのイベント ポップアップ即時再生ウィンドウが開きます。 ウィンドウでのビデオ表示期間を選択することもできます。 ホットスポット： イベント発生時ホットスポット ウィンドウ (赤い点滅する枠) でビデオを表示します。 ホットスポット ウィンドウでのビデオ表示期間を選択することもできます。
	トリガーされたとき、一部カメラはレスポンスとして特定の PTZ プリセットに移動するなど PTZ 動作を行うことができます。開始点と終了点の両方、および期間を設定することができます。 このアクションは PTZ デバイスにプリセット ポイントを設定済みのときのみ利用可能です。
	NVR が繰り返しビーブ音を再生するように設定します。
	トリガーされると DO がオンまたはオフになるように設定します。 DO 機能に対応しているデバイスのみをターゲット デバイスとできます。
	このイベント時に NVR が特定のコマンドを実行できるようにします。 これを使用して NVR のイベント処理を他のプログラムと統合することができます。 イベント時に実行されるコマンドのパスを入力します。
	このイベント時に NVR が FTP を FTP サイトにアップロードできるようにします。 デフォルトの FTP 設定は事前にセットアップ ページ→システム タブ→設定 → FTP 設定で設定できます。 単一イベントに対して別の FTP 送信先をここで設定できます。 FTP サーバー設定が正確であり、フォルダーアクセス権限が適切に構成されていることも確認してください。



NVR が SMTP サーバー経由で電子メール通知を送信できるようにします。デフォルトの SMTP と送信者の電子メール設定は事前に

セットアップ ページ → システム タブ → 設定 → 電子メールおよび SMTP の設定で設定できます。

- 1 人以上の受信者の電子メール アドレスを「To - 宛先」の欄に入力します（2 人以上の場合、「;」のシンボルでアドレスを区分してください）。または、 アイコンをクリックして既存の NVR ユーザー リストから受信者を選択します。このリストで選択できるように、NVR ユーザーの電子メールアドレスは事前に（セットアップ ページ → ユーザー タブ → ユーザー）設定しておく必要があります。
2. 電子メールの件名と内容を編集します。
3. スナップショットを添付するか否かを選択します。 イベント トリガーのタイプがビデオ 復旧またはネットワーク復旧の場合、この機能は無効です。

4. アクションの設定後、「Apply - 適用」をクリックしてこのレスポンスを保存します。
5. セットアップ ページ → スケジュール タブを開き、このデバイスのイベント処理スケジュールを設定します。 イベント レスポンスは、トリガー時間がイベント処理録画またはスケジュールされたイベント処理録画期間のいずれかの時間内であるときのみトリガーされます。
6. このルールが正しく設定されているかを確認するには、関連の (1) トリガー側の設定（動体検知領域や DI など）、(2) レスポンス側の設定（PTZ プリセット ポイント、SMTP サーバー、電子メール受信者、FTP サーバー、DO など）が適切に構成されていることを確認してください。 その後現在の時間にイベント処理スケジュールを設定し、このルールをトリガーします。

注意事項

1. 電子メールの送信、スナップショットの FTP へのアップロード、コマンド実行操作はクライアント コンピュータからではなく、サーバー コンピュータで実行されます。
2. イベントが発生したときにイベント レスポンスが作動するためには、デバイスからのビデオ ストリームがある必要があります。
3. Internet Explorer ブラウザが即時再生ウィンドウの頻繁なポップアップ表示によって不安定になることがあるため、頻繁にトリガーされるデバイスに対するイベント ルールとして「Pop-up - ポップアップ」アクションを設定しないようにしてください。 次のサーバー バージョン v3.1 では Internet Explorer ブラウザでのプログラム効率が改善されます。

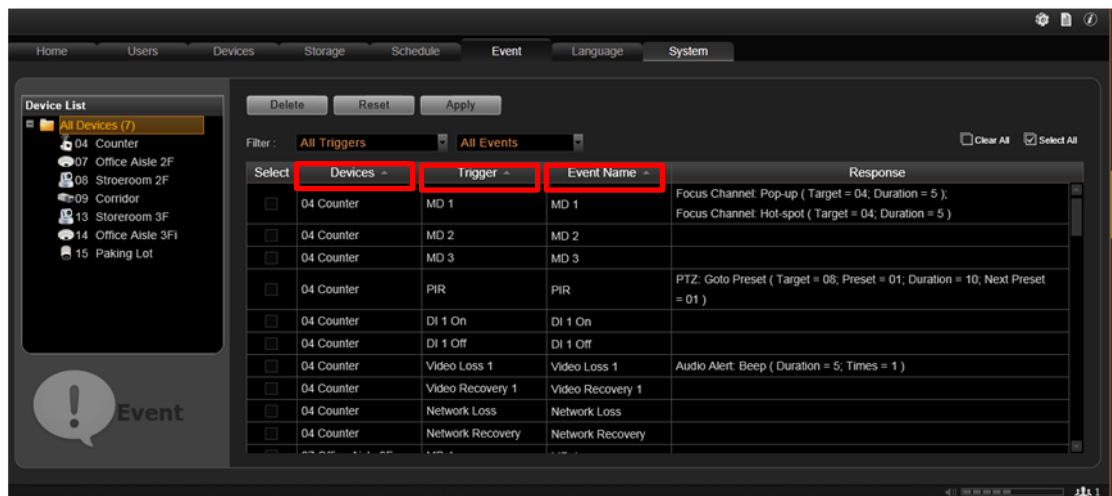
イベント ルールの管理

イベント リスト パネルでは NVR サーバーで設定されているイベント ルールの概要を確認できます。 セットアップ ページ → イベント タブ → を開き、左側のすべてのデバイスを選択します。

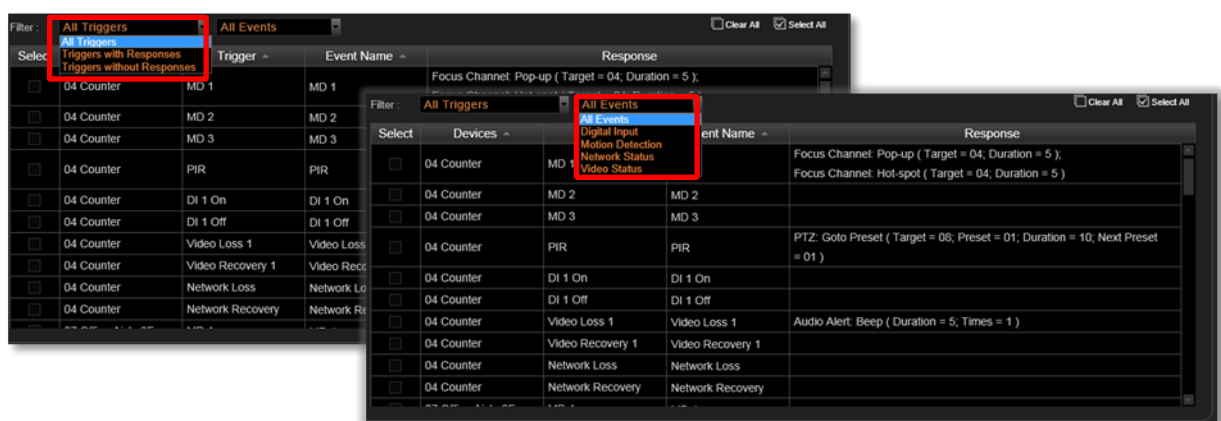
すべてのデバイスの利用可能なルール全体がここに記載されているため、長いリストから一部のみを分類したい場合があります。

イベント ルールの表示

デバイス名、トリガー タイプまたはイベント名で並べ替えるには、タイトルをクリックしてエントリを昇順または降順に並べ替えます。

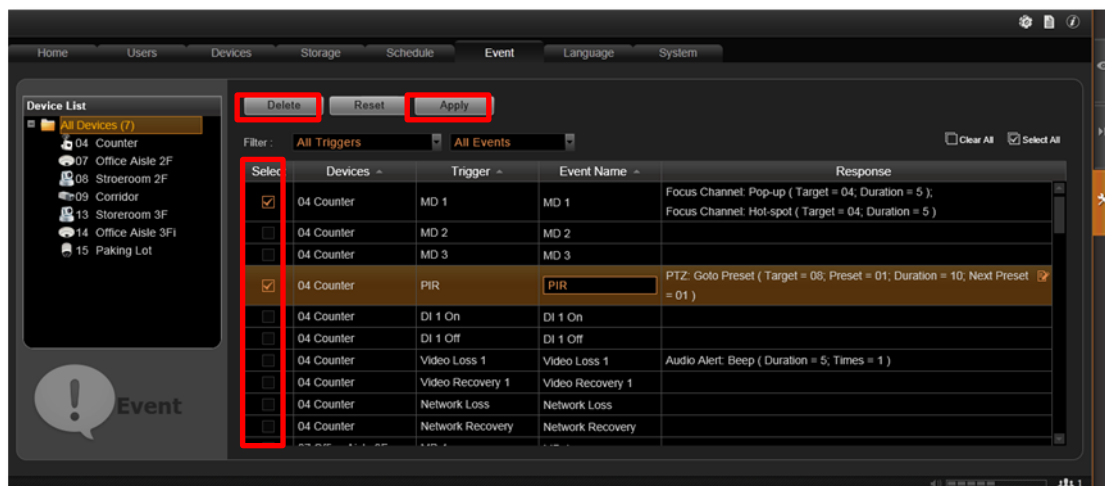


構成済みのイベントでフィルタリングするには、「All Triggers - すべてのトリガー」ドロップダウン リストから選択します。またはイベントのタイプでフィルタリングするには、「All Events - すべてのイベント」ドロップダウン リストから選択します。



イベント ルールの削除

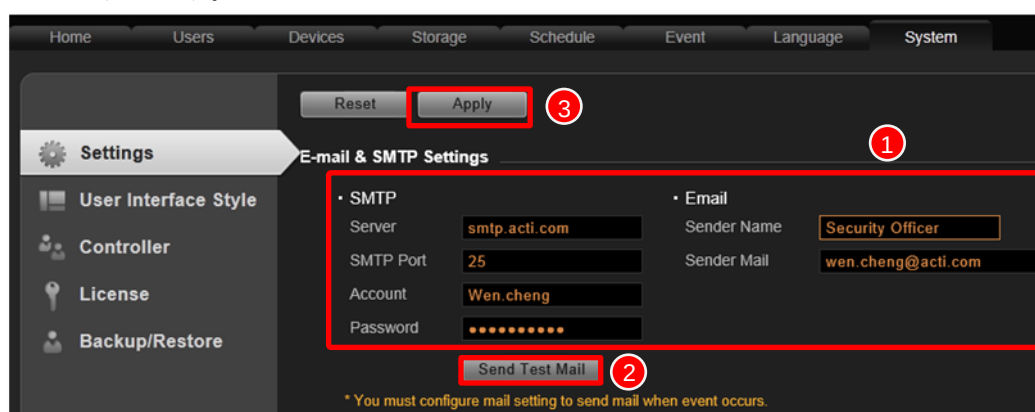
イベント リストで削除したいルールを選択してから、「Delete - 削除」、そして「Apply - 適用」をクリックして変更を保存します。



イベント ルールに対する SMTP 設定のセットアップ方法

NVR 3.0 は SMTP サーバー経由で送信されるイベント処理のメール通知をサポートしています。電子メールとサーバーの設定をここで指定できます。

1. セットアップ ページ → システム タブ → 設定 → 電子メールおよび SMTP の設定を開きます。



2. 次の各フィールドに入力します。

フィールド名	説明
サーバー	送信者の SMTP サーバー アドレスを入力します。英数字とシンボル (.), (), (-) のみ有効です。NVR サーバーは <u>SSL プロトコルの SMTP サービスをサポートしていません</u> 。無料 Web メール SMTP サービスを使用したい場合、 Yahoo (SMTP: smtp.mail.yahoo.com ポート: 25) や SSL 認証を必要としない SMTP サーバーの Web メール プロバイダを選択してください。
SMTP ポート	SMTP ポートを設定します。1~65535 が許可された値です。デフォルトは 25 です。
アカウント	SMTP サーバー アカウントの名前を入力します。英数字とシンボル (@), (.), (), (-) のみ有効です。
パスワード	SMTP サーバー アカウントのパスワードを入力します。英数字のみ有効です。

送信者名	送信者の名前または役職を入力します。 アカウント名とは異なる名前を入力できます。
送信者メールアドレス	送信者のメールアドレスを入力します。SMTP サーバーに設定されたものと同じアカウントとします。

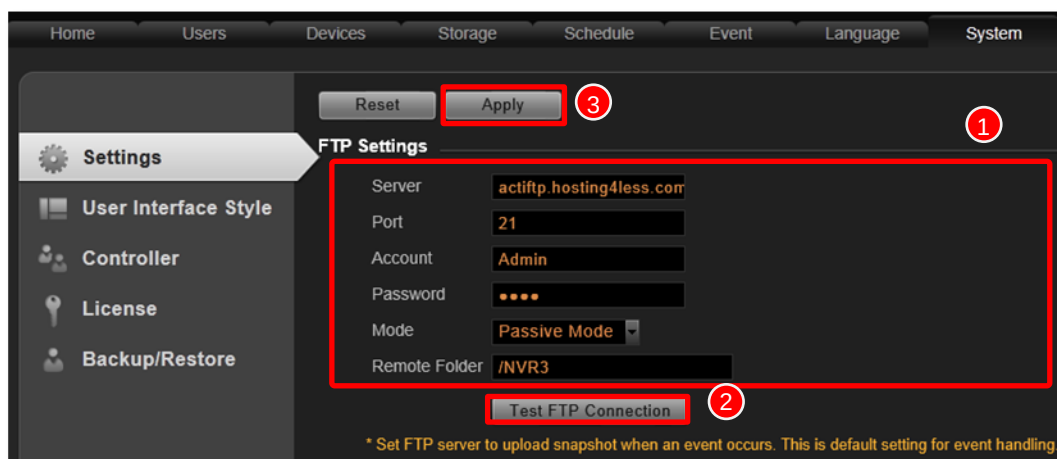
- すべての必要な情報を入力したら、「**Send Test Mail - テスト メール送信**」をクリックして設定に基づいたメールの送信を試します。その後 SMTP サーバーにログインして受信メールを確認します。 テスト メールが正常に送信されたら、NVR サーバーは電子メール送信の準備が整ったことになります。
- 設定を確認し、「**Apply - 適用**」をクリックして保存します。

イベント ルールに対する FTP 設定のセットアップ方法

NVR 3.0 はイベント処理のための FTP サーバーに対するスナップショットのアップロードをサポートしています。

電子メールとサーバーの設定をここで指定できます。

- セットアップ ページ → システム タブ → 設定 → 電子メールおよび SMTP の設定を開きます。



- 次の各フィールドに入力します。

フィールド名	説明
サーバー	FTP サーバー アドレスを入力します。 英数字とシンボル (.), (_), (-) のみ有効です。
ポート	FTP ポートを設定します。 1~65535 が許可された値です。デフォルトは 21 です。
アカウント	FTP サーバー アカウントの名前を入力します。 英数字とシンボル (@), (.), (_), (-) のみ有効です。
パスワード	FTP サーバー アカウントのパスワードを入力します。 英数字のみ有効です。

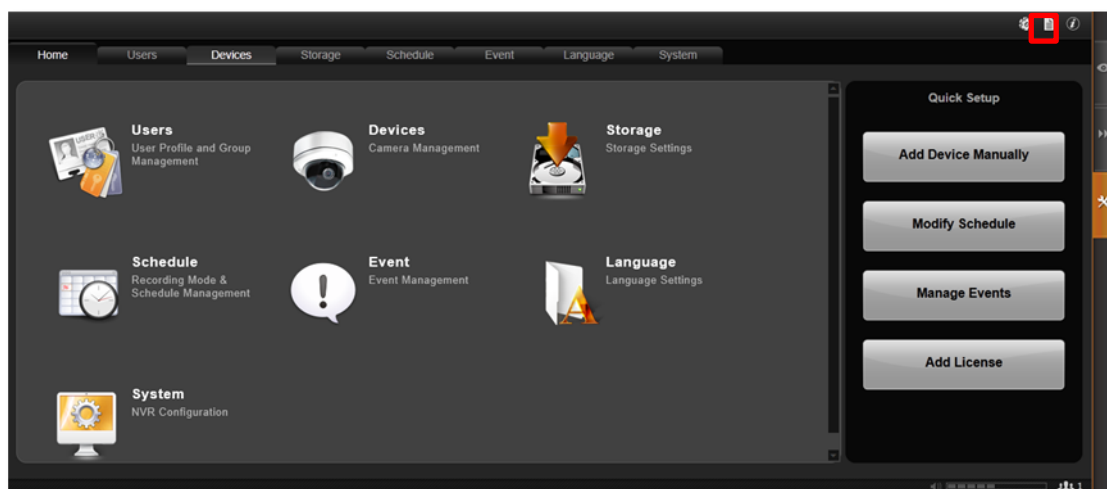
モード	FTP はアクティブ モードとパッシブ モードの 2 つの異なるモードで動作します。FTP サーバーがファイアウォールまたは NAT ルーターの後ろにある場合、「 Passive - パッシブ 」モードを使用する必要があります。
リモート フォルダー	ファイルのアップロード パスを入力します。デフォルトは「/」で、ルート フォルダーを表します。

- 必要な情報をすべて入力したら、「**Test FTP Connection - FTP 接続のテスト**」をクリックして接続をテストします。NVR サーバーから「**Testing FTP connection was successful - FTP 接続のテストに成功しました**」というメッセージが表示された場合、NVR サーバーがこの FTP にアップロードする準備が整ったことになります。
- 設定を確認し、「**Apply - 適用**」をクリックして保存します。ここで行う FTP 設定は各イベント ルールのデフォルトになります。

システム ログ

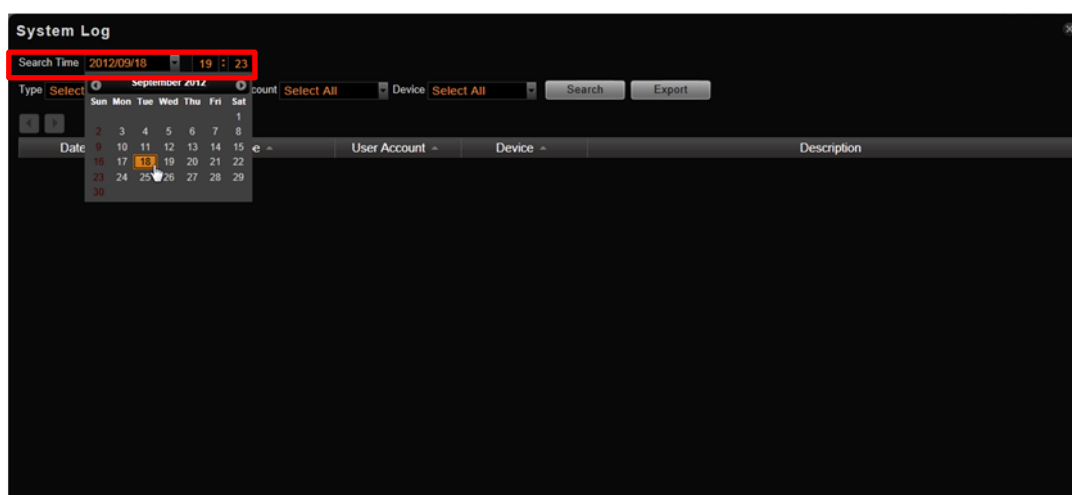
ログインしたユーザーによって実行されるアクティビティはサーバーに**システム ログ**として記録されます。 アクセス許可があれば、ユーザーは分析や調査のためにこの記録を表示、検索、エクスポートすることができます。 このセクションではシステム ログ中のデータの見方および検索方法について説明します。

「**System Log - システム ログ**」  は、NVR サーバー ユーザー インターフェースの上部にあるボタンの 1 つで、クリックすると検索ウィンドウが開きます。



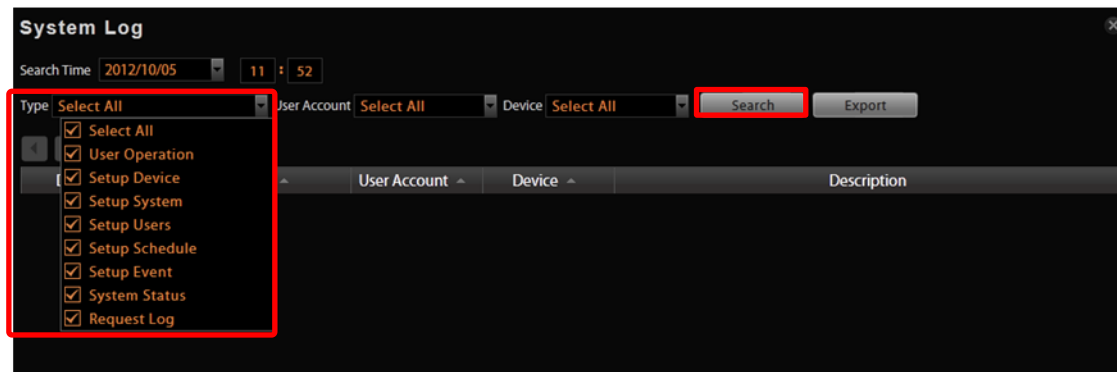
検索時間の定義

最初検索したいログの時間を定義する必要があります。 **検索時間**バーで日付と時刻を定義します。 デフォルトは現在のクライアント時刻です。



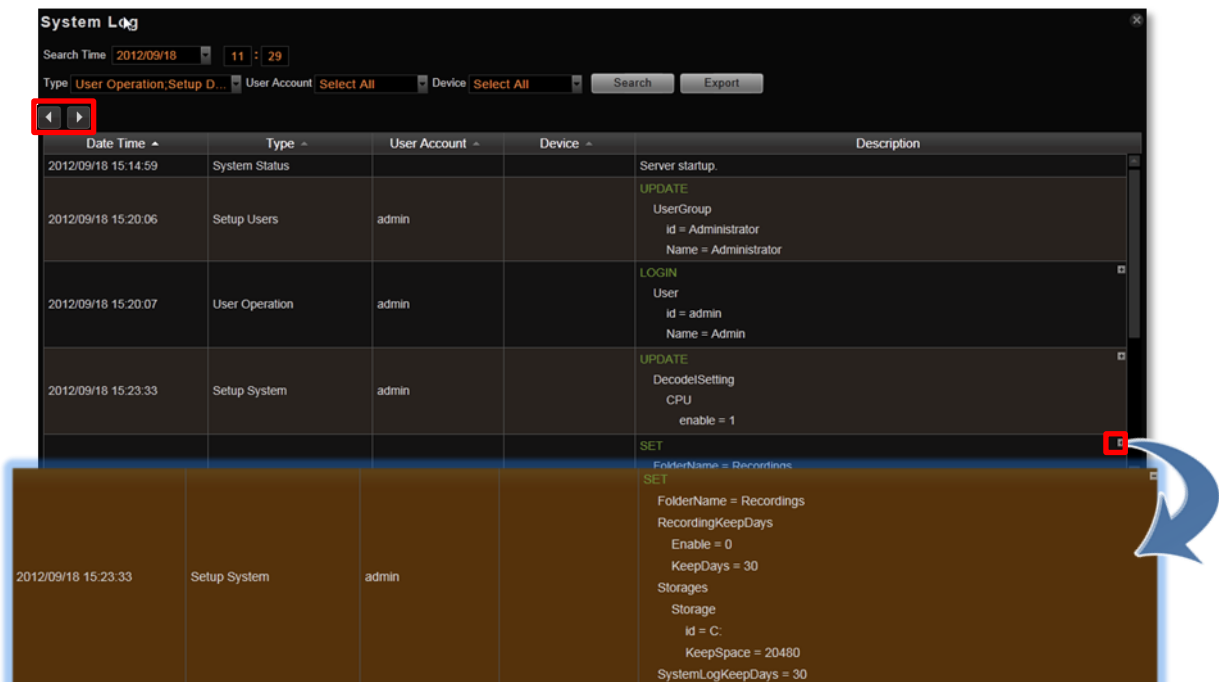
ログ タイプの選択

ログをドロップダウン リストから選択することで**タイプ**、**ユーザー アカウント**、**デバイス**でフィルタリングしてから、「**Search - 検索**」をクリックします。 デフォルトではすべてのタイプが選択されています。



ログの見方

検索結果にはクエリした時間前後の記録 1000 件が表示されます。 改ページ ボタン  をクリックして前または後の記録を見ることができます。 エントリの右上隅にアイコン  がある場合、それをクリックするとコンテンツの完全な詳細を見ることができます。



ログ エントリには日付と時刻、**タイプ**、**ユーザー アカウント**、**デバイス**、**説明**を含む数種類の情報が含まれます。 **タイプ**と**説明**のフィールドをチェックするとユーザーが何をしたか、またはシステム全体に何が発生したかを知ることができます。 **タイプ** のフィールドにはユーザーが使用した主な機能が表示され、**説明**のフィールドにはどのように変更が行われたか（緑色の文字、大文字）およびその結果（白い文字）が表示されます。

NVR 3.0 システム管理者向けマニュアル

Date Time ▲	Type ▲	User Name ▲	Device ▲	SET	Description
2012/05/09 15:15:28	Setup System	Admin		UIStyle MainForm Alignment = left	

次のユーザーの挙動が NVR サーバーで記録されます。

タイプ	説明
ユーザー操作	ログイン、ログアウト、手動録画、DO トリガー
システムのセットアップ	録画構成、ストレージ システム設定
ユーザーのセットアップ	ユーザー – 追加、削除、変更 ユーザー グループ – 追加、削除、変更
スケジュールのセットアップ	変更
イベントのセットアップ	変更
システム状態	サーバー起動、ディスク空き領域不足、ディスク不検出、ディスク利用可能
ログのリクエスト	時刻、ソース IP アドレス、 /SYS/SystemMgmt/xxxxx, 200

注意事項

改ページ ボタンが無効の状態に表示されている場合、NVR サーバーにそれ以上の記録がないことを意味します。 デフォルトで、サーバーは 30 日間ログを維持します。 期間を調整したい場合は、**セットアップ ページ → ストレージ タブ**を開き、**録画設定**のセクションで、このフィールドに値を入力します。

Keep System Log for (1-999 days) 30

ログのエクスポート

「**Export - エクスポート**」ボタンをクリックしてログを .csv ファイルとしてエクスポートします。 ログの期間、タイプ、ユーザー、デバイスを指定して、「**Apply - 適用**」をクリックします。

System Log

Search Time 2012/09/19 13 : 23

Type User Operation;Setup D... User Account Select All Device Select All Search **Export**

Export System Log

Time Duration 2012/09/18 13 : 27 ~ 2012/09/19 13 : 27

Type User Operation;Setup D...

User Account Select All

Device Select All

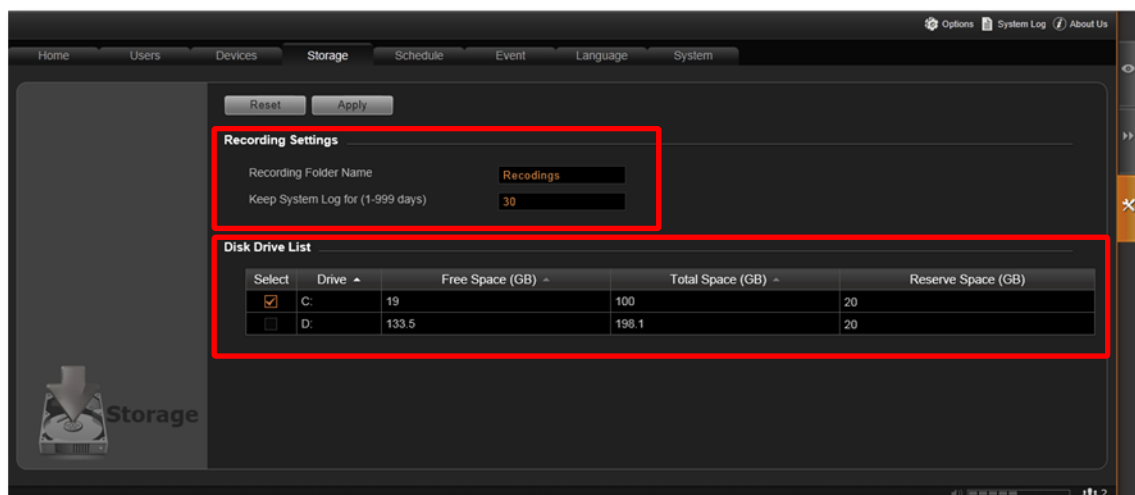
Cancel Apply

ストレージ管理

このセクションでは、NVR のストレージ領域方法を説明します。 このセクションは、個別チャンネルのストレージではなく、全体的なストレージ ルールに関するものであることにご注意ください。

NVR は連続的にディスク ドライブに対する書き込みとファイル削除を行うため、リムーバブル ディスクの使用は、デバイスにアクセスしているときにデバイスが取り外された場合に録画が失われる危険があることにご注意ください。

セットアップ ページ → ストレージ タブを開きます。



録画フォルダー名の変更

「Recording Settings - 録画設定」のセクションでは、ビデオ録画フォルダーの名前を変更することができます。 ビデオ ファイルはハード ドライブの root ディレクトリ下にある「Recordings - 録画」という名前のフォルダー内に保存されます。 ここで名前を変更することができます。

システム ログのライフサイクル設定

システム ログはユーザー アクティビティおよびサーバーで発生したイベントの記録です。

「Recording Settings - 録画設定」のセクションで、この記録をどのくらいの期間サーバー上に維持するかを設定することができます。 デフォルトは **30** 日間です。

ハード ドライブ録画ファイル削除ルールの設定

1. ディスク ドライブ リストにはサーバー コンピュータで検出されたハード ドライブが表示されます。 録画ファイルの保存場所を選択し、削除のしきい値を設定することができます。 デフォルトで、NVR サーバーは **C** ドライブを保存場所を選択します。

Select	Drive	Free Space (GB)	Total Space (GB)	Reserve Space (GB)
☒	C:	60.4	100	30
☒	D:	136.6	198.1	20

2. ディスク ドライブの選択後、削除ルールを選択してください。録画の削除には 2 つの方法があります。両方が有効なとき、NVR サーバーは条件のいずれかが満たされたとき古いファイルの削除を開始します。
 - (1) 録画を一定日数維持し、この期間より古くなったファイルを一度につき 1 GB ずつ削除します。この設定は、**セットアップ ページ → スケジュール** タブから設定してください。
 - (2) ディスクがほぼいっぱいになるまで録画を維持し、その後最も古い録画ファイルから一度に 1 GB ずつ削除します。NVR サーバーは利用可能な領域が**ディスク ドライブ リスト**で設定された**予約領域**より少なくなると、古いファイルを削除します。

削除ルールを設定するときは、現在の**空き領域**より小さい数字を**予約領域**に入力してください。

項目	説明
空き領域 (GB)	選択されたディスク ドライブの現在利用可能な領域です。
合計領域 (GB)	選択されたディスク ドライブの合計容量です。
予約領域 (GB)	コンピュータ システム全体向けに予約された領域の分量です。空き領域が使用されて予約領域の制限に達すると、システムは最も古い録画を削除します。 <u>「Reserve Space - 予約領域」は「Free Space - 空き領域」より常に小さい必要があります。</u>

3. 設定を終えたら、「**Apply - 適用**」をクリックします。

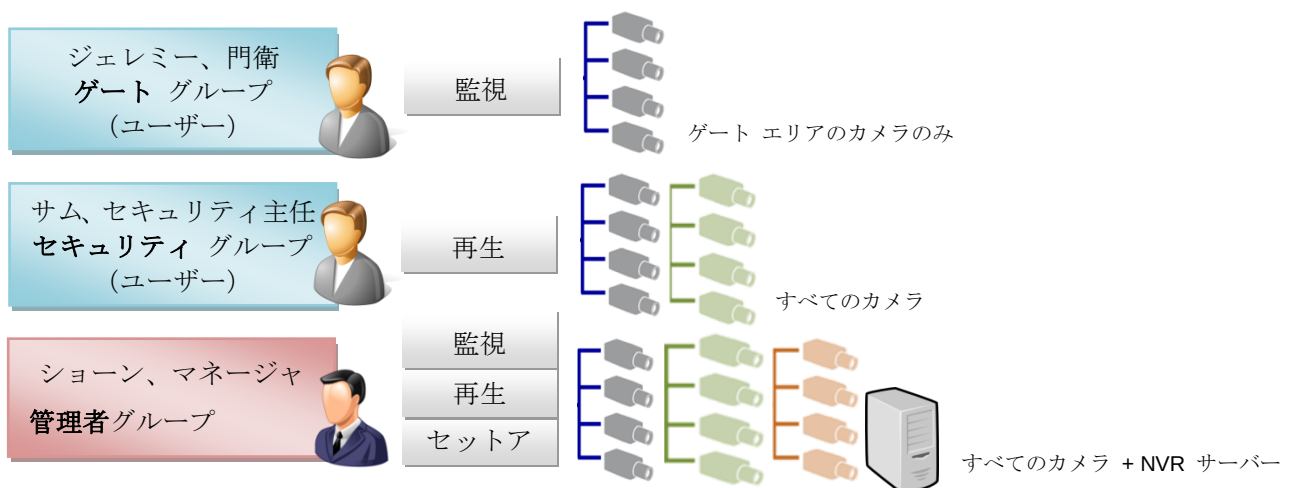
ユーザー グループ/ ユーザーの管理

ユーザー グループ/ユーザー ページでは、(1) 異なるユーザー グループのアクセス許可の管理、(2) ユーザー グループへのユーザー追加と削除、(3) 特定のユーザー グループへのユーザー割り当てができます。この章では、これらの設定について説明します。

アクセス許可

NVR 3.0 で、アクセス許可はユーザー グループによって管理されます。ユーザー グループは各ユーザーにどの機能とデバイスが許可されるかを定義します。異なるユーザー グループには、ライブ ビュー、再生など各デバイスで許可される操作、およびデバイス セットアップ、スケジュール セットアップ、イベント セットアップ、システム セットアップなど NVR サーバー管理操作の異なるアクセス権限が与えられます。例えば、管理者ユーザーは NVR のあらゆる操作が許可されますが、標準ユーザーは限られたデバイスでのライブ ビューと再生のみ許可されている場合があります。

下の図に NVR ユーザーである従業員と彼らのシステムにおけるアクセス権限を示します。



概要

セットアップ ページ → ユーザー タブを開きます。ユーザー グループとユーザーを個別に管理する 2 つのセクションがあります。

ユーザー グループ：ユーザー グループとそのデバイスや機能に対する許可を設定します。

ユーザー：ユーザー アカウントを管理し、ユーザー情報を設定します。

ACTi NVR 3.0 は **Microsoft Active Directory®** サービスを統合し、ネットワーク管理者にユーザー管理のより便利な選択肢を提供しています。Active Directory はドメイン ネットワーク内のユーザー ID および権限を管理するためのディレクトリ サービスで、Microsoft サーバー製品に内蔵されています。ACTi NVR 3.0 は Active Directory サーバーと同じドメインにログオンしているサーバー コンピュータで稼動するため、同時に Active Directory に存在

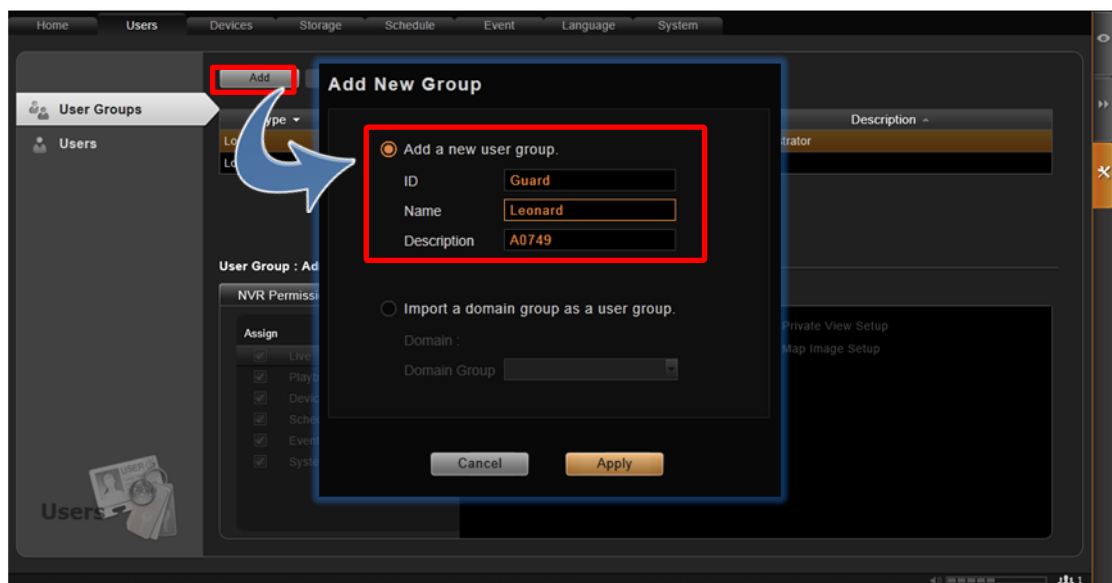
するユーザー アカウントまたはグループを NVR サーバーにインポートすることができます。これにより、ユーザー ID は一元的に Active Directory によって処理されます。ユーザー アカウントが Active Directory サービスの管理下にある限り、それらを NVR の管理者が保守する必要はありません。

ユーザー グループ

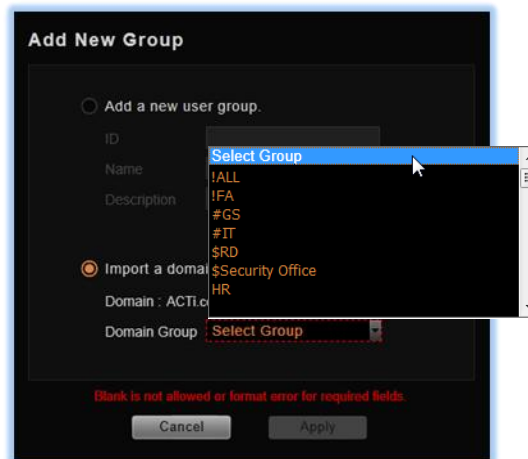
ユーザー グループ全体の各デバイスに対するアクセス許可を指定することができます。このユーザー グループ分けによって、類似した役割で類似したタスクを実行する複数のユーザーが存在する場合、作業を大幅に簡素化することができます。

デフォルトで、NVR における完全な許可を持つ**管理者**ユーザー グループがすでに存在します。NVR サーバーに新しいユーザー グループを作成するか、ドメイン内の Active Directory データベースから既存のグループをインポートするかを選択できます。

1. **User Groups** を選択し、「**Add - 追加**」をクリックしてからグループのタイプを選択します。
 - 新規ユーザー グループの追加：ID、グループの**名前**およびグループの**説明**を入力します。名前のフィールドに入力された内容がこのユーザー グループの名前になります。「**Apply - 適用**」をクリックして終了します。



- ドメイン グループをユーザー グループとしてインポート：ドメイン内から既存のユーザー グループを選択し、「**Apply - 適用**」をクリックして終了します。



そのグループ内のドメイン ユーザーがすべて NVR サーバーに同時に追加されます。これらのユーザーを確認するには、 **Users** を選択し、「**Show users in domain groups - ドメイン グループのユーザーを表示する**」を有効にします。NVR サーバーに 1 つずつ追加するユーザー アカウントとは違い、これらのユーザーはユーザー ページで個別に編集することはできません。

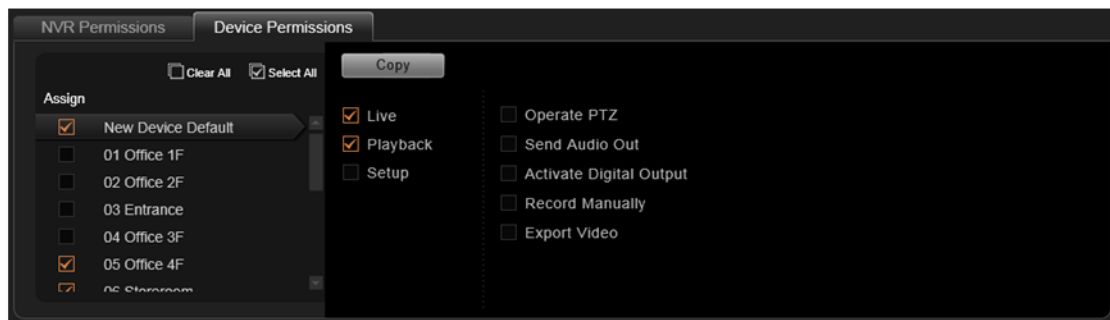
Show users in domain groups. Clear All Select All						
User Type	User Account	User Name	Password	Email	Group Name	
Customized User	admin	Admin	*****		Administrator	
Domain User	Deckard Cain	Deckard Cain		Deckard.Cai@acti.com	\$Security Office	
Domain User	John Bourne	John Bourne		John.Bourne@acti.com	\$Security Office	
Domain User	Steve Lin	Steve Lin		Steve.Lin@acti.com	\$Security Office	
Domain User	Joyce Holiday	Joyce Holiday		Joyce.Holiday@acti.com	General Service	

グループ全体で追加されたドメイン ユー

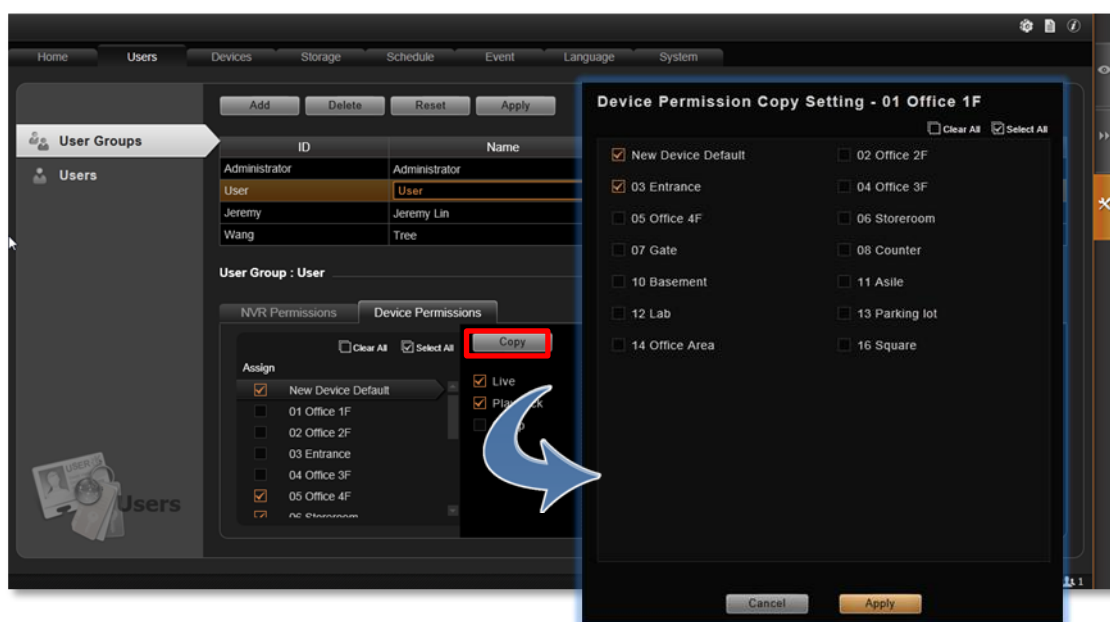
- 作成したグループに **NVR 許可**を割り当てます。これはこのユーザー グループにアクセスが許可される機能を定義します。デフォルトで、ユーザー グループは最初から**ライブビュー ページ**と**再生ページ**のみにアクセスが許可されていますが、いかなるデバイスへの許可もないため、デバイス許可を後で割り当てる必要があります。



- 作成したグループに**デバイス許可**を割り当てます。これはこのユーザー グループにアクセスが許可されるデバイスを定義します。このユーザー グループに新規デバイスの追加が許可されている場合、「**New Device Default - 新規デバイスのデフォルト**」を確認して許可を編集します。これらのデフォルト設定がこのユーザー グループによって追加されるあらゆるデバイスに適用されます。



デバイス許可の設定を他のデバイスにコピーすることができます。デバイス許可タブにある「**Copy - コピー**」をクリックしてターゲット デバイス メニューを開き、ターゲット デバイスにチェックを入れて、「**Apply - 適用**」を適用します。

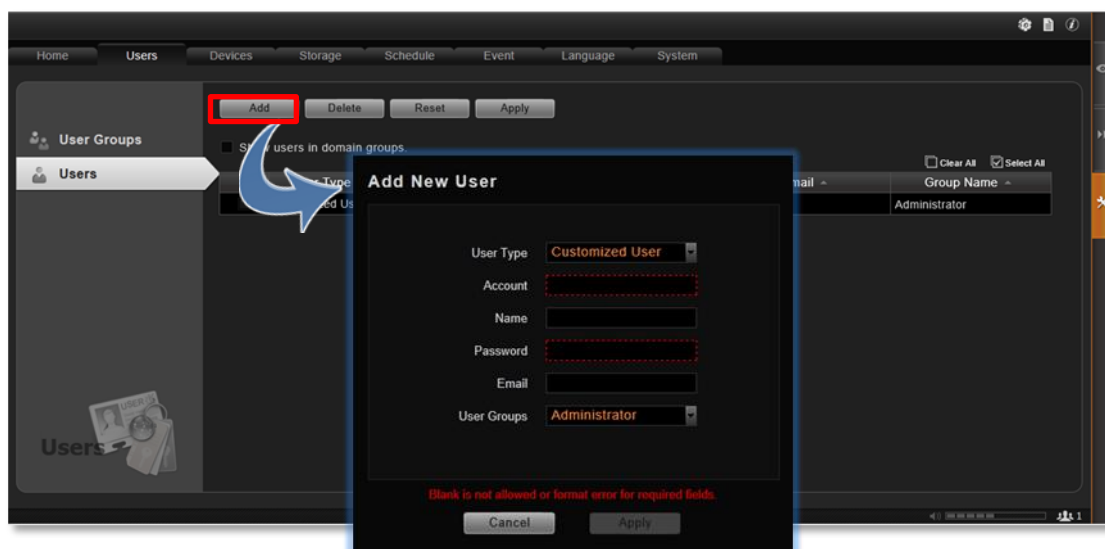


上の「**Apply - 適用**」をクリックして設定を保存します。

ユーザーの追加

NVR 3.0 サーバーに対するユーザー名とパスワード認証でユーザー アカウントを作成することができます。

1. **Users** を選択し、**追加**ボタンをクリックします。
2. ユーザー タイプに**カスタマイズ ユーザー**または**ドメイン ユーザー**を選択します。
 - カスタマイズ ユーザー：NVR サーバーのみで作成・管理されるアカウントです。
 - ドメイン ユーザー：ドメイン内の Active Directory データベースにすでに存在するアカウントです。
3. ユーザー アカウント、名前、パスワード、アカウント メールを入力します。
4. 作成したユーザーを特定のユーザー グループに割り当てます。
5. 「**Apply - 適用**」をクリックすると、この新しいユーザーが上のリストに追加されます。



注意事項

アカウント / パスワードのルール

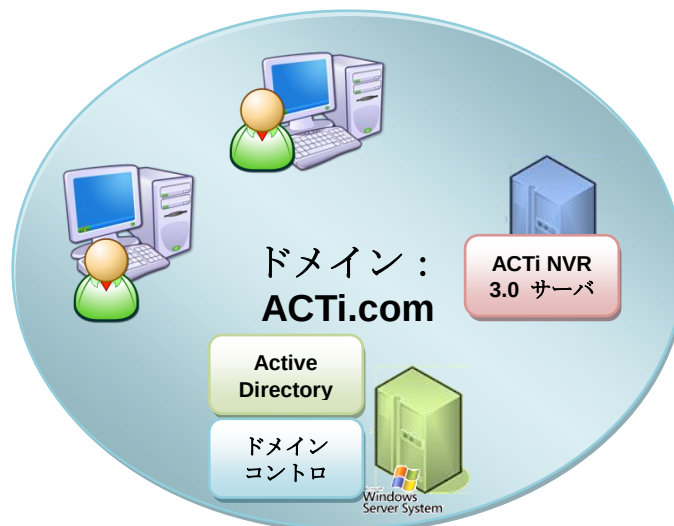
1. アカウントおよびパスワードのフィールドは、英数字と次を除くシンボルを使用することができます。 `/[ ] : ; | = , + * ? < > "`
2. アカウント フィールドでは、アルファベットの場合、入力は小文字として認識されます。スペースは文字の間のみ許可されています。冒頭と終わりに挿入されたスペースは保存時に削除されます。
3. パスワード フィールドは大文字と小文字を区別し、スペースが許可されています。

注意事項

Admin はデフォルトのユーザー アカウントで、「**Administrator - 管理者**」ユーザー グループに属します。 このため、ユーザー **Admin** とグループ **Administrator** は削除することができません。このユーザーは全デバイスと NVR の設定に対する完全な許可を持っています。

ドメイン ユーザーの管理

ACTi 3.0 サーバー コンピュータがドメインの Active Directory にログオンしているとき、Active Directory からユーザー アカウントをインポートすることができます。



このタイプのユーザー アカウントは「**Domain User - ドメイン ユーザー**」です。NVR サーバーに追加されると、Active Directory データベースに格納されたアカウント名と電子メールアドレスを含むユーザー プロパティが NVR サーバーにインポートされます。

Home Users Devices Storage Schedule Event Language System						
Add Delete Reset Apply						
User Groups						
Users						
Select	User Type	User Account	User Name	Password	Email	Group Name
☒	Customized User	admin	Admin	*****		Administrator
☐	Domain User	wen.cheng	Wen.Cheng		Wen.Cheng@ACTi.com	User

ドメイン ユーザー クライアントが NVR サーバーにログインを試みるたび、NVR サーバーはまずこのアカウントが NVR サーバー データベースに存在するかを確認してから、Active Directory によるユーザー アカウントとパスワードの確認を行います。

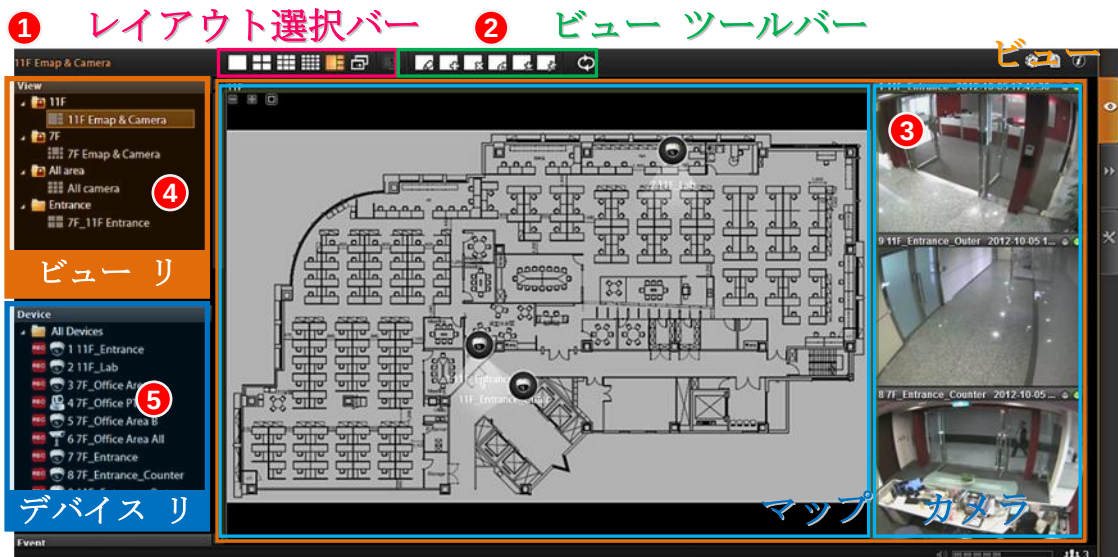
Active Directory がドメイン ユーザーの作成、編集、削除の権限を有するため、ドメイン ユーザーのアカウントおよびパスワードは NVR ユーザー インターフェース経由ではなく、Active Directory 管理ツールで編集することができます。

ビューのカスタマイズ

すべてのデバイスを設定した後、異なるユーザーおよび目的に合わせてビューのカスタマイズを開始できます。この章では、ビデオソースの追加、チャンネルの配備、ライブビューレイアウトの管理方法について説明します。

NVR 3.0 システムで、**ビュー**とは**カメラ**または**マップ**のライブ映像が監視目的に合わせて適切に配置されたレイアウトを指します。これは、通常同じ物理的場所にある、または同じデバイス機能を持つ複数のカメラから構成されるカメラグループとよく似ています。例えば、**11F E マップ & カメラ**と名づけられたビューは、11 階見取り図と実際に 11F に配置されたカメラを含むことがあります。

ライブビューインターフェースの概要

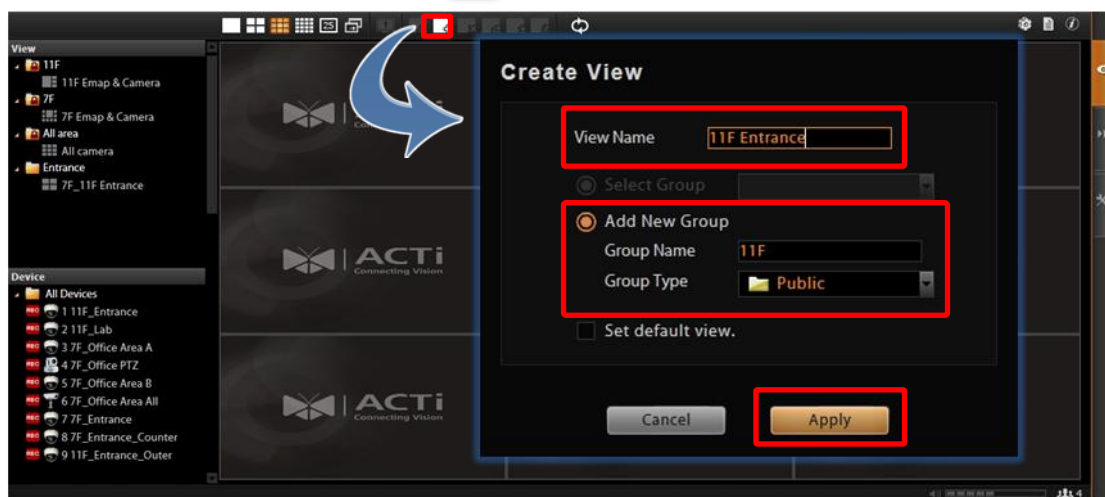


1. レイアウト選択バー：レイアウトスタイルの 22 のオプションを提供します。
2. ビューツールバー：編集用の機能キーを提供します。
3. チャンネル：各チャンネルウィンドウにカメラビューまたは見取り図を表示できます。編集モードでは、チャンネルのサイズも調整できます。
4. ビューリスト：保存されたすべてのビューがここに表示されます。ライブビューで、 → ビューマネージャを開き、これらのビューのグループ分けと管理を行うことができます（ビューの管理（88 ページを参照））。
5. デバイスリスト：編集モードで、ここからカメラを希望のチャンネルにドラッグします。

ステップ 1: 新しいビューの作成

ビュー ツール バーで、ビューの作成ボタン  をクリックし、ビューの名前を入力してこのビュー用の新規グループを追加し、このグループをパブリックとプライベートのどちらにするかを決定してから、「**Apply - 適用**」をクリックします。

- プライベート ビュー グループ  のビューは、それらを作成したユーザーのみ利用できます。
- 一方パブリック ビュー グループ  のビューはどのユーザーも利用できます。



ステップ 2: 編集モードへの切り替え

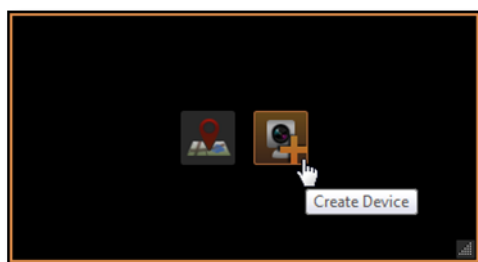
ビュー ツール バーで、ビューの編集ボタン  をクリックすると、このビューが編集モードになります。編集モードでは、チャンネルにビデオ ソースを追加し、チャンネル サイズを調整できます。

ステップ 3: レイアウトの選択

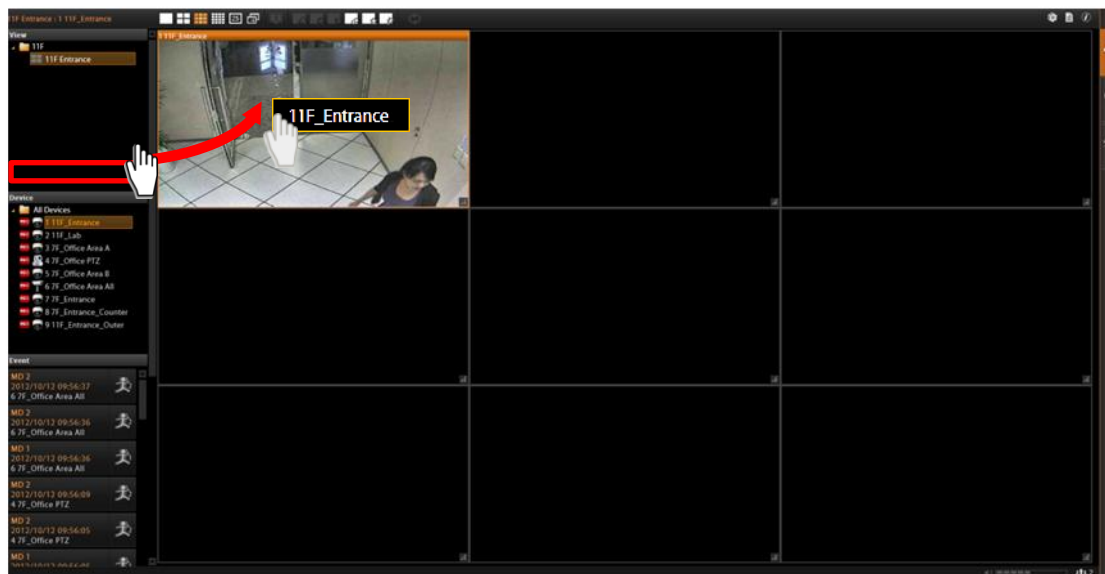
レイアウト選択バーで、展開ボタン  をクリックして利用可能なレイアウト スタイルをすべて表示します。必要なチャンネル数と理想的な配置に適したレイアウトを選択します。



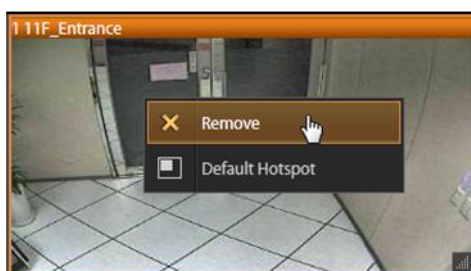
ステップ 4 : ビデオ ソースの追加



編集モードで、チャンネル上にマウスを移動させて  をクリックします。直接カメラをデバイスパネルから希望のチャンネルにドラッグすることもできます。

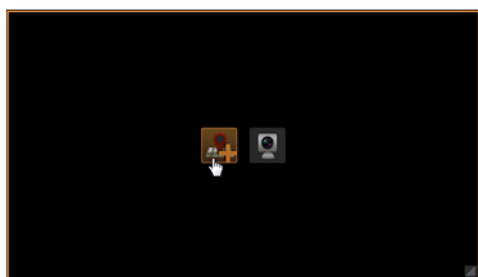


●カメラ ビューの削除 : チャンネルを右クリックして「**Remove - 削除**」を選択します。

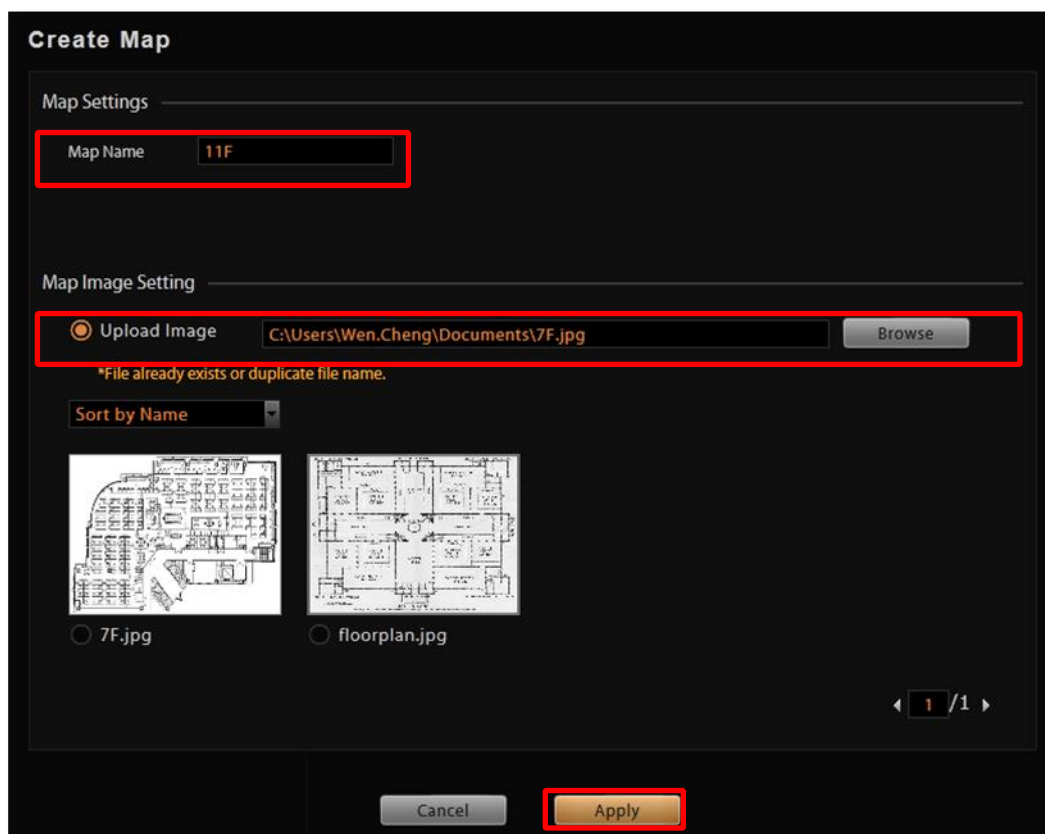


ステップ 5 : マップの追加

マップ（見取り図）を追加することで、チャンネルに画像を追加し、そこにカメラを配置して「**e マップ**」を作成することができます。



編集モードで、チャンネル上にマウスを置き、 をクリックしてマップをアップロードします。マップ名を入力し、画像の場所（ファイル形式はJPG のみ）を選択してから、「**Apply - 適用**」をクリックします。

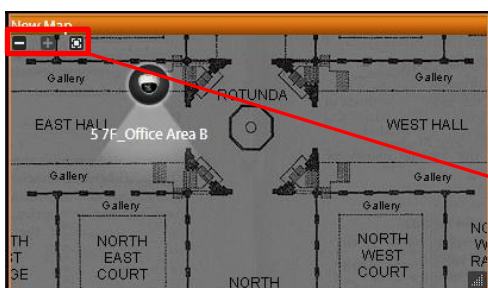


- マップの明るさ :

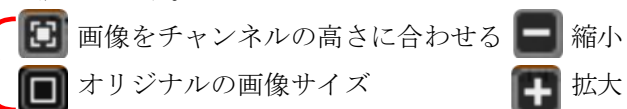
マップの明るさを変更するには、マップを右クリックして「**Map Mask - マップ マスク**」を選択し、明るさの度合いを選択します。



- マップ サイズ :



デフォルトで、マップはオリジナルのサイズで表示されます。左上のボタンを使用してマップ サイズを調整します。



- マップ タイトルの編集 :

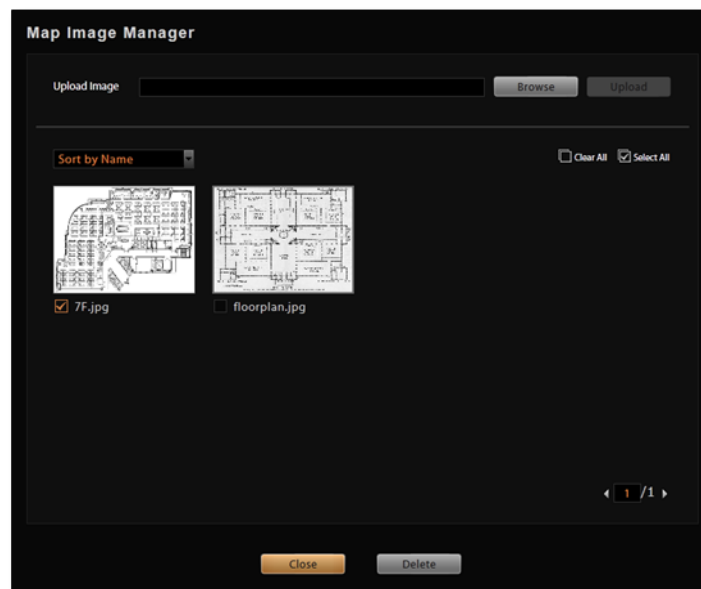
マップ タイトルはチャンネルのタイトル バーに表示されます。編集モードで、マップ チャンネルを右クリックし、「**Edit Map Information - マップ情報の編集**」を選択します。

- マップ全体の削除 :

マップを右クリックして「**Remove - 削除**」を選択します。

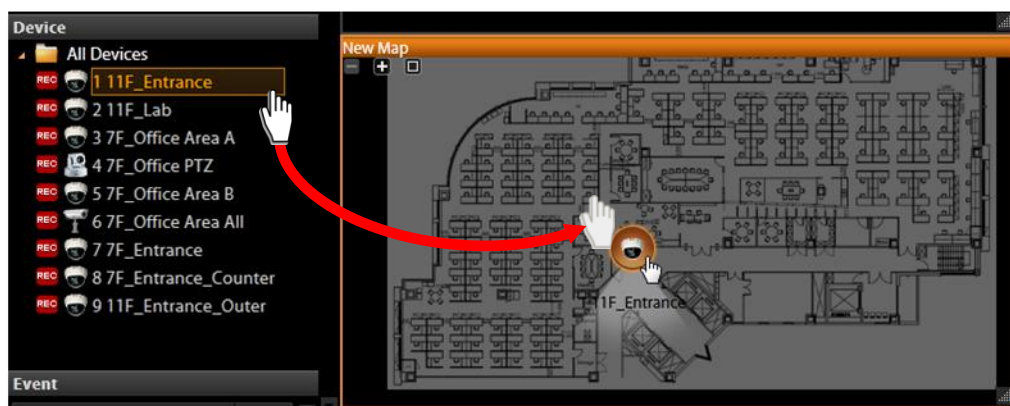
● マップの管理：

アップロードされた画像はすべてマップ画像マネージャにより管理されます。 ライブ ビュー画面で、 → マップ画像マネージャを開き、マップの表示、アップロード、削除を行うことができます。



ステップ 6：マップへのデバイス追加

デバイスをデバイス リストからマップにドラッグします。



- このデバイスをマップから削除するには：

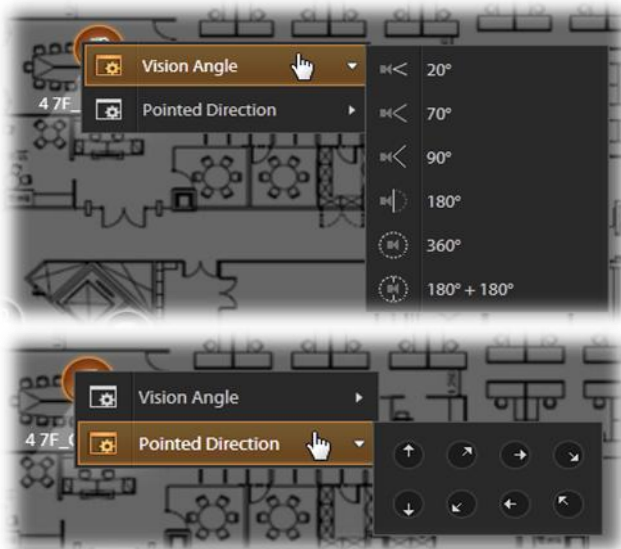
 をクリックします。

- このデバイスを移動するには：

デバイス アイコンを左クリックしてドラッグします。

- カメラの方向を変えるには：

カメラ角度エリアにマウスを移動させ、時計回り方向の矢印を左クリックして方向を変えます。



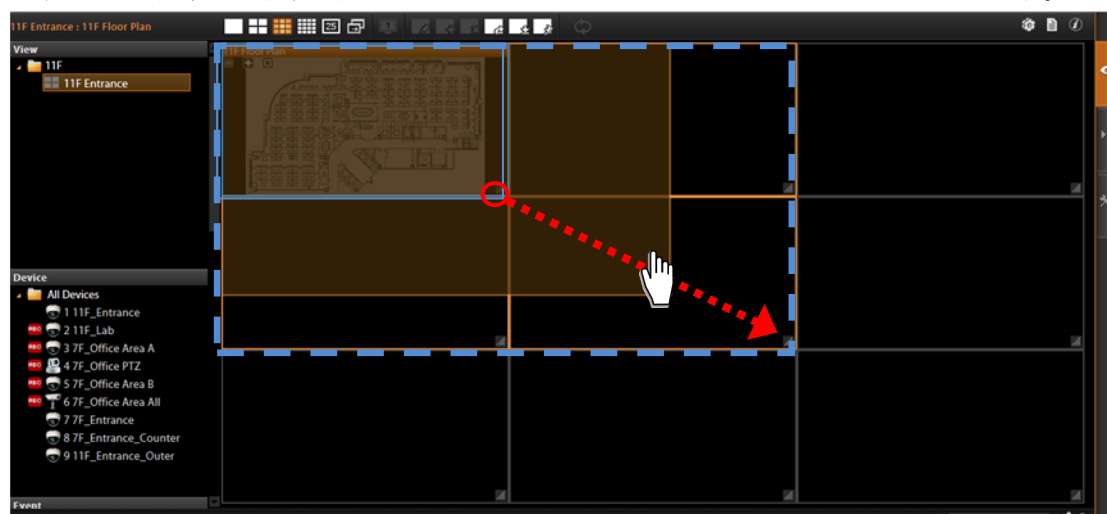
●カメラ方向の微調整を行うには：
デバイス アイコンを右クリックして、「**Pointed Direction - カメラ方向**」を選択します。

●デバイスのカメラ角度を調整するには：
デバイス アイコンを右クリックして、「**Vision Angle - ビジョン角度**」を選択します。

ステップ 7: チャンネル サイズとレイアウトの調整

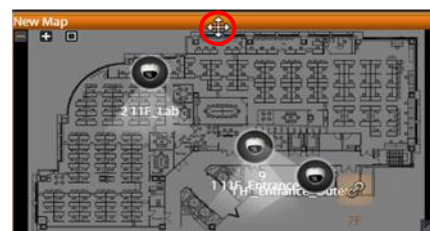
●チャンネル サイズの調整：

チャンネル ウィンドウ右下隅の  をクリックしてドラッグしてからリリースします。



●チャンネル ウィンドウの切り替え：

チャンネルのタイトルをクリックして十字の矢印  を表示し、それをホールドしながらこのデバイスまたはマップを希望のチャンネルにドラッグします。



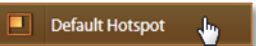
ステップ 8: ビューの保存

ビュー ツール バーの  をクリックして保存します。

ステップ 9 : デフォルト ビューの設定

ビューをデフォルトとして設定するには、**ビュー リスト** パネルで選択してから**ビュー ツール バー**の  をクリックします。次回ログインするとき、直接このビューに入ります。

デフォルト ホットスポット チャンネルの設定

システムのデフォルトで、グローバル ホットスポット チャンネルは常に左上になります。ライブ ビュー画面でその他任意のチャンネルをデフォルトのホットスポット チャンネルに設定することができます。チャンネルを右クリックして「**Default Hotspot - デフォルトのホットスポット**」  を選択し、**ビュー ツール バー**の  をクリックして保存します。

ビューの管理

各ビューは特定の**ビュー グループ**に属します。グループ管理によって NVR 3.0 サーバーは複数のユーザーに対して作成したビューを容易に扱うことができます。

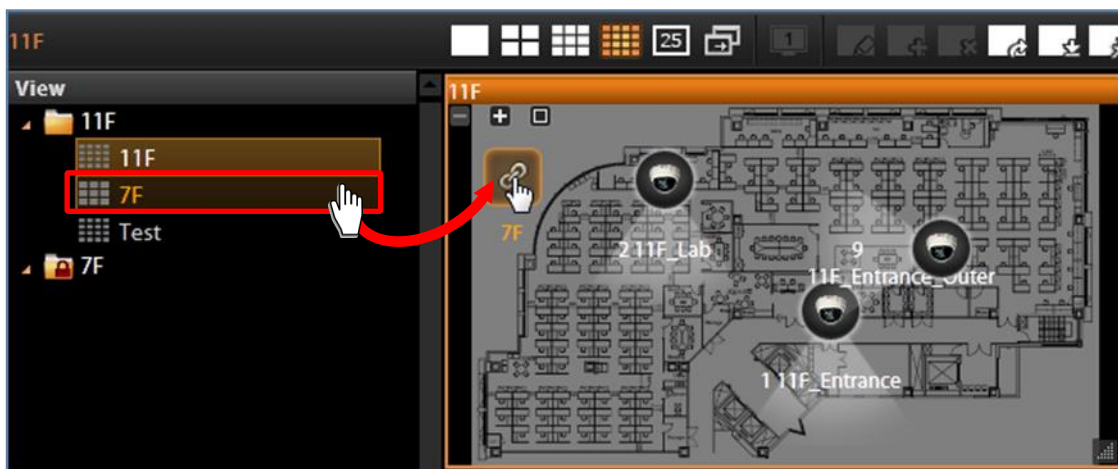
ライブ ビュー画面でビューを作成・保存した後、 → **ビュー マネージャ**をクリックします。

- ① グループ フォルダの前にある右矢印のアイコンをクリックするとその**ビュー**が表示されます。
- ② ビューを選択し、その名前を**名前フィールド**で直接変更できます。
- ③ グループの**グループ タイプ**を変更することができます。 変更に際して、例えばグループを「**Private - プライベート**」から「**Public - パブリック**」に変更すると、それに属するすべてのビューがすべてのユーザーに開放されます。
- ④ このアイコンをクリックして新規グループを追加します。  
- ⑤ このアイコンをクリックして選択したグループを削除します。
- ⑥ このアイコンをクリックして選択したグループを別のグループにコピーします。
- ⑦ このアイコンをクリックして選択したグループを別のグループに移動します。



ビュー リンクの設定

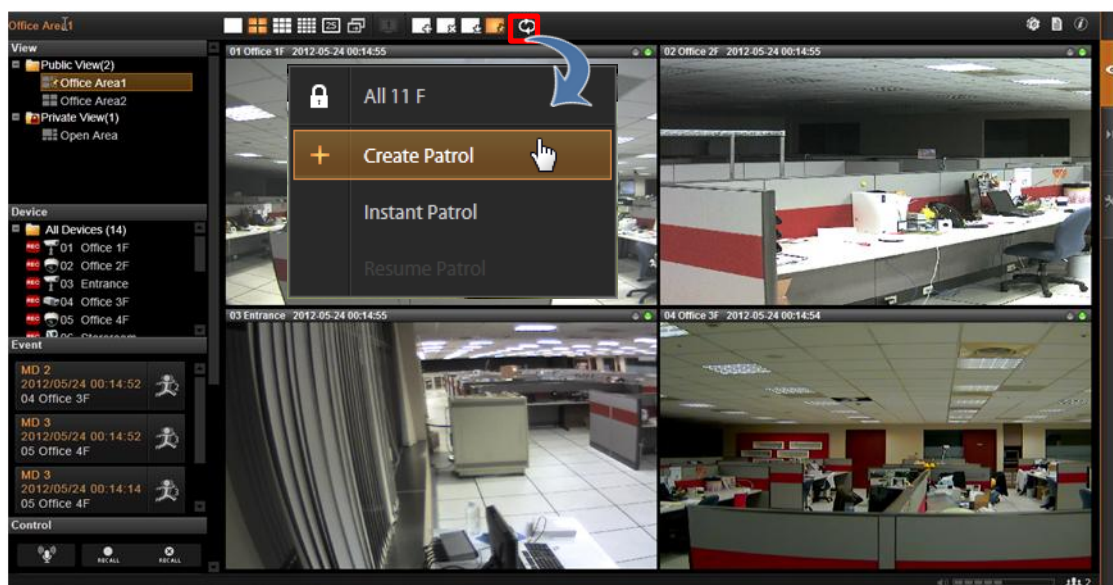
ビューにリンク ボタンを作成することで、別の特定のビューに直接リンクさせることができます。下の図では 7F ビューへのリンク ボタンを 11F ビューに作成する方法を示しています。



1. 別のビューへのリンクを配置するビューを選択します。
2. ビュー ツール バーの  をクリックして編集モードに入ります。
3. ビュー リストからターゲットのビューを現在のビューにドラッグすると、リンク ボタンが表示されます。
4. ビュー ツール バーの  をクリックして保存します。

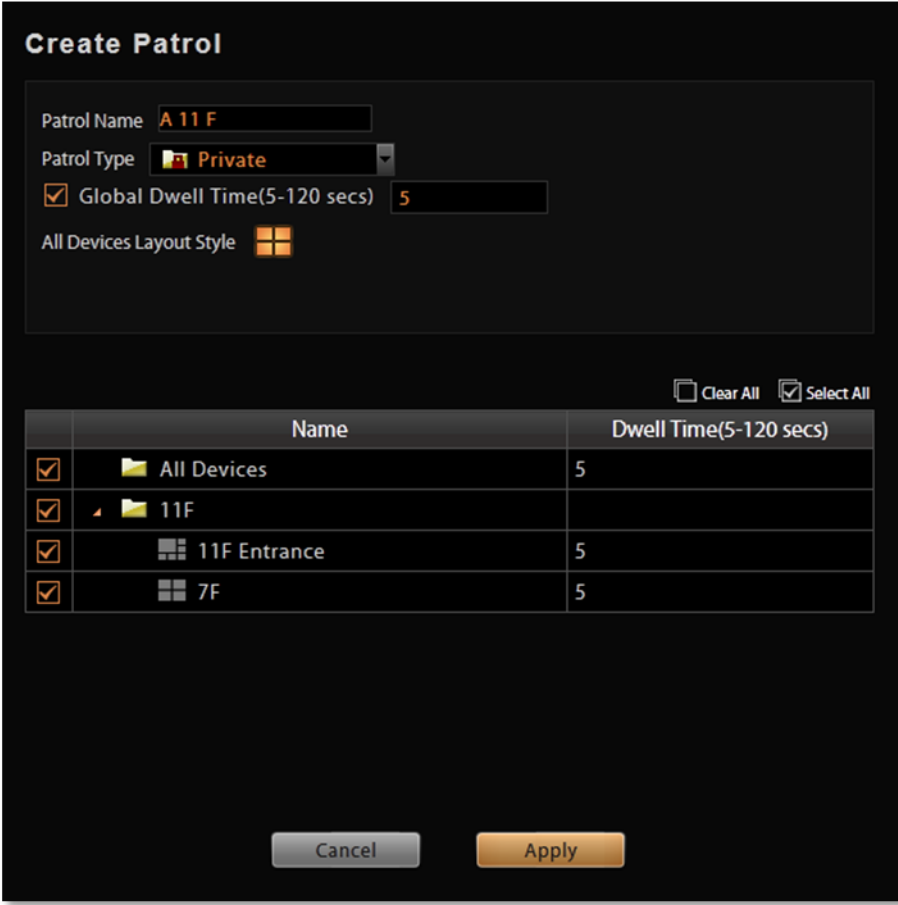
ビュー巡回の設定

保存されたビューの巡回を順に行うことができます。そうすることで、現場内の異なるエリアのビューが自動的に循環表示されます。



ビュー ツール バーで  をクリックしてから、**巡回の作成**をクリックします。

1. 巡回名を入力します。
2. 巡回のタイプですべてのユーザーに開放するか、作成者のアカウントのみに開放するかを選択します。
3. ビュー間のグローバル滞在時間を定義します。 個別のビューに対して異なる滞在時間を設定したい場合、このオプションにチェックを入れず、下の表で個別に設定を行います。
4. 巡回で表示するビューを選択します。 ここですべてのデバイス グループを選択する場合、「**All Device Layout Style - すべてのデバイス レイアウト スタイル**」も選択する必要があります。
5. 「**Apply - 適用**」をクリックして設定を保存します。



Create Patrol

Patrol Name

Patrol Type Private

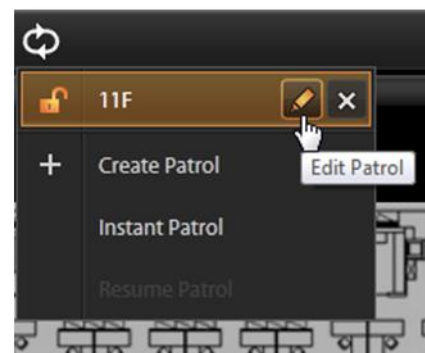
☒ Global Dwell Time(5-120 secs)

All Devices Layout Style 

☐ Clear All ☒ Select All

	Name	Dwell Time(5-120 secs)
☒	 All Devices	5
☒	 11F	
☒	 11F Entrance	5
☒	 7F	5

6. 保存された巡回は、ビュー ツール バーの  をクリックした後巡回リストに表示されます。保存された巡回の削除や編集をしたり、選択して巡回を開始したりすることができます。



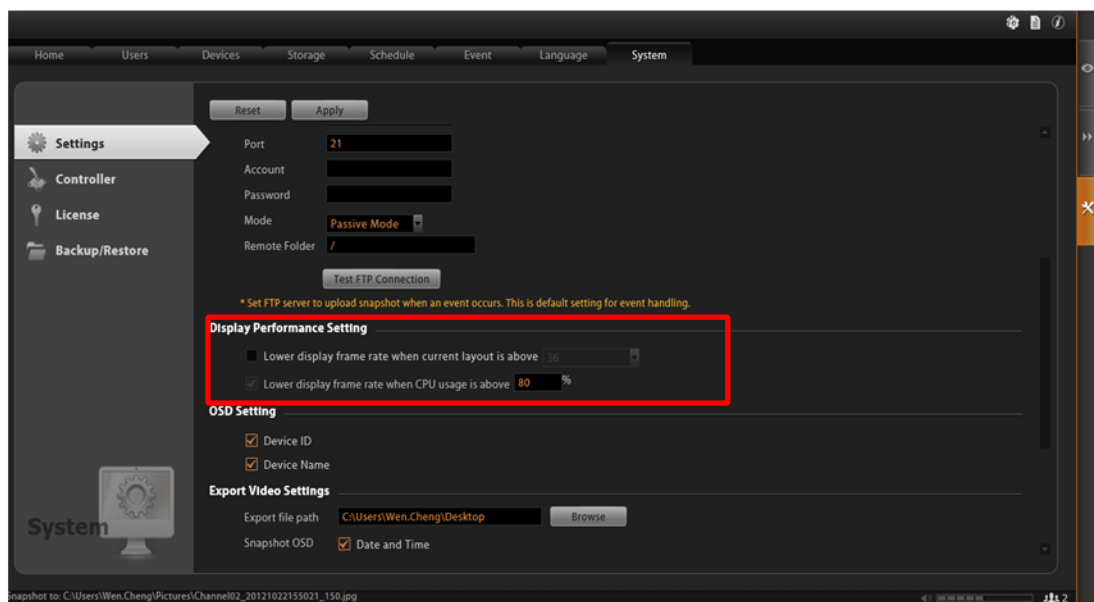
ライブ ビュー パフォーマンス向上のヒント

複数のチャンネルのライブ ビューは、パフォーマンスを確保するために十分な演算能力を必要とします。

複数のメガピクセル H.264 ビデオ ストリームを同時に見る場合など、一部の極端なケースでは、クライアント コンピュータが過負荷になり、ブラウザのパフォーマンスに影響を生じることがあります。これはすべての Windows ベースのビデオ管理プログラムおよび Web ブラウザで一般的な制限です。

ライブ ビューのパフォーマンスを向上するためのヒントをいくつか下に示します。

- (1) デュアル ストリーム モードに対応しているデバイスの場合、それを使用します。デュアル ストリーム モードを有効にして低解像度/フレーム レート/ビット レートのストリームをライブ ビューに使用し、メガピクセル解像度のストリームを録画に使用します。
- (2) 別のブラウザ クライアントを使用して高解像度チャンネルを共有します。例えば 32 のメガピクセル チャンネルを監視する場合、レイアウト 1 でチャンネル 1~16 を表示し、レイアウト 2 でチャンネル 17~32 を表示するように設定してから、ブラウザ クライアントを 1 つ開いてレイアウト 1 を表示し、拡張モニタで第 2 のブラウザを開いてレイアウト 2 を表示します。
- (3) システムの負荷が高い場合、ライブ ビュー ストリームには 1 フレームのみを NVR に自動的にデコードさせます。設定は、**セットアップ ページ → システム タブ → 設定 → ディスプレイ パフォーマンス設定**を開きます。現在のレイアウトが一定数を越えるチャンネルを表示しているとき、または CPU の使用状況が一定割合を超えるときこの 2 つの条件のいずれか、または両方で **1 フレームのみデコード機能**を有効にすることを選択できます。



Windows に NVR ライブ ビューを自動起動させる

Windows が起動するとクライアント アプリケーションが自動的に実行され、ライブ ビューが開くようにすることができます。そうすることで、希望のライブ ビュー画面が表示されるまでの手順と時間を節約できます。さらに、停電が発生した場合、コンピュータが再開されるとすぐにライブ ビューを回復できます。

このコンピュータにログインするユーザーが 2 人以上いる場合、セキュリティの問題に関わるため、この使い方は適切でない場合があります。

1. NVR 3.0 サーバーで、アカウントの**デフォルト ビュー**を設定します。詳細な手順については、このマニュアルのセクション、**ビューのカスタマイズ (82 ページ)**を参照してください。
2. ワークステーション クライアントまたは **Web ブラウザ クライアント**で**自動ログイン**を設定します。詳細な手順については、このマニュアルのセクション、**自動ログインの設定 (ページ)**を参照してください。 29
3. ブラウザ クライアントを使用している場合、ブラウザを開き、NVR サーバーの IP をデフォルトのホームページに設定します。
4. ブラウザまたはワークステーション アプリケーションを Windows が起動するとすぐに起動するように設定します。 **Windows スタート → すべてのプログラム → スタートアップ**をクリックして**スタートアップ**フォルダーを開き、アプリケーションのショートカットをその中にドラッグします。この場合、Internet Explorer のショートカットまたは NVR3Workstation のショートカットを**スタートアップ**フォルダーにドラッグする必要があります。
5. 次回 Windows を起動すると、NVR 3.0 のライブ ビューが自動的に実行され、すぐにシステムの監視を開始できます。

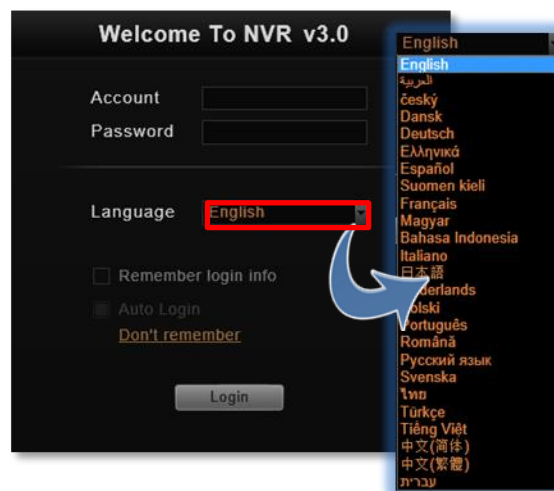


システム言語のカスタマイズ

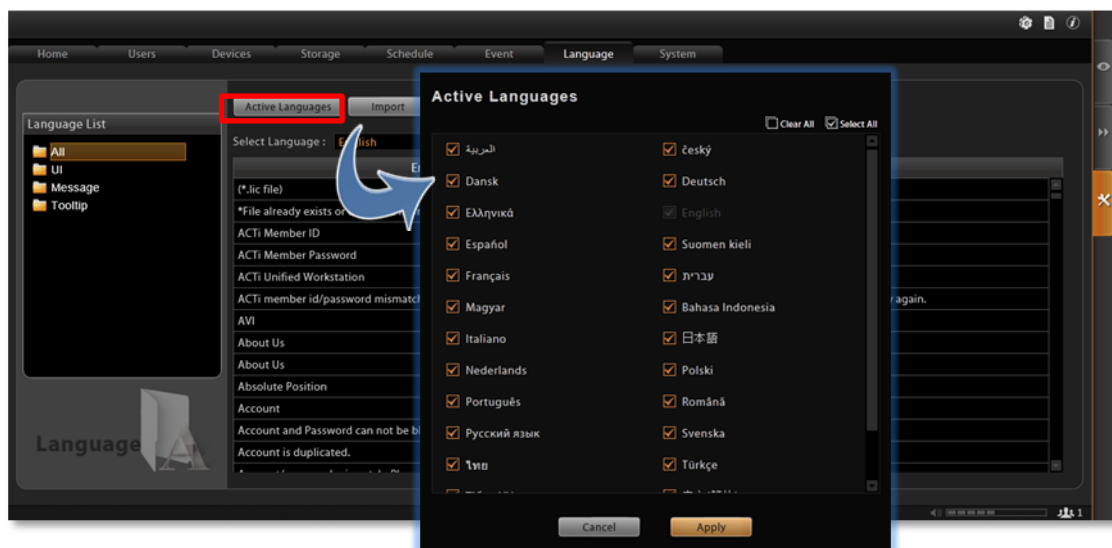
NVR サーバーはユーザー インターフェースの表示に複数の言語をサポートしています。サーバー システム内にはすでに **10** カ国語の翻訳ファイルがあります。各言語は必要に応じてカスタマイズできます。このセクションでは、サイトの言語文字列の選択またはカスタマイズ方法について説明します。

ログイン画面の言語リスト

ログイン画面で選択可能にする言語を決定できます。選択された言語が「**Language - 言語**」ドロップダウン リストに表示されます。



セットアップ ページ →言語タブを開き、「**Active Languages - 有効な言語**」をクリックします。ポップアップ ウィンドウで、必要な言語にチェックを入れて、「**Apply - 適用**」をクリックします。デフォルトではすべての言語が選択されています。デフォルトのシステム言語であるため、**English -英語**と **Traditional Chinese - 繁体字中国語**はこのリストから削除できません。

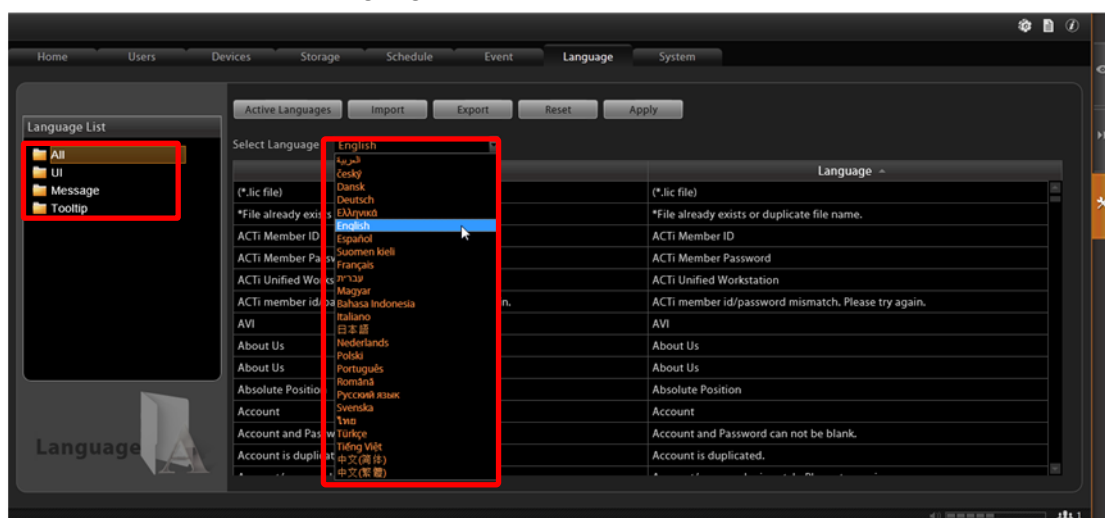


ユーザー インターフェースの文字列の編集

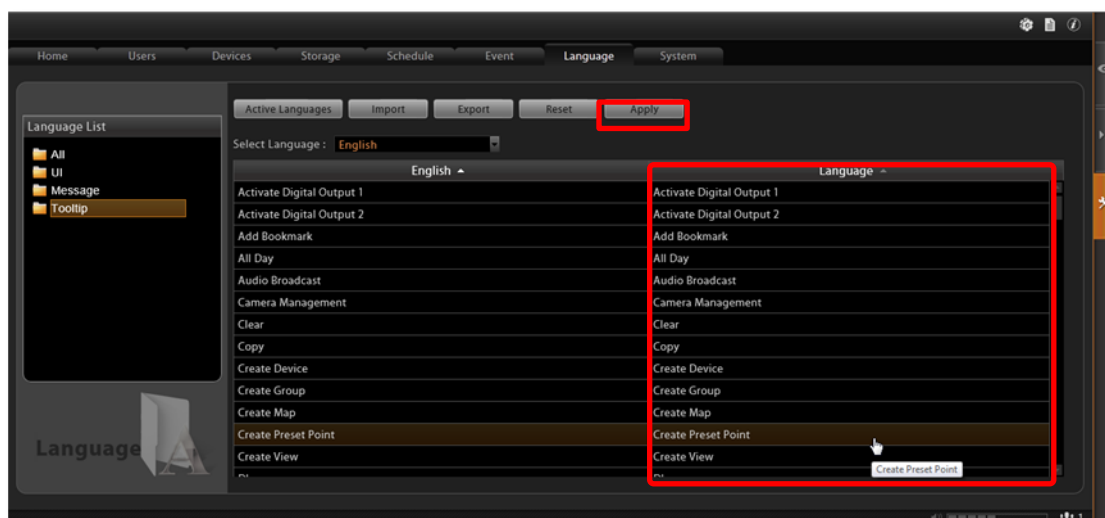
各言語ファイルには 4 つの編集可能な文字列表があります。各表には英語とターゲット言語に翻訳されたデフォルトの文字列が表示されます。

各表を表示するには：

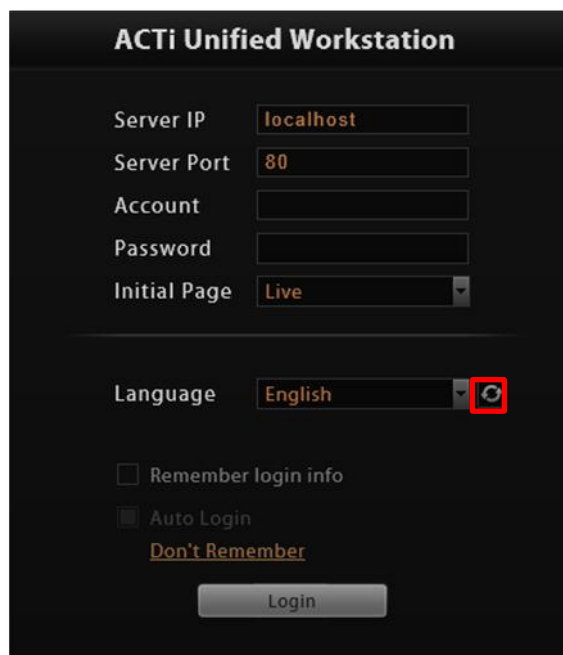
1. 「**Select Language - 言語の選択**」ドロップダウン リストから言語を選択してから、左側の欄で「**Language List - 言語リスト**」の一覧から表を選択します。



2. ターゲット言語が右側の欄に表示され、デフォルトのシステム言語である「**English - 英語**」が左側に参照用として表示されます。右側の欄の任意のフィールドをクリックして希望の文字列にカスタマイズし、「**Apply - 適用**」をクリックして現在の文字列を上書きします。

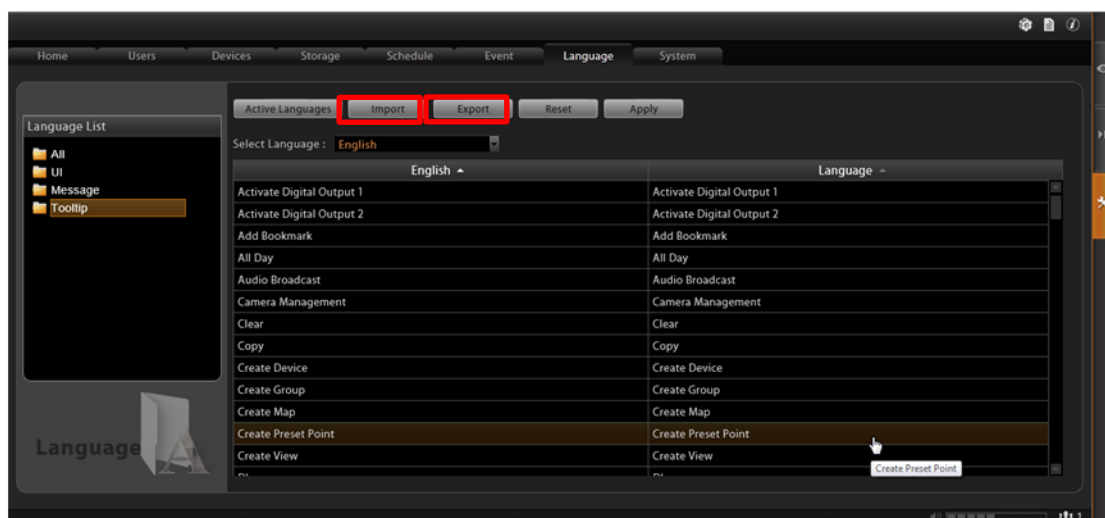


新しい文字列は次のログイン時に適用されます。 **NVR3 Workstation クライアント**としてログインする場合、**ログイン**  ページのボタンを押して最新の変更された言語ファイルと同期してから、システムにログインしてください。



言語文字列ファイルのエクスポート / インポート

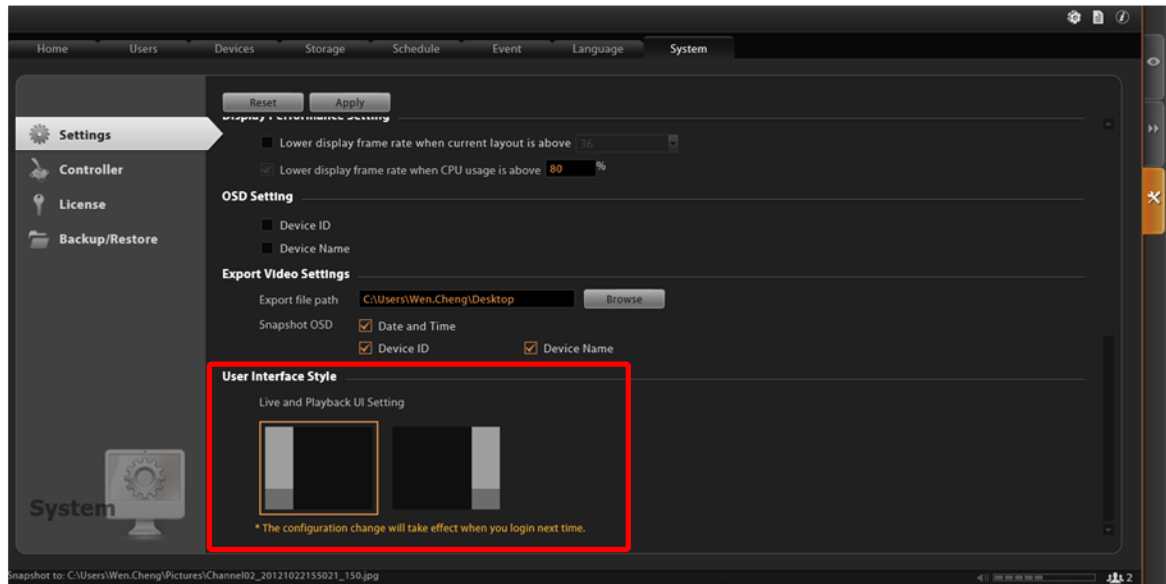
また、「**Export - エクスポート**」をクリックして言語ファイルを .xml 形式でエクスポートし、メモ帳で編集したり、「**Import - インポート**」をクリックしてシステムで使用する言語ファイルをインポートしたりすることもできます。



一般に、変更した言語表を別のファイル名でデフォルトのシステム言語フォルダー `C:\Program Files\ACTi Corporation\NVR3\Language` 以外の場所に保存し、それをインポートして使用することが推奨されます。 そうすることで、元の言語ファイルが上書きされないようにすることができます。

ディスプレイの設定

メイン画面とパネル/デバイス リストを右または左に配置することで、ユーザー インターフェイス スタイルを変更することができます。 **セットアップ** ページ→**システム** タブ→**設定**を開き、**ユーザー インターフェイス スタイル**のセクションで、設定スタイルを選択し、「**Apply - 適用**」をクリックします。 変更は次回のログイン時に表示されます。

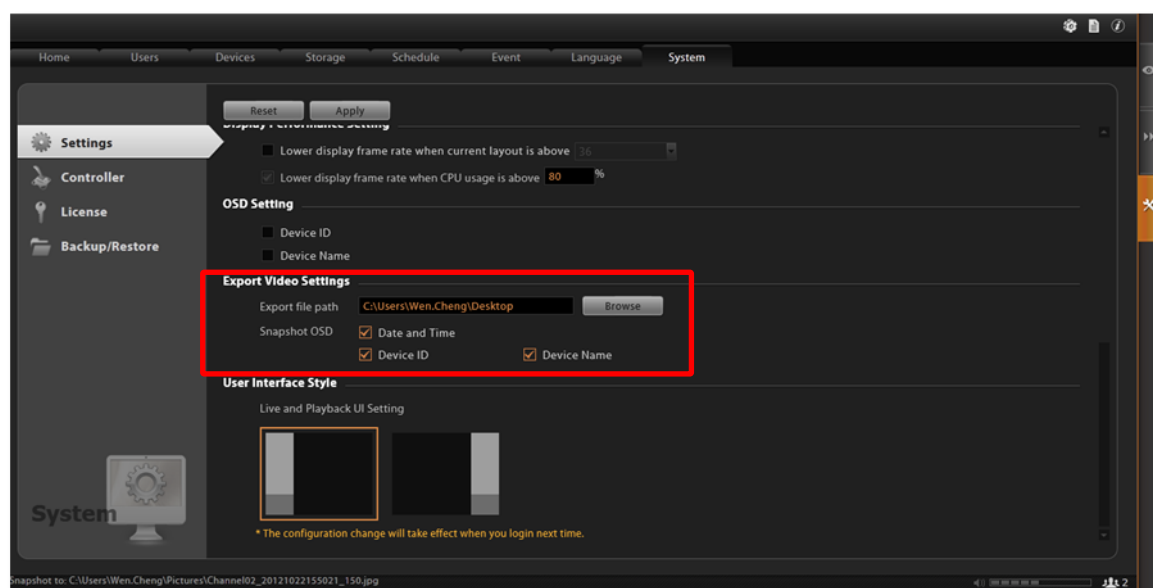


ビデオ & スナップショット エクスポートの設定

ユーザーがライブ ビューで撮ったスナップショットおよびすべてのエクスポートされたビデオ ファイルはデフォルトのファイル保存場所に保存されます。NVR サーバーで保存先を設定することができます。 **セットアップ** ページ→**システム** タブ→**設定**を開き、**エクスポートビデオの設定**セクションで、「**Browse - 参照**」をクリックしてエクスポート ファイルのパスを選択します。

また、日付と時刻、デバイス ID、デバイス名の項目をチェックして各スナップショット上にプリントする情報を定義することもできます。

これらの設定は「**Apply - 適用**」をクリックすると有効になります。



ジョイスティック

NVR 3.0 では、ユーザー インターフェース PTZ パネルおよびマウス操作のほか、物理コントローラで PTZ の動作を制御することもできます。NVR 3.0 は 2 種類のコントローラをサポートしており、いずれもジョイスティックとユーザーが特定の操作を割り当てることができる 12 のボタンを備えています。



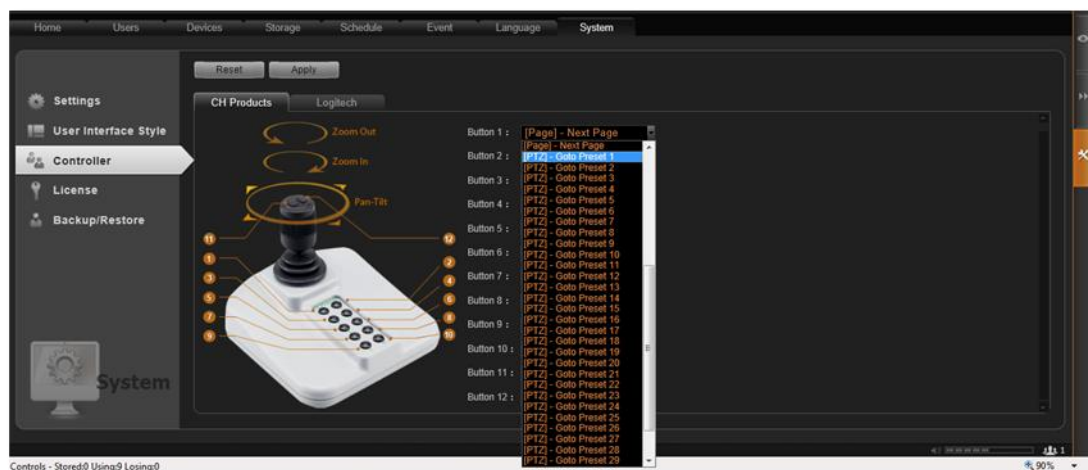
モデル : IP Desktop
メーカー : CH Products



モデル : Extreme™ 3D Pro
メーカー : Logitech

ジョイスティックのインストール方法

1. NVR サーバーからログアウトします。
 2. コントローラ デバイスをコンピュータに接続します。デバイスが適切にインストールされていることを確認するには、**Windows** スタート メニューから、デバイスとプリンターを開いてステータスを確認します。
- 
3. NVR サーバーにログインし、セットアップ ページ → システム タブを開いて「**Controller - コントローラ**」のセクションで製品を選択します。
 4. コントローラのボタン 1~12 にドロップダウン リストから特定のコマンドを割り当てることができます。設定を完了したら、「**Apply - 適用**」をクリックします。1 つのコントローラ モデルで行った変更は別のジョイスティックのモデルにも適用されます。



5. 機能の確認は、**ライブ ビュー** ページを開き、PTZ デバイス チャンネルを選択して対応する PTZ 操作を行います。

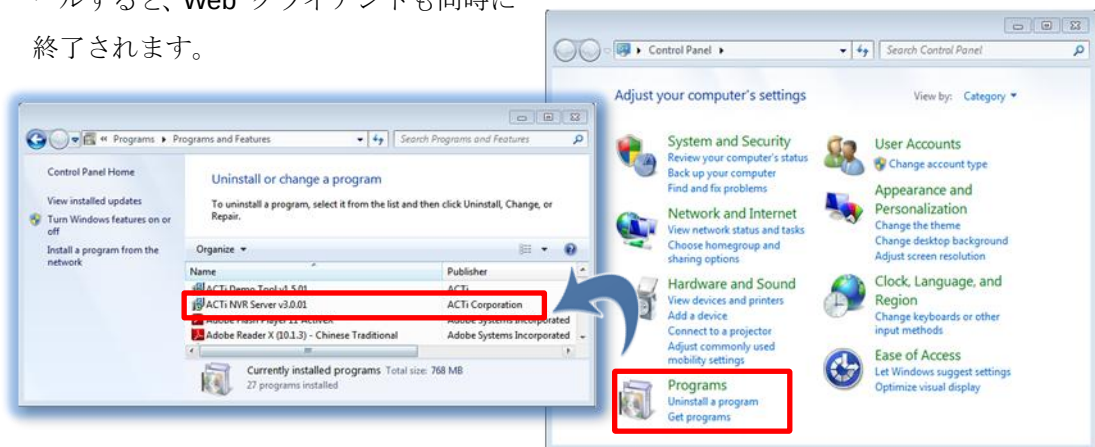
サーバー ソフトウェアのアンインストール

一部のケースで、NVR システムのアンインストールが必要な場合があります。例えば、(1) NVR サーバーの使用を終了し、プライバシーおよびセキュリティの理由ですべての証拠を消去したい場合、(2) インストールに失敗したため、システムを再インストールする必要がある場合などです。

アンインストールを開始する前に、まず重要なデータをバックアップし (システム データのバックアップ (101 ページ) を参照)、NVR サーバー インストール シールド アプリケーションを準備してください。この章では、アンインストールのプロセスについて説明します。

ステップ 1 : NVR 3.0 サーバー プログラムの削除

1. **Windows** コントロール パネル→ プログラムの追加と削除 (Windows サーバー 2003/Windows XP) または **プログラム**→ プログラムと機能 (Windows Vista /Windows 7/Windows 2008) を開き、削除します。NVR サーバー プログラムをアンインストールすると、**Web** クライアントも同時に終了されます。



2. 「**ACTi NVR サーバー v3.0.02**」プログラムのアンインストールを選択すると、アンインストールシールドが実行され、完了時に通知されます。

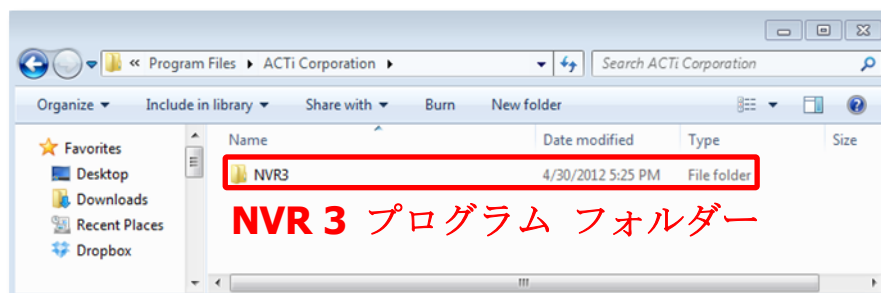


ステップ 2 : NVR 3.0 サーバー プログラム フォルダーの削除 (オプション)

NVR サーバー関連のデータを現在のコンピュータに残さずにアンインストールを完了したい場合、このフォルダーの削除を検討することができます。

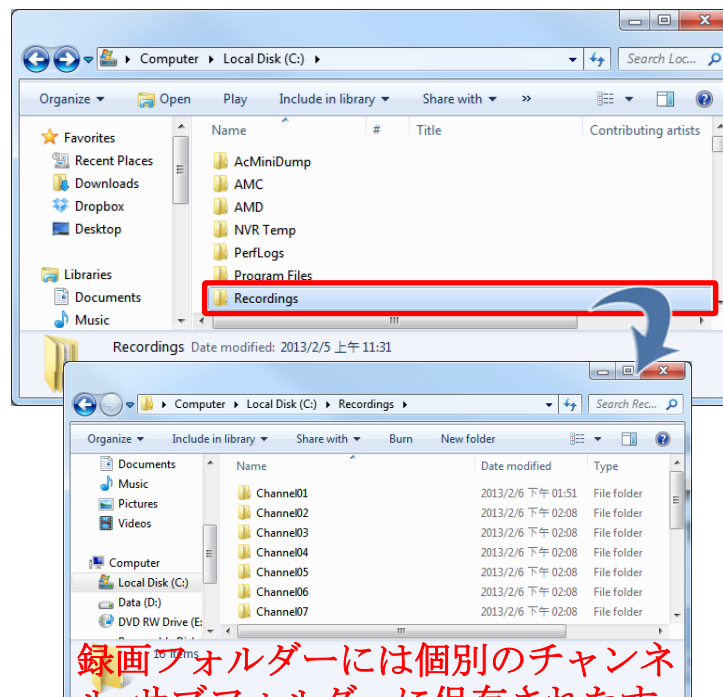
アンインストール後、**NVR3** システム フォルダーはハード ドライブの **ACTi** 製品フォルダー **ACTi Corporation** 内に残ります。この中のシステム設定データは手動で削除しないと削除されません。デフォルトで、**NVR3** システム フォルダーのパスは **C:\Program Files\ACTi Corporation** となっています。

ただし、このフォルダーを維持しておく、すぐに再インストールを行う場合、前のシステム設定を直接新しいサーバーに適用できるため便利です。



ステップ 3 : 録画フォルダーの削除 (オプション)

ストレージ ハード ドライブに録画されたビデオ ファイルを保存する録画フォルダー全体を削除します。 **セットアップ ページ** → **ストレージ タブ** → 「**Disk Drive List - ディスク ドライブ リスト**」から複数のストレージ ハード ドライブを選択した場合、サーバーは選択されたドライブそれぞれに録画フォルダーを生成している場合があります。フォルダーの名前を変更したり、場所を変更した場合は、正確なパスを見つけてください。



録画フォルダーには個別のチャンネル サブフォルダーに保存されたすべてのビデオの raw ファイルが含まれます。

システム データのバックアップ

NVR サーバーにダメージを与える予期せぬ災害や事故が発生した場合に備えるために、定期的なシステムのバックアップを行うことは常に推奨されます。このほか、(1) NVR サーバーのデータ全体を別のコンピュータに移行する、または (2) 現在のコンピュータに NVR サーバーを再インストールするために、オンデマンドのバックアップを実行する必要がある場合があります。NVR サーバー上のいくつかのデータ タイプは監視システムに不可欠なものです。目的を考慮に入れながら、次の指示に従い、それらのバックアップを作成してください。

定期バックアップ (システム設定のみ)

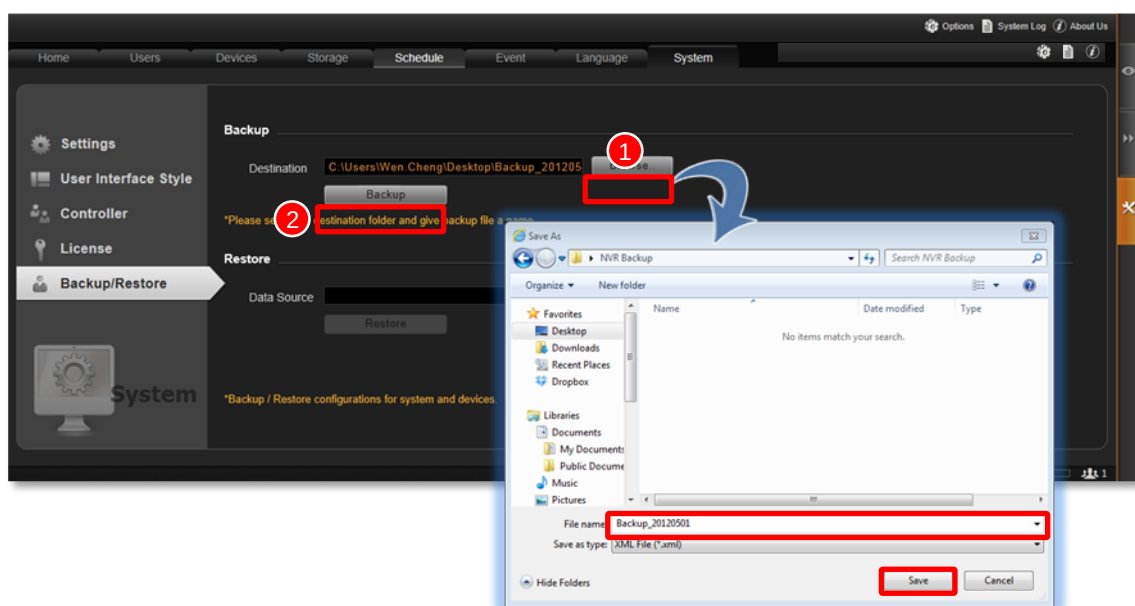
NVR サーバーは 1 クリックでシステム設定全体のバックアップ ファイルを作成できます。バックアップされる設定には、システムに設定された (1) ユーザー (2) デバイス (3) ストレージ (4) スケジュール (5) イベント (6) システム → 設定 / ユーザー インターフェイス スタイル / ジョイスティック、(7) ライブ ビュー ページの保存されたビューのプロパティが含まれます。

完全バックアップ (システム設定 + ビデオ ファイル)

システム設定のほか、組織によってはハード ドライブの録画に障害が発生した場合に備えて、ビデオ録画をバックアップしたい場合があります。録画ファイル (*raw) は再生ユーティリティ **Archive Player** でのみ再生できます。これは <http://www.acti.com/utility> からダウンロードできます。

ステップ 1: システム設定のバックアップ

1. セットアップ ページ → システム タブ → バックアップ / 復元
2. バックアップのセクションで、「Browse - 参照」をクリックしてバックアップ ファイルの保存先を選択します。ファイルは *Backup_YYYYMMDD.xml* ファイルとして保存されます。その後「Backup - バックアップ」をクリックしてファイルをエクスポートします。

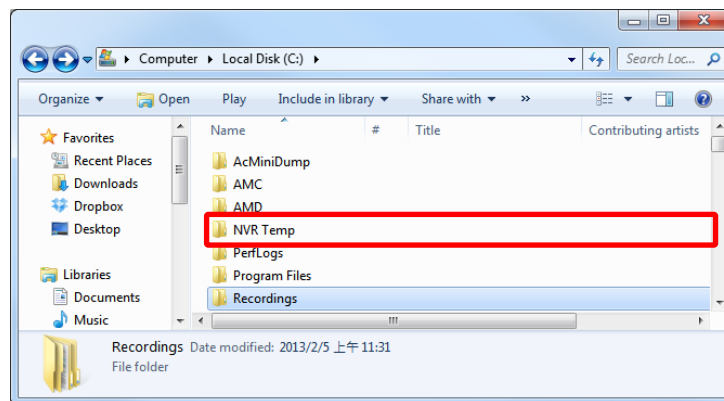


重要な注意事項

システム バックアップ ファイルにライセンス データは含まれません。 ご購入後に電子メールまたは印刷されたカードで提供されるライセンス キー情報を保管しておく必要があります。

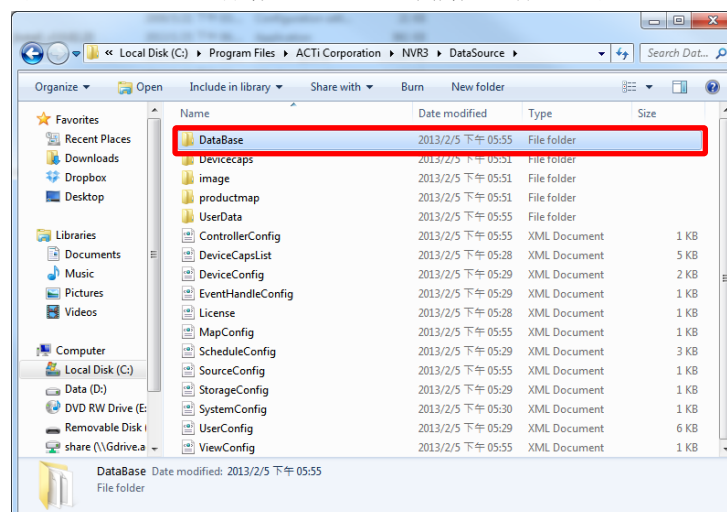
ステップ 2: 録画ファイル フォルダのバックアップ (オプション)

ストレージ ハード ドライブに録画されたビデオ ファイルを保存する録画フォルダ全体をバックアップします。 セットアップ ページ → ストレージ タブ → 「Disk Drive List - ディスク ドライブ リスト」から複数のストレージ ハード ドライブを選択した場合、サーバーは選択されたドライブそれぞれに録画フォルダを生成している場合があります。 フォルダの名前を変更したり、場所を変更した場合は、正確なパスを見つけてください。



ステップ 3: 録画ファイル インデックス フォルダのバックアップ (オプション)

このステップは 2 台のサーバー コンピュータ間での NVR 3.0 サーバー移行に必要です。録画ファイル インデックス フォルダには NVR サーバーが録画されたビデオ クリップを処理するために必要な重要ビデオ インデックス データが含まれます。サーバー プログラム フォルダ **ACTi Corporation\NVR3\DataSource** を入力し、**DataBase** フォルダ (録画ファイル インデックス データが保存されている場所) 全体をバックアップします。



ステップ 4: システム ログ (オプション)

システム ログにはユーザーが NVR サーバーにログインしている間に実行する操作が記録されます。最近 3 日間のシステム ログを *.csv ファイルとしてエクスポートし、バックア

ップすることができます。 方法については、このマニュアルのセクション ログのエクスポート (73 ページ) を参照してください。

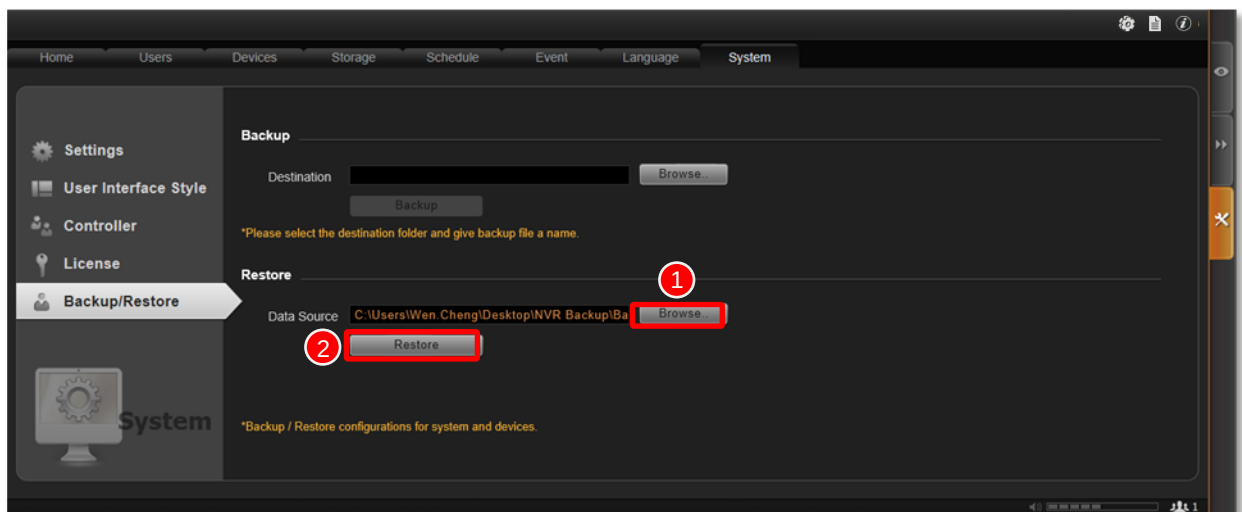
システム データの復元

システムの復元を開始する前に、次を行ったことを確認してください。

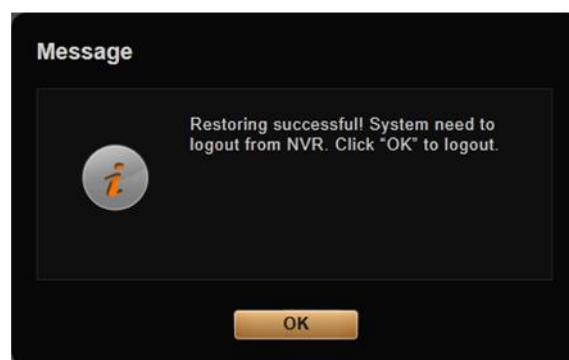
- (1) **ライセンスの再アクティベーション。** 前にアンインストールを実行しており、回復するチャンネル数が **16** を超える場合。 オンライン アクティベーション用の ライセンス キー情報 または オフライン アクティベーション用の アクティベーション ファイル (.lic) を用意して、ライセンスのアクティベーション (23 ページ) の指示に従ってライセンスを有効にしてください。 ライセンスされたチャンネルを復旧できるように、ライセンスは設定が復元される前に有効である必要があります。
- (2) バックアップ ファイル (.xml)。

開始するには、

1. セットアップ ページ → システム タブ → **バックアップ / 復元** を開きます
2. 復元のセクションで、「**Browse - 参照**」をクリックしてバックアップ ファイルを選択し、「**Restore - 復元**」をクリックして設定の復元を開始します。



3. 復元のプロセスで NVR サーバーからログアウトする必要があります。 復元を終えたら、以前のユーザー アカウントのプロパティを使用してログインできます。



システムの移行

より新しいバージョンでサポートされる機能を使用するために NVR サーバーをアップグレードする、または現在のサーバー コンピュータを置き換える必要がある場合、NVR サーバー システムの移行が必要です。移行プロセスは、バックアップ、アンインストール、インストール、復元を含む一連のさまざまな手順が必要であり、重要なデータの損失を防ぐためにはそれらが慎重に実行される必要があります。移行を開始する前に必要な手順の指示を確認してください。この章では安全な移行プロセスを管理するための手順を説明します。

NVR 2.3 から NVR 3.0 への移行

NVR 3.0 サーバーのデータベース構造は以前の ACTi NVR システムのそれと異なります。このため、NVR 2.3 サーバーで作成されたバックアップ ファイルやビデオ ファイルは NVR 3.0 サーバーで互換性がありません。

ACTi は NVR 2.3.03 から NVR 3.0 での復元用のシステム設定バックアップを直接作成するためのバックアップ コンバータ ユーティリティを用意しています。これにより、1 つのバックアップ ファイルでサーバー設定全体を NVR 3.0 システムに直接移すことができます。

したがって、現在 ACTi NVR 2.X サーバー製品 (Enterprise または Professional) をご利用の場合、2.3.03 移行のバージョンにアップグレードしてください。パッチは http://www.acti.com/product/detail/Video_Management_System/NVR_Enterprise からダウンロードできます。

NVR 2.3 と NVR 3.0 サーバーのデータ互換性

データ タイプ	互換性	説明
ライセンス データ	X	NVR 2.3 サーバー用のライセンス キーは NVR 3.0 に対応していません。NVR 3.0 で 16 チャンネルを超えるチャンネルを使用する必要がある場合、システム プロバイダーに新しいライセンス キーのご購入についてお問い合わせください。
システムの設定	V	ユーティリティ Config Convertor を ACTi 社の Web サイトからダウンロードし、それを使用して NVR 2.3 サーバーからシステム設定を NVR 3.0 互換ファイルにエクスポートします。ユーザー、デバイス、ストレージ、スケジュール、イベント、システムに関する設定をバックアップ ファイルとしてエクスポートできます。ユーティリティは、次の場所からダウンロードできます。 http://www.acti.com/utility
録画ファイル	X	NVR 2.3 サーバーによって録画された個別のビデオ ファイルは NVR 3.0 サーバーで再生することができません。これら録画のコピーを作成し、再生ユーティリティ Archive Player を使用してそれらを再生してください。これは http://www.acti.com/utility からダウンロードできます。

移行を行う前に、次のデータをご用意ください。(1) NVR 3.0 インストール シールド アプリケーション ファイル、(2) NVR 3.0 ライセンス キー、(3) **Config Converter** で作成した NVR 2.3 サーバー バックアップ ファイル (.xml)。

開始するには、

1. サーバー およびワークステーション プログラムを含むすべての NVR 2.3 コンポーネントをアンインストールしてから、コンピュータを再起動します。（このステップは NVR 2.3 サーバーがあるサーバー コンピュータと同じマシンに NVR 3.0 サーバーをインストールする場合に必要です。**NVR 2.3 サーバー**と **NVR 3.0 サーバー**はシステム干渉が生じるため同一のコンピュータ上に共存できません）。
2. NVR 3.0 サーバーをインストールします。（サーバーのインストール（18 ページ）参照）
3. NVR 3.0 ライセンスを有効にします（ライセンスおよびアクティベーション（21 ページ）参照）。
4. バックアップ ファイル (.xml) でシステム設定を復元します。（システム データの復元（103 ページ）参照）

別のサーバー コンピュータへの NVR 3.0 の移行

2 台のコンピュータ間での NVR 3.0 サーバーの移行については、ACTi ライセンス データサーバー上の以前のアクティベーション記録をリセットし、別の MAC アドレスでこのライセンス キーを使用して再度アクティベーションを行うことができるようにする必要があるため、必ず ACTi カスタマー ヘルプ デスクにご連絡ください。

移行を行う前に、次のデータをご用意ください。(1) NVR 3.0 インストール シールド アプリケーション ファイル、(2) NVR 3.0 ライセンス キーまたはアクティベーション ファイル (.lic)、(3) NVR 3.0 サーバー バックアップ ファイル (.xml)。(4) 前の NVR 3.0 録画フォルダーと、(5) NVR 3.0 録画インデックス ファイル フォルダのコピーを作成したことを確認してください。

開始するには、

1. 新しいサーバー コンピュータに NVR 3.0 サーバーをインストールします（サーバーのインストール（18 ページ）参照）。
2. NVR 3.0 ライセンスを新しいサーバー コンピュータで有効にします（ライセンスおよびアクティベーション（21 ページ）参照）。
3. バックアップのロックがフォルダー全体をストレージ ハード ドライブにコピーします（システム データのバックアップ（101 ページ）参照）。
4. バックアップの **DataBase** フォルダー全体をサーバー コンピュータ上の **ACTi Corporation\DataSource** フォルダー（デフォルトのパス：C:\Program Files\ACTi Corporation\NVR3\DataSource\）にコピーします（システム データのバックアップ（101 ページ）参照）。同じフォルダー名の既存のフォルダーを置き換えます。
5. バックアップ ファイルでシステム設定を復元します（システム データの復元（103 ページ）参照）。
6. 前のコンピュータ上の NVR 3.0 サーバーをアンインストールして重要なファイルを必要に応じて削除してください（サーバー ソフトウェアのアンインストール（99 ページ）参照）。